

第 43 回 「県民健康調査」 検討委員会 次第

日 時： 令和 3 年 10 月 15 日（金） 13:30～16:00

場 所： ザ・セレクトン福島 西館 3 階「安達太良」

1 開 会

2 委員紹介

3 座長選出

4 議 事

(1) 妊産婦に関する調査について

(2) 甲状腺検査について

(3) 「県民健康調査」検討委員会部会について

(4) その他

5 閉 会

配付資料一覧

- 次第・配付資料一覧
- 「県民健康調査」検討委員会 設置要綱及び運営要領
- 「県民健康調査」検討委員会 委員名簿
- 出席者名簿・座席表

資料 1-1	平成 24 年度「妊産婦に関する調査」回答者に対する 2 回目フォローアップ調査中間結果報告
資料 1-2	県民健康調査「妊産婦に関する調査」のフォローアップ調査について（案）
資料 1-3	令和 3 年度「妊産婦に関する調査」実施計画（案）
資料 1-4	令和 3 年度「妊産婦に関する調査」フォローアップ調査（追跡調査）調査票等（案）
資料 2-1	県民健康調査「甲状腺検査【本格検査（検査 4 回目）】」実施状況（令和 3 年 6 月 30 日現在）
資料 2-2	県民健康調査「甲状腺検査【本格検査（検査 5 回目）】」実施状況（令和 3 年 6 月 30 日現在）
資料 3	「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」の検討事項（案）
参考資料 1	（第 39 回検討委員会資料）県民健康調査「妊産婦に関する調査」について
参考資料 2	（第 41 回検討委員会資料）平成 23 年度「妊産婦に関する調査」回答者に対する 2 回目フォローアップ調査結果報告
参考資料 3	県民健康調査「甲状腺検査【25 歳時の節目の検査】」実施状況（令和 3 年 3 月 31 日現在） ※第 42 回県民健康調査検討委員会資料 5-6 訂正
参考資料 4	甲状腺検査結果の状況

「県民健康調査」検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、もって、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的として、福島県が実施する「県民健康調査（以下、「調査」という。）」に関し、専門的見地から広く助言等を得るために、「県民健康調査」検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事項を所掌する。

- (1) 調査の実施方法等の検討に関すること。
- (2) 調査の進捗管理及び評価に関すること。
- (3) その他、調査の実施に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、知事が指名する有識者により構成する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、任期期間中において、新たに指名された委員の任期は、他の委員と同じとする。
- 3 委員は、再任されることができる。
- 4 委員会に座長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 5 座長は、委員会の会務を総理する。
- 6 委員会に座長代行を置き、座長がこれを指名する。
- 7 座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、座長代行が、その職務を代理する。

(運営)

第4条 委員会の会議は、座長が招集する。ただし、委員の任期満了に伴い新たに組織された委員会の最初に開催される会議は、知事が招集する。

- 2 座長は、委員会の会議の議長となる。
- 3 座長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(部会)

第5条 委員会は、専門的な事項について検討をするため、部会を設置することができる。部会の設置に必要な事項については知事が別に定める。

(事務局)

第6条 委員会の庶務を処理するため、福島県保健福祉部健康衛生総室に委員会の事務局を置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年5月19日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成25年4月17日から施行する。
- 2 この要綱の施行日以後最初の指名があるまでの間、委員の任期は、改正後の要綱第3条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

「県民健康調査」検討委員会運営要領

(趣旨)

第1条 この要領は、「県民健康調査」検討委員会設置要綱（以下、「要綱」という。）第7条の規定に基づき、「県民健康調査」検討委員会（以下、「委員会」という。）の運営について、必要な事項を定めるものとする。

(開催)

第2条 委員会は、定例会及び臨時会として開催する。

- 2 定例会は、年4回（概ね5月、8月、11月、2月）開催する。
- 3 臨時会は、前項の定例会開催以外に座長が必要と認めた場合に開催するものとする。
- 4 委員会の開催にあたっては、緊急の場合を除き、開催日の属する週の2週前の金曜日までに、報道機関への資料提供、県政情報センター、福島県ホームページに掲示することにより周知を行う。

(公開)

第3条 委員会は、原則として公開するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、議長が会議に諮って、全部又は一部を公開しないことができる。

- (1) 委員会において、福島県情報公開条例（平成12年福島県条例第5号）第7条各号に定める不開示事由に該当する情報（以下、「不開示情報」という。）に関し審議を行う場合
 - (2) 委員会を公開することにより、公正又は円滑な議事運営に著しい支障が生じると認められる場合
- 2 全部又は一部を公開しないとした場合のオブザーバーの取扱については、議長が会議に諮って決定する。

(資料)

第4条 委員会の資料は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き原則として公開するものとする。

- (1) 福島県情報公開条例第7条各号に定める不開示事由に該当する情報に関する資料
- (2) 前条第1項第2号において使用した資料（ただし、委員会において公開することとしたものを除く）
- (3) 計数が確定していない資料等公開することが適当でない資料

(議事録)

第5条 委員会を開催した場合は、議事録を作成する。

- 2 議事録は、事務局で案を作成し、議長が委員会指名した2名の議事録署名人の確認を得る。
- 3 議事録は、作成後すみやかに福島県ホームページに掲示し公開する。
- 4 前項の場合において、委員会の全部又は一部を公開せずに行った審議の内容については、議事録の内容に代えて、次の事項を記載する。
 - (1) 委員会の全部又は一部を公開せずに開催した理由
 - (2) 審議の概要
 - (3) 審議において使用した資料の名称

附 則

この要領は、平成25年4月18日から施行する。

附則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

「県民健康調査」検討委員会 委員名簿

50音順 ・ 敬称略

氏名	現職
いなば としや 稲葉 俊哉	国立大学法人 広島大学 原爆放射線医科学研究所 がん分子病態研究分野 教授
おさき こうたろう 小笹 晃太郎	公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部長
かみの た まさひろ 神ノ田 昌博	環境省 大臣官房環境保健部長
さいとう ようこ 齋藤 陽子	国立大学法人 弘前大学 大学院保健学研究科 科長
さとう かつひこ 佐藤 勝彦	一般社団法人 福島県病院協会 会長
しぶさわ さかえ 澁澤 栄	国立大学法人 東京農工大学 卓越リーダー養成機構 特任教授 (日本学術会議 推薦)
すとう やすひろ 須藤 康宏	福島県臨床心理士会 会長
たかはし しょう 高橋 晶	国立大学法人 筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学 准教授 (一般社団法人日本トラウマティック・ストレス学会 推薦)
たかむら のぼる 高村 昇	国立大学法人 長崎大学 原爆後障害医療研究所 国際保健医療福祉学研究分野 教授
とみた てつ 富田 哲	国立大学法人 福島大学 教育推進機構 特任教授
なかやま とみお 中山 富雄	国立研究開発法人 国立がん研究センター 社会と健康研究センター検診研究部 部長
ひしぬま あきら 菱沼 昭	獨協医科大学 感染制御・臨床検査医学 教授 (日本甲状腺学会 推薦)
ほし ほと 星 北斗	一般社団法人 福島県医師会 副会長
ほりかわ あきひと 堀川 章仁	一般社団法人 双葉郡医師会 会長
むろつき じゅん 室月 淳	地方独立行政法人 宮城県立こども病院 産科科長 (公益社団法人日本産科婦人科学会 推薦)
もりたけ たかし 盛武 敬	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 放射線医学研究所 放射線規制科学研究部 上席研究員
やまざき よしひさ 山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター 非常勤医師 (公益社団法人日本小児科学会 推薦)
よしだ あきら 吉田 明	公益財団法人 神奈川県予防医学協会 婦人検診部 部長 (一般社団法人日本内分泌外科学会 推薦)

【任期】令和3年8月1日～令和5年7月31日まで

第43回「県民健康調査」検討委員会 出席者名簿

令和3年10月15日

○委員

50音順、敬称略

氏名	所属及び職名	出欠
稲葉 俊哉	国立大学法人 広島大学 原爆放射線医科学研究所 がん分子病態研究分野 教授	出席 [※]
小笹 晃太郎	公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部長	出席 [※]
神ノ田 昌博	環境省 大臣官房環境保健部長	出席 [※]
齋藤 陽子	国立大学法人 弘前大学 大学院保健学研究科 科長	出席 [※]
佐藤 勝彦	一般社団法人 福島県病院協会 会長	出席
澁澤 栄	国立大学法人 東京農工大学 卓越リーダー養成機構 特任教授 (日本学術会議 推薦)	欠席
須藤 康宏	福島県臨床心理士会 会長	出席
高橋 晶	国立大学法人 筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学 准教授 (一般社団法人日本トラウマティック・ストレス学会 推薦)	出席 [※]
高村 昇	国立大学法人 長崎大学 原爆後障害医療研究所 国際保健医療福祉学研究分野 教授	欠席
富田 哲	国立大学法人 福島大学 教育推進機構 特任教授	出席
中山 富雄	国立研究開発法人 国立がん研究センター 社会と健康研究センター検診研究部 部長	出席 [※]
菱沼 昭	獨協医科大学 感染制御・臨床検査医学 教授 (日本甲状腺学会 推薦)	出席 [※]
星 北斗	一般社団法人 福島県医師会 副会長	出席
堀川 章仁	一般社団法人 双葉郡医師会 会長	出席 [※]
室月 淳	地方独立行政法人 宮城県立こども病院 産科科長 (公益社団法人日本産科婦人科学会 推薦)	出席 [※]
盛武 敬	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 放射線医学研究所 放射線規制科学研究部 上席研究員	出席 [※]
山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター 非常勤医師 (公益社団法人日本小児科学会 推薦)	出席 [※]
吉田 明	公益財団法人 神奈川県予防医学協会 婦人検診部 部長 (一般社団法人日本内分泌外科学会 推薦)	出席 [※]

※付きの出席者はウェブでの出席

平成 24 年度「妊産婦に関する調査」回答者に対する 2 回目フォローアップ調査中間結果報告

1 調査概要

(1) 目的

平成 24 年度調査回答者への 2 回目のフォローアップ調査及び支援を実施し、震災時に妊産婦であった方々の継続的な支援を行う。

(2) 経緯

妊産婦調査では、震災後の調査回答者は、特にうつ傾向の割合が高かったことから、育児に自信が無いと感じる母親が増加する時期の出産 4 年後にあたる平成 27 年度（平成 23 年度調査回答者）から平成 30 年度（平成 26 年度調査回答者）までフォローアップ調査を実施してきた。

平成 23 年度及び平成 24 年度調査回答者は、放射線に関する不安が強く、うつ傾向が高い状態であり、フォローアップ調査でも同様の傾向がみられたため震災時の影響が懸念された。

一方、平成 25 年度及び平成 26 年度調査回答者は、育児に関する一般的な悩みが多く、フォローアップ調査では、うつ傾向の割合が減少していた。このことから、令和元年度及び令和 2 年度調査においては、平成 27 年度及び平成 28 年度調査回答者に対する 4 年後のフォローアップ調査を行うことに替え、平成 23 年度及び平成 24 年度調査回答者への 2 回目のフォローアップ（及び支援）を実施した。

(3) 対象者

平成 24 年度調査の回答者（流産、中絶、死産を除く）のうち、市町村への照会により母子ともに居住が確認された 5,152 人

[参考]

実施年度	フォローアップ 発送回数	対象者	対象者数
平成 27 年度	1 回目	平成 23 年度調査回答者	7,252 人
平成 28 年度		平成 24 年度調査回答者	5,602 人
平成 29 年度		平成 25 年度調査回答者	5,734 人
平成 30 年度		平成 26 年度調査回答者	5,856 人
令和元年度	2 回目	平成 23 年度調査回答者	6,643 人
令和 2 年度		平成 24 年度調査回答者	5,152 人

(4) 実施方法

ア 調査票：自記式調査票（ハガキ）

イ 調査票送付日：令和 3 年 1 月 15 日

ウ 調査回答方法：郵送及びオンライン

※オンライン回答期間は、令和 3 年 1 月 15 日から令和 3 年 4 月 30 日

(5) 調査項目

調査項目は以下のとおり。その他、自由記載欄あり。

お子様の人数（ ）人

一番下のお子様の年齢（ ）歳（ ）カ月

問 1 あなたはふだんご自分で健康だと思いますか？

非常に健康だと思う まあ健康な方だと思う あまり健康ではない 健康ではない

問 2 ここ最近 1 ケ月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか？

はい いいえ

問 3 ここ最近 1 ケ月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは、心から楽しめない感じがよくありましたか？

はい いいえ

問4 子育てに自信がもてないことがありますか？

はい いいえ 何ともいえない

問5 放射線の影響について不安なこと全ての□に✓を記入してください。

水 食品 子どもの外遊び 子どもの健康 偏見 遺伝的な影響 その他

問6 お子様はこれまでに入院された病気はありましたか？

はい（病名： ） いいえ

問7 お子様のことで心配なこと全ての□に✓を記入してください。

こころと身体の発達 病気 生活習慣 学校生活 その他

(6) 集計対象期間

令和3年1月15日から令和3年6月30日の回答

[参考]

実施年度	調査名	集計対象期間 (オンライン回答受付期間)
平成27年度	平成23年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H23対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成27年9月14日～平成28年5月31日 (オンライン回答は行っていない)
平成28年度	平成24年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H24対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成28年11月22日～平成29年6月30日 (平成28年11月22日～平成29年6月30日)
平成29年度	平成25年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H25対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成30年1月12日～8月31日 (平成30年1月12日～4月30日)
平成30年度	平成26年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H26対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成31年1月11日～令和元年8月31日 (平成31年1月11日～4月30日)
令和元年度	平成23年度調査回答者に対する2回目フォローアップ調査 (以下「H23対象者2回目フォローアップ調査」という。)	令和2年1月10日～令和2年8月31日 (令和2年1月10日～4月30日)
令和2年度	平成24年度調査回答者に対する2回目フォローアップ調査 (以下「H24対象者2回目フォローアップ調査」という。)	令和3年1月15日～令和3年6月30日 (令和3年1月15日～4月30日) ※最終結果の集計対象期間は 令和3年8月31日までの予定

2 集計結果概要

集計結果は、『5 平成24年度対象者2回目フォローアップ調査中間結果集計(1)、(2)、(3)』のとおり。なお、各項目に欠損値があるため、合計は有効回答者数と一致しない場合がある。

(1) 中間回答数及び回答率について（参照：表1）

平成24年度対象者2回目フォローアップ調査の中間回答者数（回答率）は2,171人（42.1%）であった。集計対象とした有効回答者数は2,171人であった（無効回答者数0人）。そのうち、オンライン回答者数（回答率）は901人（41.5%）であった。

[参考]

実施年度	調査名	回答者数（人）			
		全体	回答方法の内訳		
		回答者数 (回答率)	郵送	オンライン	全回答のうち オンライン回答の 占める割合
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,554 人 (35.2%)	2,554	-	-
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,021 人 (36.1%)	1,719	302	14.9%
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,706 人 (47.2%)	2,062	644	23.8%
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,719 人 (46.4%)	1,951	768	28.2%
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	2,354 人 (35.4%)	1,641	713	30.3%
令和 2 年度	H24 対象者 2 回目 フォローアップ調査	2,171 人 (42.1%)	1,270	901	41.5%

(2) 地域別中間回答者数について（参照：表 1）

平成 24 年度対象者 2 回目フォローアップ調査の中間回答者数（回答率）を地域別にみると、
 県北地域 710 人（51.4%）、県中地域 578 人（39.6%）、県南地域 153 人（38.3%）、相双地域 106
 人（34.0%）、いわき地域 351 人（36.7%）、会津地域 247 人（41.9%）、南会津地域 26 人（48.1%）
 であった。

[参考]

実施年度	調査名	地域別回答者数（人） （地域別回答率：%）						
		県北	県中	県南	相双	いわき	会津	南会津
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	679 (38.7)	721 (32.7)	168 (34.1)	256 (34.9)	434 (35.9)	271 (34.5)	25 (34.7)
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	675 (45.3)	508 (32.2)	165 (36.4)	113 (30.5)	330 (32.5)	212 (33.4)	18 (29.0)
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	770 (49.4)	716 (47.1)	204 (44.0)	192 (46.6)	479 (46.0)	315 (46.9)	30 (44.1)
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	753 (51.5)	815 (45.8)	194 (45.9)	175 (41.8)	480 (46.7)	281 (40.5)	21 (38.9)
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	655 (40.4)	639 (31.2)	125 (28.7)	181 (30.4)	447 (38.9)	281 (38.7)	26 (37.7)
令和 2 年度	H24 対象者 2 回目 フォローアップ調査	710 (51.4)	578 (39.6)	153 (38.3)	106 (34.0)	351 (36.7)	247 (41.9)	26 (48.1)

(3) 母親のメンタルヘルスについて（参照：表 4～7）

ア 主観的健康感の悪い（「あまり健康ではない」または「健康ではない」と答えた母親の割合は 9.4%であった。4 年前の H24 対象者 1 回目フォローアップ調査では、9.3%であった。
 （問 1）

[参考]

	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時	通常調査時
平成 23 年度 対象者	9.8%	9.6%	該当設問なし
平成 24 年度 対象者	9.4%	9.3%	3.8%
平成 25 年度 対象者	-	7.9%	3.7%
平成 26 年度 対象者	-	7.9%	3.9%

イ うつ傾向ありと判定された母親の割合は27.2%であった。4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査では、25.7%であった。(問2、問3)

[参考]

調査名	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時	通常調査時
平成23年度 対象者	24.3%	25.6%	27.1%
平成24年度 対象者	27.2%	25.7%	25.5%
平成25年度 対象者	-	23.5%	24.5%
平成26年度 対象者	-	22.5%	23.4%

参考値：平成22年度幼児健康度調査によると、満1歳から7歳未満（就学前児）の母親で精神的に快調とは言い切れない割合は21.8%であった。

(4) 家庭と育児の状況について（参照：表8）

育児の自信がもてないことがあると回答した割合は18.8%であった。4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査では、18.2%であった。(問4)

[参考]

調査名	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時	通常調査時
平成23年度 対象者	19.1%	15.8%	該当設問なし
平成24年度 対象者	18.8%	18.2%	15.4%
平成25年度 対象者	-	16.7%	17.5%
平成26年度 対象者	-	17.7%	16.6%

参考値：平成22年度幼児健康度調査によると、満1歳から7歳未満（就学前児）の幼児の育児に自信がもてないことがあると回答した割合は23.0%であった。

(5) 放射線の影響への不安について（参照：表9）

放射線の影響への不安なことについて、項目にひとつでもチェックした方の割合は84.0%であった。放射線の影響への不安にチェックをした方の中で、「子どもの健康」について不安があると回答した割合は62.7%であった。(問5)

[参考]

調査名	放射線の影響への不安について、 ひとつでもチェックした割合		放射線の影響への不安にチェックをした 方の中で「子どもの健康」に不安が あるにチェックした割合	
	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時
平成23年度 対象者	87.2%	94.2%	68.1%	79.5%
平成24年度 対象者	84.0%	90.9%	62.7%	68.7%
平成25年度 対象者	-	87.5%	-	66.3%
平成26年度 対象者	-	85.4%	-	63.3%

(6) 出産した子どもの健康状態・不安について（参照：表 10-1～10-2、表 11）

ア これまでに入院を要した病気にかかったことがある割合は 27.2%であった。入院時の主な疾患は肺炎、RS ウイルス感染症、気管支炎、川崎病などであった。（問 6）

[参考]

調査名	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時
平成 23 年度 対象者	26.5%	24.7%
平成 24 年度 対象者	27.2%	24.4%
平成 25 年度 対象者	-	23.7%
平成 26 年度 対象者	-	25.3%

イ お子様のことで心配なことについて、ひとつでもチェックした方の割合は 72.5%であった。（問 7）

[参考]

調査名	子どものことで心配なことについて、ひとつでもチェックした割合		「こころと身体の発達」にチェックした割合		「病気」にチェックした割合	
	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時
平成 23 年度 対象者	68.8%	70.8%	50.8%	56.1%	34.3%	57.6%
平成 24 年度 対象者	72.5%	66.9%	52.1%	56.9%	26.7%	45.5%
平成 25 年度 対象者	-	61.2%	-	57.4%	-	40.4%
平成 26 年度 対象者	-	63.4%	-	56.9%	-	38.7%

(7) 自由記載内容について（参照：表 12-1～12-2）

自由記載欄の記載者数（記載割合）は 247 人（11.4%）であった。記載内容を分類したところ、主な自由記載内容は、「コロナ関係」、「この調査への賛同」、「育児相談」であった。

[参考]

実施年度	調査名	自由記載の記載者数 (記載割合)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成27年度	H23 対象者1回目 フォローアップ調査	383人 (15.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 53(13.8%)	この調査への賛同 47(12.3%)	この調査への意見・苦情 44(11.5%)	放射線についての情報発信や調査結果の公表の要望 37(9.7%)	甲状腺検査への要望 23(6.0%)
平成28年度	H24 対象者1回目 フォローアップ調査	186人 (9.2%)	この調査への賛同 33(17.7%)	この調査への意見・苦情 24(12.9%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 23(12.4%)	育児相談 17(9.1%)	育児支援サービスの充実の要望 14(7.5%)
平成29年度	H25 対象者1回目 フォローアップ調査	208人 (7.7%)	この調査への賛同 36(17.3%)	この調査への意見・苦情 25(12.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 24(11.5%)	本人の精神的不調の訴え 16(7.7%)	育児支援サービスの充実の要望 15(7.5%)
平成30年度	H26 対象者1回目 フォローアップ調査	198人 (7.3%)	この調査への賛同 42(21.2%)	この調査への意見・苦情 26(13.1%)	育児相談 17(8.6%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 14(7.1%)	育児支援サービスの充実の要望 14(7.1%)
令和元年度	H23 対象者2回目 フォローアップ調査	304人 (12.9%)	育児相談 82(27.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 53(17.4%)	本人の身体的不調の訴え 36(11.8%)	この調査への賛同 28(9.2%)	本人の精神的不調の訴え 26(8.6%)
令和2年度	H24 対象者2回目 フォローアップ調査	247人 (11.4%)	コロナ関係 53(21.5%)	この調査への賛同 47(19.0%)	育児相談 44(17.8%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 37(15.0%)	本人の精神的不調の訴え 30(12.1%)

(8) まとめ

平成24年度対象者2回目フォローアップ調査では、うつ傾向の割合は8年前の平成24年度調査、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査と比べて、経年的に増加傾向を示した。

また、1回目フォローアップ調査と比べて、子どものことで心配の割合は増加し、主観的健康感の悪い方の割合は同様であり、放射線の影響への不安の割合については減少した。

ア 回答率は42.1%であり、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査を上回った。

イ 主観的健康感の悪い方（あまり健康ではない、健康ではない）の割合は9.4%であり、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査と同様であった。

ウ うつ傾向は27.2%であり、8年前の平成24年度調査、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査と比べて、経年的に増加傾向を示した。また、昨年度のH23対象者2回目フォローアップ調査を上回った。

エ 放射線の影響への不安について、ひとつでもチェックした方の割合は84.0%であり、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査を下回った。また、昨年度のH23対象者2回目フォローアップ調査を下回った。

オ お子様のことで心配なことについて、ひとつでもチェックした方の割合は72.5%であり、4年前のH24対象者1回目フォローアップ調査を上回った。また、昨年度のH23対象者2回目フォローアップ調査を上回った。心配の内容としては、「こころと身体の発達」の割合が最も高かった（52.1%）。

カ 自由記載ありの割合は11.4%であり、「コロナ関係」に次いで、「この調査への賛同」や「育児相談」が多くみられた。

3 支援概要

(1) 支援目的

平成24年度対象者2回目フォローアップ調査の回答者のうち、相談・支援の必要があると判断された方に、助産師・保健師等による電話・メールによる相談・支援を実施することにより不安等を軽減させること。

(2) 要支援対象者（参照：表13）

平成24年度対象者2回目フォローアップ調査回答者のうち、電話による相談・支援が必要だと判断された方（以下「要支援者」という。）

(3) 支援選定基準（参照：表14）

下記のア、イいずれかに該当する方

ア 調査票のうつ2項目に該当のある方（問2、問3）

イ 自由記載内容により支援が必要と判断された方（自由記載欄、その他の項目の記載内容）

例：落ち込みの激しい書き込みがあった方、育児支援を必要としている方、放射線の数値について気にしている方、体調不良を訴えている方、直接的要望・具体的に回答を希望している方、支援要望のあった方など

(4) 方法

電話やメールによる相談・支援

4 支援結果概要

支援結果は、『5 平成 24 年度対象者 2 回目フォローアップ調査中間結果集計 (4) 支援状況』のとおりである。

(1) 要支援者数について (参照：表 13、表 14)

令和 3 年 1 月 15 日から令和 3 年 6 月 30 日の期間内の回答者 2,171 人のうち、電話による相談・支援が必要だと判断された方 (要支援者) は 384 人であった。

自由記載内容による支援については、平成 29 年度から、自由記載欄以外にその他の項目の記載内容に具体的な心配の内容を記載している方も支援対象へ加えた。その結果、うつ項目による要支援率は 13.2%、自由記載内容による要支援率は 4.5%であり、合計要支援率は 17.7%となった。

[参考]

実施年度	調査名	回答者数	うつ項目による 要支援者数 (要支援率)	自由記載内容による 要支援者数 (要支援率)		合計要支援者数 (要支援率)
				自由記載欄 内容	その他の項目の 記載内容	
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,554	299 (11.7%)	76 (3.0%)	-	375 (14.7%)
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,021	209 (10.3%)	47 (2.3%)	-	256 (12.7%)
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,706	277 (10.2%)	51 (1.9%)	65 (2.4%)	393 (14.5%)
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,719	265 (9.7%)	31 (1.1%)	84 (3.1%)	380 (14.0%)
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	2,354	295 (12.5%)	92 (3.9%)	34 (1.4%)	421 (17.9%)
令和 2 年度	H24 対象者 2 回目 フォローアップ調査	2,171	286 (13.2%)	69 (3.2%)	29 (1.3%)	384 (17.7%)

※うつ項目と自由記載内容のいずれにも該当した場合、うつ項目による要支援者数に計上した。

(2) 相談内容について (参照：表 15)

電話での相談内容は、これまでのフォローアップ調査と同様の支援基準によると「母親の心身の状態に関すること」32.8%が最も多く、次いで、「子育て関連 (生活) のこと」18.8%であった。

「放射線の影響や心配に関すること」の相談割合は 8.3%であった。

[参考]

実施年度	調査名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	要支援者数	
平成27年度	H23 対象者1回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 129(34.4%)	放射線の影響や心配に関すること 96(25.6%)	子育て関連(生活)のこと 81(21.6%)	子どもの心身の健康に関すること 68(18.1%)	家庭生活に関すること 52(13.9%)	375	
平成28年度	H24 対象者1回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 115(44.9%)	子育て関連(生活)のこと 59(23.0%)	子どもの心身の健康に関すること 58(22.7%)	放射線の影響や心配に関すること 34(13.3%)	家庭生活に関すること 27(10.5%)	256	
平成29年度 ※1	H25 対象者1回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 118(36.0%)	子育て関連(生活)のこと 91(27.7%)	家庭生活に関すること 48(14.6%)	放射線の影響や心配に関すること 43(13.1%)	子どもの心身の健康に関すること 32(9.8%)	328	393
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	子育て関連(生活)のこと 30(46.2%)	放射線の影響や心配に関すること 17(26.2%)	子どもの心身の健康に関すること 6(9.2%)	母親の心身の状態に関すること 4(6.2%)	家庭生活に関すること 2(3.1%)	65	
平成30年度 ※1	H26 対象者1回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 78(26.4%)	子育て関連(生活)のこと 36(12.2%)	家庭生活に関すること 19(6.4%)	放射線の影響や心配に関すること 17(5.7%)	子どもの心身の健康に関すること 16(5.4%)	296	380
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	放射線の影響や心配に関すること 19(22.6%)	子育て関連(生活)のこと 9(10.7%)	子どもの心身の健康に関すること 8(9.5%)	母親の心身の状態に関すること 4(4.8%)	家庭生活に関すること 3(3.6%)	84	
令和元年度 ※1	H23 対象者2回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 113(29.2%)	子育て関連(生活)のこと 69(17.8%)	子どもの心身の健康に関すること 39(10.1%)	放射線の影響や心配に関すること 25(6.5%)	家庭生活に関すること 20(5.2%)	387	421
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	子どもの心身の健康に関すること 8(23.5%)	子育て関連(生活)のこと 6(17.6%)	母親の心身の状態に関すること 4(11.8%)	放射線の影響や心配に関すること 3(8.8%)	家庭生活に関すること・避難生活に関すること 1(2.9%)	34	
令和2年度 ※1	H24 対象者2回目フォローアップ調査 (うっ項目と自由記載欄)	母親の心身の状態に関すること 120(33.8%)	子育て関連(生活)のこと 67(18.9%)	子どもの心身の健康に関すること 45(12.7%)	放射線の影響や心配に関すること 27(7.6%)	家庭生活に関すること 20(5.6%)	355	384
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	母親の心身の状態に関すること 6(20.7%)	子育て関連(生活)のこと 5(17.2%)	放射線の影響や心配に関すること 5(17.2%)	子どもの心身の健康に関すること 4(13.8%)	家庭生活に関すること・避難生活に関すること 0(0.0%)	29	

※1 H25 対象者1回目フォローアップ調査以降、支援基準や入力方法(入力フォームや入力者)に変更あり

※2 H25 対象者1回目フォローアップ調査以降で追加

(3) 支援終了の理由について（参照：表 16）

支援終了の理由は、「傾聴（対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了）」214 件（55.9%）、「情報提供・行政窓口を紹介し終了」105 件（27.4%）であった。不在は 73 件（19.1%）であった。（複数回答あり。割合の分母は令和 3 年 6 月末時点で未支援者 1 名いるため、要支援者数 383 名。）

[参考]

実施年度	調査名	第 1 位	第 2 位	第 3 位	不在
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴* ₁ 197(52.5%)	情報提供* ₂ 105(28.0%)	受診先等あり* ₃ 29(7.7%)	131 (34.9%)
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 159(62.1%)	情報提供 53(20.7%)	受診先等あり 26(10.2%)	70 (27.3%)
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 245(62.3%)	情報提供 133(33.8%)	受診先等あり 66(16.8%)	119 (30.3%)
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 229(60.3%)	情報提供 90(23.7%)	受診先等あり 55(14.5%)	124 (32.6%)
令和 元 年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	傾聴 217(51.5%)	情報提供 98(23.3%)	受診先等あり 37(8.8%)	98 (23.3%)
令和 2 年度	H24 対象者 2 回目 フォローアップ調査	傾聴 214(55.9%)	情報提供 105(27.4%)	受診先等あり 31(8.1%)	73 (19.1%)

*₁ 対象者の話をよく聴き、問題を整理し支援終了、*₂ 適切な情報提供・行政窓口を紹介し支援終了、

*₃ 既に受診先や相談先があることを確認し終了

(4) まとめ

- ア うつ項目による要支援率は 13.2%であり、昨年度の H23 対象者 2 回目フォローアップ調査を上回った。
- イ 初年度、次年度のフォローアップ調査と同様の支援基準（うつ傾向と自由記載欄のみ）によると、相談内容では「母親の心身の状態に関すること」が最も多かった。また、「放射線の影響や心配に関すること」の相談内容の割合は 4 年前の H24 対象者 1 回目フォローアップ調査を下回ったが、昨年度の H23 年度対象者 2 回目フォローアップ調査を上回った。
- ウ 支援終了の理由は主に「傾聴（対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了）」であった。

5 平成 24 年度対象者 2 回目フォローアップ調査中間結果集計

調査対象者：平成 24 年度調査回答者の中で、出産された方のうち、令和 2 年 9 月に母子の生存が確認された 5,152 人

集計対象者：令和 3 年 1 月 15 日にアンケート送付。令和 3 年 1 月 15 日～令和 3 年 6 月 30 日までに回答のあった 2,171 人

※割合（％）は、端数処理を行っているため、各項目の％の合計は 100％とならないこともある。

(1) 送付数と中間回答状況

【表 1】

地域	送付数		中間回答者数					
			全体（回答率）		回答方法の内訳			
					郵送		オンライン	
県北	1,380	26.8%	710	(51.4%)	390	54.9%	320	45.1%
県中	1,460	28.3%	578	(39.6%)	353	61.1%	225	38.9%
県南	399	7.7%	153	(38.3%)	95	62.1%	58	37.9%
相双	312	6.1%	106	(34.0%)	68	64.2%	38	35.8%
いわき	957	18.6%	351	(36.7%)	186	53.0%	165	47.0%
会津	590	11.5%	247	(41.9%)	163	66.0%	84	34.0%
南会津	54	1.0%	26	(48.1%)	15	57.7%	11	42.3%
合計	5,152	100.0%	2,171	(42.1%)	1,270	58.5%	901	41.5%
昨年度	6,643	100.0%	2,354	(35.4%)	1,641	69.7%	713	30.3%

(2) 調査項目別集計

中間回答者 2,171 人について集計した（無効回答 0 人）。なお、各項目には、それぞれ無回答・無効回答がある。

【表 2】 お子様の人数（人）

地域	全体	最小	最大	有効回答
県北	2.4 ± 0.9	1	7	690
県中	2.4 ± 0.9	1	6	559
県南	2.4 ± 0.8	1	5	147
相双	2.5 ± 0.9	1	5	100
いわき	2.3 ± 0.9	1	7	341
会津	2.5 ± 0.8	1	6	234
南会津	2.5 ± 0.8	1	4	26
合計	2.4 ± 0.9	1	7	2,097

【表 3】 一番下のお子様の年齢（カ月）

地域	全体	最小	最大	有効回答
県北	78.1 ± 28.4	0	115	670
県中	77.0 ± 29.4	0	113	549
県南	81.1 ± 27.0	3	119	144
相双	76.3 ± 29.4	1	116	95
いわき	78.2 ± 27.9	2	118	337
会津	78.3 ± 28.4	3	109	230
南会津	79.5 ± 30.9	8	104	24
合計	78.0 ± 28.6	0	119	2,049

【表4】あなたはふだんご自分で健康だと思いますか？（問1）

主観的健康感の悪い（「あまり健康ではない」または「健康ではない」と答えた）方の割合 9.4%

地域	非常に健康		まあ健康な方		あまり健康ではない		健康ではない		無・無効回答		合計
県北	94	13.2%	552	77.7%	57	8.0%	6	0.8%	1	0.1%	710
県中	84	14.5%	434	75.1%	50	8.7%	7	1.2%	3	0.5%	578
県南	28	18.3%	113	73.9%	10	6.5%	1	0.7%	1	0.7%	153
相双	18	17.0%	76	71.7%	10	9.4%	2	1.9%	0	0.0%	106
いわき	70	19.9%	247	70.4%	31	8.8%	3	0.9%	0	0.0%	351
会津	38	15.4%	181	73.3%	23	9.3%	3	1.2%	2	0.8%	247
南会津	6	23.1%	19	73.1%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	26
合計	338	15.6%	1,622	74.7%	182	8.4%	22	1.0%	7	0.3%	2,171
昨年度	362	15.4%	1,753	74.5%	199	8.5%	32	1.4%	8	0.3%	2,354

【表5】ここ最近1ヶ月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか？（問2）

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	184	25.9%	521	73.4%	5	0.7%	710
県中	134	23.2%	440	76.1%	4	0.7%	578
県南	28	18.3%	124	81.0%	1	0.7%	153
相双	21	19.8%	83	78.3%	2	1.9%	106
いわき	89	25.4%	260	74.1%	2	0.6%	351
会津	72	29.1%	175	70.9%	0	0.0%	247
南会津	4	15.4%	22	84.6%	0	0.0%	26
合計	532	24.5%	1,625	74.9%	14	0.6%	2,171
昨年度	511	21.7%	1,815	77.1%	28	1.2%	2,354

【表6】ここ最近1ヶ月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは、心から楽しめない感じがよくありましたか？（問3）

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	128	18.0%	577	81.3%	5	0.7%	710
県中	87	15.1%	487	84.3%	4	0.7%	578
県南	10	6.5%	142	92.8%	1	0.7%	153
相双	12	11.3%	92	86.8%	2	1.9%	106
いわき	53	15.1%	296	84.3%	2	0.6%	351
会津	48	19.4%	199	80.6%	0	0.0%	247
南会津	6	23.1%	20	76.9%	0	0.0%	26
合計	344	15.8%	1,813	83.5%	14	0.6%	2,171
昨年度	355	15.1%	1,971	83.7%	28	1.2%	2,354

【表7】うつ傾向（問2、問3の両設問で「はい」またはいずれかに「はい」と答えた方）

地域	両方「はい」		いずれかが「はい」		両方「いいえ」		無・無効回答		合計
県北	108	15.2%	96	13.5%	501	70.6%	5	0.7%	710
県中	70	12.1%	81	14.0%	423	73.2%	4	0.7%	578
県南	9	5.9%	20	13.1%	123	80.4%	1	0.7%	153
相双	11	10.4%	11	10.4%	82	77.4%	2	1.9%	106
いわき	45	12.8%	52	14.8%	252	71.8%	2	0.6%	351
会津	39	15.8%	42	17.0%	166	67.2%	0	0.0%	247
南会津	4	15.4%	2	7.7%	20	76.9%	0	0.0%	26
合計	286	13.2%	304	14.0%	1,567	72.2%	14	0.6%	2,171
昨年度	295	12.5%	276	11.7%	1,755	74.6%	28	1.2%	2,354

※うつ傾向 27.2% [590人（両方「はい」+いずれかが「はい」） / 合計2,171人]

※うつ傾向 24.3% [571人（両方「はい」+いずれかが「はい」） / 合計2,354人] 昨年度

【表8】子育てに自信がもてないことがありますか？(問4)

地域	はい		いいえ		何ともいえない		無・無効回答		合計
県北	134	18.9%	258	36.3%	312	43.9%	6	0.8%	710
県中	106	18.3%	219	37.9%	246	42.6%	7	1.2%	578
県南	22	14.4%	66	43.1%	64	41.8%	1	0.7%	153
相双	13	12.3%	39	36.8%	51	48.1%	3	2.8%	106
いわき	63	17.9%	153	43.6%	131	37.3%	4	1.1%	351
会津	67	27.1%	98	39.7%	82	33.2%	0	0.0%	247
南会津	3	11.5%	9	34.6%	14	53.8%	0	0.0%	26
合計	408	18.8%	842	38.8%	900	41.5%	21	1.0%	2,171
昨年度	449	19.1%	963	40.9%	925	39.3%	17	0.7%	2,354

【表9】放射線の影響について不安なこと全ての□に✓を記入してください。(問5)

地域	子どもの健康		遺伝的な影響		偏見		食品		水		子どもの外遊び		その他		有効回答
県北	396	65.1%	237	39.0%	227	37.3%	158	26.0%	115	18.9%	78	12.8%	9	1.5%	608
県中	298	61.1%	202	41.4%	192	39.3%	123	25.2%	122	25.0%	67	13.7%	2	0.4%	488
県南	87	63.5%	47	34.3%	52	38.0%	43	31.4%	26	19.0%	19	13.9%	1	0.7%	137
相双	32	38.6%	32	38.6%	48	57.8%	36	43.4%	21	25.3%	6	7.2%	2	2.4%	83
いわき	190	65.7%	123	42.6%	101	34.9%	91	31.5%	90	31.1%	36	12.5%	2	0.7%	289
会津	128	64.3%	64	32.2%	73	36.7%	69	34.7%	53	26.6%	28	14.1%	2	1.0%	199
南会津	13	65.0%	6	30.0%	5	25.0%	6	30.0%	4	20.0%	2	10.0%	0	0.0%	20
合計	1,144	62.7%	711	39.0%	698	38.3%	526	28.8%	431	23.6%	236	12.9%	18	1.0%	1,824
昨年度	1,398	68.1%	735	35.8%	875	42.6%	692	33.7%	605	29.5%	382	18.6%	28	1.4%	2,052

※分母は有効回答（□に✓を記入した方）。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

※ひとつでもチェックをした方84.0% [1,824人 / 合計2,171人]

※ひとつでもチェックをした方87.2% [2,052人 / 合計2,354人]昨年度

以下の問6、問7は、平成23年8月1日～平成25年4月23日に生まれたお子様についてお尋ねいたします。

【表10-1】お子様はこれまでに入院された病気はありましたか？(問6)

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	214	30.1%	485	68.3%	11	1.5%	710
県中	143	24.7%	428	74.0%	7	1.2%	578
県南	42	27.5%	107	69.9%	4	2.6%	153
相双	29	27.4%	76	71.7%	1	0.9%	106
いわき	65	18.5%	281	80.1%	5	1.4%	351
会津	87	35.2%	159	64.4%	1	0.4%	247
南会津	11	42.3%	14	53.8%	1	3.8%	26
合計	591	27.2%	1,550	71.4%	30	1.4%	2,171
昨年度	623	26.5%	1,700	72.2%	31	1.3%	2,354

【表 10-2】問 6 の設問(お子様はこれまでに入院された病気はありましたか?)に「はい」と答えた方の病名の内訳(複数回答あり)

肺炎	111	細気管支炎	3	ヒトメタニューモウイルス	1	正中頸嚢胞	1
RSウイルス感染症	57	斜視	3	ヒルシユスブルング病	1	脊髄性筋萎縮症	1
気管支炎	49	手足口病	3	ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	1	先天性角膜混濁	1
川崎病	34	上気道炎	3	ヘルニア	1	先天性胸水	1
熱性けいれん	32	EBウイルス感染症	2	ヘルペスウイルス	1	先天性股関節脱臼	1
鼠径ヘルニア	27	RSウイルス気管支炎	2	リンパ節炎	1	先天性十二指腸閉鎖症	1
喘息	25	ウィルムス腫瘍	2	ロタウイルス胃腸炎	1	先天性色素性母斑	1
胃腸炎	19	ファロー四徴症	2	横隔膜ヘルニア	1	先天性真珠腫	1
ロタウイルス	17	ヘルパンギーナ	2	下咽頭梨状窩瘻	1	先天性胆道拡張症	1
マイコプラズマ肺炎	14	マイコプラズマ	2	化膿性頸部リンパ節炎	1	組織急性壊死性リンパ節炎	1
扁桃肥大	13	リンパ管腫	2	仮性クループ	1	多合指症	1
気管支肺炎	12	移動性精巣	2	外斜視	1	大腸ポリープ	1
気管支喘息	11	陰嚢水腫	2	肝機能障害	1	腸回転異常症	1
突発性発疹	11	菌血症	2	眼瞼下垂	1	超低出生体重児	1
アデノウイルス	10	口蓋裂	2	気胸	1	低身長症	1
インフルエンザ	10	紫斑病	2	急性硬膜下血腫	1	溺水	1
中耳炎	10	水腎症	2	急性脳症	1	吐血	1
ノロウイルス	9	髄膜炎	2	急性鼻炎	1	頭蓋骨骨折	1
停留精巣	9	脱水症	2	極低出生体重児	1	動脈管開存症	1
RSウイルス肺炎	7	虫垂炎	2	筋炎	1	二分脊椎	1
尿路感染症	6	低血糖症	2	血管性紫斑病	1	肉芽腫	1
蜂窩織炎	6	停留睾丸	2	血少板減少性紫斑病	1	熱傷	1
溶連菌感染症	6	肺高血圧症	2	喉頭炎	1	熱中症	1
アナフィラキシーショック	5	肥厚性幽門狭窄症	2	好中球減少症	1	脳性麻痺	1
アレルギー性紫斑病	5	百日咳	2	合趾症	1	肺動脈上行大動脈起始症	1
かぜ症候群	5	包茎	2	紫斑病腎炎	1	膝大腿骨髄炎	1
てんかん	5	臍ヘルニア	2	脂腺母斑	1	表皮嚢腫	1
咽頭炎	5	アセトン血性嘔吐症	1	耳下腺炎	1	不明熱	1
腎盂腎炎	5	アデノイド増殖症	1	耳瘻孔	1	副鼻腔炎	1
けいれん	4	アレルギー	1	自己免疫性肝炎	1	母斑	1
心室中隔欠損症	4	ウエスト症候群	1	湿疹	1	蜂巣炎	1
腸重積	4	カポジ水痘様発疹症	1	周期性嘔吐症	1	頬腫瘍	1
腸閉塞	4	ギランバレー症候群	1	心疾患	1	慢性腎不全	1
尿道下裂	4	グルコーストランスポーター1欠損症	1	心肥大	1	麻疹	1
扁桃炎	4	ケトン性低血糖	1	心房中隔欠損症	1	遊走精巣	1
クループ症候群	3	じんましん	1	新生児トキシックショック症候群様発疹症	1	頸部リンパ節炎	1
過剰歯	3	チック症	1	新生児感染症	1	頸部リンパ節膿瘍	1
血管腫	3	ネフローゼ症候群	1	真珠腫性中耳炎	1		

【表 11】お子様のことで心配なこと全ての□に✓を記入してください。(問 7)

地域	こころと身体の発達		学校生活		生活習慣		病気		その他		有効回答
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
県北	270	50.9%	238	44.9%	232	43.8%	134	25.3%	26	4.9%	530
県中	241	55.5%	193	44.5%	182	41.9%	116	26.7%	12	2.8%	434
県南	51	49.0%	51	49.0%	52	50.0%	31	29.8%	1	1.0%	104
相双	35	50.7%	37	53.6%	27	39.1%	20	29.0%	1	1.4%	69
いわき	138	54.1%	103	40.4%	127	49.8%	72	28.2%	4	1.6%	255
会津	78	47.3%	67	40.6%	74	44.8%	44	26.7%	6	3.6%	165
南会津	8	44.4%	9	50.0%	4	22.2%	3	16.7%	1	5.6%	18
合計	821	52.1%	698	44.3%	698	44.3%	420	26.7%	51	3.2%	1,575
昨年度	823	50.8%	721	44.5%	672	41.5%	555	34.3%	40	2.5%	1,620

※分母は有効回答(□に✓を記入した方)。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

※ひとつでもチェックをした方 72.5% [1,575人 / 合計 2,171人]

※ひとつでもチェックをした方 68.8% [1,620人 / 合計 2,354人] 昨年度

(3) 自由記載

【表 12-1】自由記載ありの割合

地域	あり		なし		合計
県北	75	10.6%	635	89.4%	710
県中	66	11.4%	512	88.6%	578
県南	20	13.1%	133	86.9%	153
相双	8	7.5%	98	92.5%	106
いわき	35	10.0%	316	90.0%	351
会津	36	14.6%	211	85.4%	247
南会津	7	26.9%	19	73.1%	26
合計	247	11.4%	1,924	88.6%	2,171
昨年度	304	12.9%	2,050	87.1%	2,354

【表 12-2】自由記載内容の内訳

記載内容	件数	割合
コロナ関係	53	21.5%
この調査への賛同	47	19.0%
育児相談	44	17.8%
胎児・子どもへの放射線の影響についての心配	37	15.0%
本人の精神的不調の訴え	30	12.1%
この調査への意見・苦情	19	7.7%
本人の身体的不調の訴え	18	7.3%
情報発信や調査結果の公表への要望について	10	4.0%
甲状腺検査への要望について	7	2.8%
人間関係	6	2.4%
育児支援サービスの充実の要望について	5	2.0%
離乳食・食物への放射線の影響についての心配	3	1.2%
今回妊娠の転帰との関連	2	0.8%
情報の信頼性・不足に対する不安や不満	2	0.8%
経済的な不安・負担に対するもの	2	0.8%
健診・検診への要望	2	0.8%
内部被ばく（ホールボディカウンタ等）検査の要望	2	0.8%
外部被ばく（ガラスバッジ配布、線量計配布等）に関すること	2	0.8%
医療サービスの充実や体のケアに対する要望	2	0.8%
水への放射線の影響についての心配	1	0.4%
医療サービスの不足への不安や不満	1	0.4%
経済的支援の要望	1	0.4%
県民健康調査への要望	1	0.4%
その他	45	18.2%

※複数回答あり。記載内容の割合の分母は、自由記載ありの人数 247 人

(4) 支援状況

平成24年度対象者2回目フォローアップ調査 要支援者数 384人（中間回答2,171人）（要支援率17.7%）

支援に対しての集計は、令和3年1月15日～令和3年6月30日の回答者(2,171人)を対象に行った。

【表13】 要支援者数

地域	回答者数	要支援者数	
県北	710	143	20.1%
県中	578	87	15.1%
県南	153	19	12.4%
相双	106	15	14.2%
いわき	351	62	17.7%
会津	247	53	21.5%
南会津	26	5	19.2%
合計	2,171	384	17.7%
昨年度	2,354	421	17.9%

※回答者数の割合の分母は送付数。要支援者数の割合の分母は回答者数。

【表14】 地域別要支援者の内訳

地域	うつ項目による支援		自由記載内容による支援		合計
県北	108	75.5%	35	24.5%	143
県中	70	80.5%	17	19.5%	87
県南	9	47.4%	10	52.6%	19
相双	11	73.3%	4	26.7%	15
いわき	45	72.6%	17	27.4%	62
会津	39	73.6%	14	26.4%	53
南会津	4	80.0%	1	20.0%	5
合計	286	74.5%	98	25.5%	384
昨年度	295	70.1%	126	29.9%	421

※割合（%）は、端数処理を行っているため、各項目の%の合計は100%とならないこともある。

【表15】 地域別「主な相談内容」の内訳

地域	母親の心身の状態に関すること		子育て関連(生活)のこと		子どもの心身の健康に関すること		放射線の影響や心配に関すること		家庭生活に関すること		避難生活に関すること		その他		要支援者数
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
県北	54	37.8%	29	20.3%	20	14.0%	13	9.1%	11	7.7%	0	0.0%	70	49.0%	143
県中	28	32.2%	18	20.7%	9	10.3%	6	6.9%	4	4.6%	0	0.0%	47	54.0%	87
県南	7	36.8%	2	10.5%	2	10.5%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	9	47.4%	19
相双	7	46.7%	5	33.3%	1	6.7%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	8	53.3%	15
いわき	17	27.4%	8	12.9%	9	14.5%	7	11.3%	3	4.8%	0	0.0%	33	53.2%	62
会津	13	24.5%	8	15.1%	6	11.3%	4	7.5%	1	1.9%	0	0.0%	35	66.0%	53
南会津	0	0.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	5
合計	126	32.8%	72	18.8%	49	12.8%	32	8.3%	20	5.2%	0	0.0%	206	53.6%	384
昨年度	117	27.8%	75	17.8%	47	11.2%	28	6.7%	21	5.0%	4	1.0%	254	60.3%	421

※分母は要支援者数。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

【表 16】 支援終了の理由の内訳

	傾聴 ¹⁾		情報提供 ²⁾		受診先等あり ³⁾		Q&A 対応 ⁴⁾		受診勧奨 ⁵⁾		ところへ ⁶⁾		市町村へ ⁷⁾	
県北	91	63.6%	44	30.8%	8	5.6%	8	5.6%	7	4.9%	3	2.1%	0	0.0%
県中	43	50.0%	20	23.3%	6	7.0%	3	3.5%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
県南	13	68.4%	5	26.3%	4	21.1%	2	10.5%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
相双	7	46.7%	3	20.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
いわき	36	58.1%	17	27.4%	6	9.7%	3	4.8%	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
会津	21	39.6%	15	28.3%	6	11.3%	0	0.0%	2	3.8%	1	1.9%	0	0.0%
南会津	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	214	55.9%	105	27.4%	31	8.1%	17	4.4%	15	3.9%	4	1.0%	0	0.0%
昨年度	217	51.5%	98	23.3%	37	8.8%	5	1.2%	21	5.0%	7	1.7%	0	0.0%

	放射線へ ⁸⁾		専門医紹介 ⁹⁾		不在		連絡先不明		拒否		その他		要支援者数
県北	0	0.0%	0	0.0%	25	17.5%	20	14.0%	1	0.7%	1	0.7%	143
県中	0	0.0%	0	0.0%	18	20.9%	20	23.3%	2	2.3%	0	0.0%	86
県南	0	0.0%	0	0.0%	2	10.5%	4	21.1%	0	0.0%	0	0.0%	19
相双	0	0.0%	0	0.0%	4	26.7%	4	26.7%	0	0.0%	0	0.0%	15
いわき	0	0.0%	1	1.6%	11	17.7%	13	21.0%	0	0.0%	0	0.0%	62
会津	0	0.0%	0	0.0%	12	22.6%	17	32.1%	0	0.0%	0	0.0%	53
南会津	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5
合計	0	0.0%	1	0.3%	73	19.1%	79	20.6%	3	0.8%	1	0.3%	383
昨年度	0	0.0%	0	0.0%	98	23.3%	97	23.0%	1	0.2%	4	1.0%	421

※分母は要支援者数。内訳は延べ数。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

※令和3年6月末時点で未支援者が1名いるため、要支援者数は383名。

- 1) 対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了。
- 2) 対象者へ適切な情報提供・行政窓口を紹介し終了。
- 3) 対象者に既に受診先や相談先があることを確認し終了。
- 4) 対象者の疑問・質問に回答し終了。
- 5) 対象者に医師の診察を受けることを勧めて終了。
- 6) 対象者の了承を得た上で、対象者の情報をところの健康支援チーム（医大内）へ繋ぎ終了。
- 7) 対象者の了承を得た上で、市町村へ繋ぎ終了。
- 8) 対象者の了承を得た上で、対象者の情報を放射線相談窓口（医大内）へ繋ぎ終了。
- 9) 専門医（医大内）へ繋ぎ終了。

県民健康調査「妊産婦に関する調査」のフォローアップ調査について（案）

令和3年10月

「県民健康調査」検討委員会

県民健康調査「妊産婦に関する調査」については、妊産婦のこころや身体の状態を把握し、不安に寄り添いつつ必要なケアを提供するとともに、今後の福島県内の産科・周産期医療の充実へつなげていくことを目的として、県内市町村から母子健康手帳を交付された方等を対象に平成23年度から令和2年度まで実施されている（以下「本調査」という。）。

本調査の結果、震災直後の調査回答者は、特にうつ傾向の割合が高かったことから、出産後4年を経過した方を対象に、こころと身体の状態の経過を伺い、不安の軽減や必要なケアを提供することを目的として、平成27年度（平成23年度フォローアップ調査）から平成30年度（平成26年度フォローアップ調査）まで1回目のフォローアップ調査が実施された。

調査の結果、平成23年度及び平成24年度調査回答者のうつ傾向の割合が高かったことから、令和元年度から令和2年度には、これら調査回答者に対して2回目のフォローアップ調査が実施されている。

また、本調査と同様に、フォローアップ調査の結果、支援が必要と判断される方には専任の助産師、保健師等による電話支援等が行われている。

これまでの議論内容を踏まえ、「妊産婦に関する調査」のフォローアップ調査について、本委員会としての見解を以下に示す。

1 調査結果の概要について

2回目のフォローアップ調査は1回目と同様、調査票の送付によるアンケート形式で実施した。

うつ傾向の推移については、平成23年度調査回答者が24.3%と本調査の27.1%及び1回目のフォローアップ調査の25.6%よりも下回ったものの、平成24年度調査回答者は27.2%と本調査の25.5%及び1回目のフォローアップ調査の25.7%を上回った。

また、主観的健康感の低い方は、平成23年度及び平成24年度調査回答者ともにわずかではあるが、1回目のフォローアップ調査を上回っているが、放射線の影響に不安を持つ方は依然として一定数いるものの、平成23年度及び平成24年度調査回答者ともに1回目のフォローアップ調査を下回った。

調査後は、本調査と同様に、支援が必要と判断された方には専任の助産師、保健師等による電話支援を行っており、うつ項目による要支援率は平成23年度調査回答者が12.5%、平成24年度調査回答者が13.2%と、いずれも1回目のフォローアップ調査を上回った。

電話支援における相談内容については、「母親の心身の状態に関すること」の割合が最も多く、次いで「子育て関連（生活）のこと」となり、「放射線の影響や心配に関すること」は依然として一定数あるものの、1回目のフォローアップ調査と比べ減少した。

2 支援体制の状況について

妊産婦等が抱える妊娠出産や子育てに関する悩みや不安に対しては、様々な形の産前・産後サポート事業が行われるようになってきている。本県においても、震災以降、妊産婦・乳幼児に対する支援として、妊産婦訪問・乳幼児全戸訪問をはじめとする訪問事業、妊産婦連絡票等を活用した支援事業、それ

それぞれの悩みに応じた電話相談窓口の設置など、様々な母子保健事業が県・市町村レベルで展開されている。

また、国においては、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を担う子育て世代包括支援センターの全国展開を図っており、令和3年9月1日現在、県内では59市町村中58市町村で設置されている。さらに、ハイリスク家庭などについては、相談・支援を行う子ども家庭総合支援拠点が15市町村によって設置されている。

就学以降の児童の保護などの専門的な支援については、県内4カ所の児童相談所において児童に関するあらゆる相談に応じているほか、地域の専門的な相談・支援機関である児童家庭支援センターが民間団体によって3カ所運営されている。

3 今後の方向性について

これまでの本調査結果においては、震災直後に高かった「放射線の影響や心配に関すること」の割合が年度とともに減少し、近年では産後うつ等のメンタルヘルスに関連した悩みにシフトしていることが示された。一方でうつ傾向が低下傾向にあるものの、主観的健康感が低い方、うつ傾向の方及び放射線の影響に不安を持つ方がまだ一定数いることなどは、継続して注視していく必要があることから、今後の方向性として、妊娠期から子育て期までの総合的な相談対応・支援を継続していくとされた。

令和元年度及び令和2年度に実施した2回目のフォローアップ調査においても、放射線の影響に不安を持つ方の割合は減少し、電話相談内容においても、震災直後に高かった「放射線の影響や心配に関すること」の割合は減少し、「母親の心身の状態に関すること」や「子育て関連（生活）のこと」の割合が上位を占め、一般的な母親のメンタルヘルスに関連した悩みにシフトしている。

また、上述のとおり、震災以降、県・市町村において、母子保健事業（特に妊産婦のメンタルヘルスに関する事業）が拡充され、子育て世代包括支援センターも既に多くの県内市町村で設置されており、充実した支援体制が構築されている。

ただし、主観的健康感が低い方、うつ傾向の方及び放射線の影響に不安を持つ方がまだ一定数いることなどは、平成25年度及び平成26年度本調査回答者の1回目フォローアップ調査結果からも見て取れ、今後も注視していく必要がある。

これらを踏まえ、本委員会としては、「妊産婦に関する調査」のフォローアップ調査の今後の方向性として、以下の提案を行う。

(1) 調査実施のあり方について

フォローアップ調査は、原則として2回目のフォローアップ調査までとし、1回目と同様、平成25年度及び平成26年度本調査回答者を対象者として実施すること。

なお、うつ傾向の方は、子どもの成長過程において不安が出現しやすくなる時期があると考えられるため、将来、適切な見守りを行うための調査が必要となる場合があることに留意すること。

(2) 支援事業のあり方について

平成25年度及び平成26年度本調査回答者における要支援者に対し、電話支援を継続して行うこと。

本調査と同様、フォローアップ調査結果についても、積極的な情報発信を行うとともに、県民に対し、分かりやすく丁寧な説明を継続して実施し、また、調査で得られた知見や支援のノウハウ等を県・市町村の母子保健事業や子育て世代包括支援センター等の事業に継承し、総合的な相談対応・支援を継続して丁寧に実施すること。

令和3年度「妊産婦に関する調査」実施計画（案）

1 令和3年度フォローアップ調査（追跡調査）

(1) 実施目的

震災後の妊産婦調査回答者は、特にうつ傾向の割合が高かったことから、育児に自信がもてないと感じる母親が増加する時期の出産4年後にあたる平成27年度（平成23年度調査回答者）から平成30年度（平成26年度調査回答者）まで1回目のフォローアップ調査を実施してきた。

平成23年度及び平成24年度調査回答者は、放射線に関する不安が強く、うつ傾向が高い状況であり、1回目のフォローアップ調査でも同様の傾向がみられ、震災時の影響が懸念されたため、令和元年度及び令和2年度のフォローアップ調査においては、平成27年度及び平成28年度調査回答者に対する4年後のフォローアップ調査を行うことに替え、平成23年度及び平成24年度調査回答者への2回目のフォローアップ（及び支援）を実施し、震災時に妊産婦であった方々の継続的な支援を行った。

令和元年度及び令和2年度に実施した2回目のフォローアップ調査結果においては、うつ傾向のある方の割合は、令和元年度調査では1回目のフォローアップ調査よりも減少、令和2年度調査では増加したものの、放射線の影響に不安を持つ方の割合は令和元年度及び令和2年度調査とも減少しており、電話相談内容においても、震災直後に高かった「放射線の影響や心配に関すること」の割合は減少し、「母親の心身の状態に関すること」や「子育て関連（生活）のこと」の割合が上位を占め、一般的な母親のメンタルヘルスに関連した悩みにシフトしている。

ただし、主観的健康感が低い方、うつ傾向の方及び放射線の影響に不安を持つ方がまだ一定数いることなどは、平成25年度及び平成26年度調査回答者の1回目フォローアップ調査結果からも見て取れ、今後も注視していく必要がある。

これらのことから、平成25年度調査回答者への継続的なフォローアップ（及び支援）が必要であると考えられるため、令和3年度においては、平成25年度調査回答者に対する2回目のフォローアップ調査を実施することとする。

(2) 対象者

平成25年度調査の回答者（流産、中絶、死産を除く）のうち、市町村への照会により母子ともに居住が確認された方。

(3) 実施方法

ア 調査票及び送付時期

- ・調査票：自記式調査票（ハガキ）
- ・送付時期：令和4年1月中旬

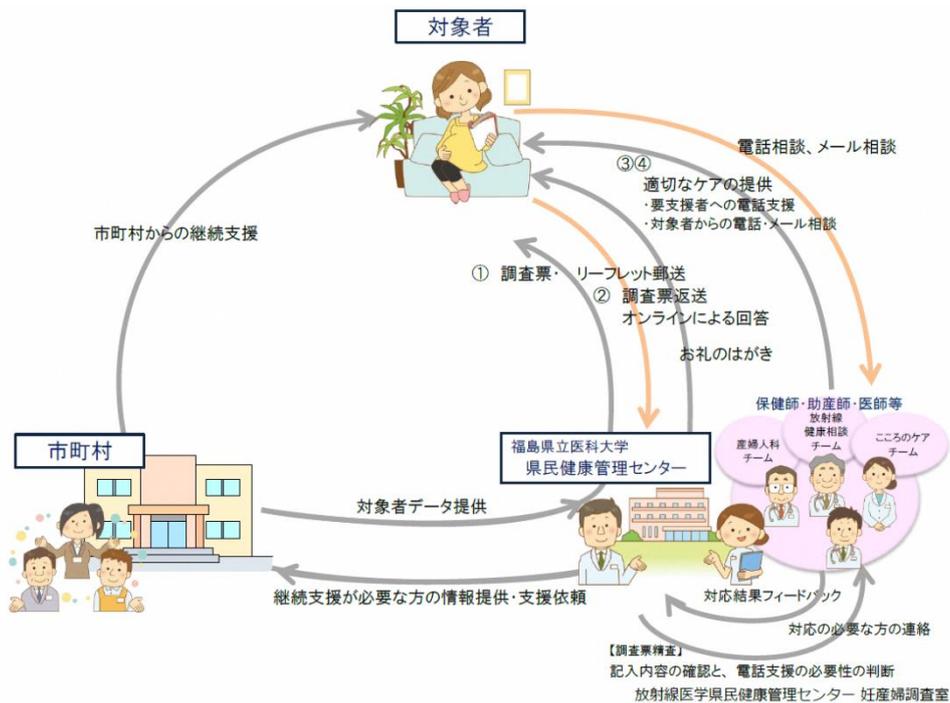
イ 回答方法

郵送及びオンライン

ウ 支援の実施

- ・回答内容から支援が必要と思われる方に対し、助産師・保健師等による電話支援を行う。
- ・専用ダイヤルやメールによる支援体制を整え、調査対象者からの相談に応じる。

(6) 調査及び支援の流れ



2 関係機関との連携

関係機関と連携をより密にし、各地域の意見を反映させつつ、回答率の向上及び得られた回答に基づく妊産婦支援の向上に努める。

(1) 調査結果の周知

市町村等関係機関との連携を図るため、福島県内の市町村や子育て世代包括支援センター等において母子保健に関わる方を対象とした研修会等にて報告を行う。

(2) リーフレットの作成・配布

- ア 調査票送付時に、調査に基づく結果内容や支援状況を説明したリーフレットを同封する。
- イ 県内の関係機関に対して配布し、調査を周知する。

令和3年度「妊産婦に関する調査」フォローアップ調査(追跡調査)調査票等(案)

資料掲載順

No	内 容		掲載頁
1	「妊産婦に関する調査」 フォローアップ調査 (追跡調査)	調査票 (案)	①-24
2		リーフレット(案) 調査票送付時に同封	①-26

左右を両面印刷し、三つ折りにし
封書で発送。

回答は、はがきをキリトリ、保護用紙
を貼付し返送。

<個人情報取り扱いについて>

本アンケートに関する個人情報は、県民健康調査において使用する
ほか、お住まいの市町村にも必要に応じて提供させていただきます。
また、アンケートへの回答や結果、回答にもとづく支援内容等につい
ては、学術的研究目的の利用及び公表（統計処理等）をしますが、
個人が特定される形で公表することはありません。

郵便はがき

9 6 0 1 2 9 0

福島市光が丘一番地

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター 行

県民健康調査

福島県・福島県立医科大学

〒960-1295 福島市光が丘1
公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
お問い合わせ先 TEL.024-549-5180

「平成25年度妊産婦に関する調査」に
回答いただいた方へ
出産後8年目アンケートのお願い

料検受取人住所郵便
福島中央局
承 3509
差出有効期間
令和4年12月
31日まで

キリトリ線

アンケートの送り方

- 1 キリトリ線に沿ってはがきを切り離してください。
- 2 はがきの記入欄に必要な事項を記入してください。
- 3 両側のシールをはがきの裏面に貼り付けて記入欄が見えないようにしてください。
- 4 そのまま郵便局へお持ちください。

子育て中のお母さんとそばにいる方へ

体調はお変わりないですか？令和元年度に実施した2回目のフォローアップ調査では、更年期や子どもの発達、家族関係の悩みなどから心身不調など、「母親のころや身体の健康」についての相談が多く寄せられました。子育て期の母親は自分自身のことがおろそかになりがちですが、そんな時期だからこそ休息と健康管理が大切です。ご自身のためにも、家族のためにも、健康診断を受けることやかかりつけ医を持つことをお勧めします。

参考：月刊母子保健、2017年12月号

調査に関する相談・支援のお問い合わせ

調査の回答内容から、支援が必要と思われる方には専任の保健師・臨床心理士等からご連絡いたします。また、電話やメールを通して不安や悩みに関するご相談も受け付けています。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

公立大学法人 福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター

妊産婦調査専用ダイヤル

024-549-5180 (平日 9:00~17:00)

妊産婦調査専用メール

nimpu@fmu.ac.jp



子育て等に関する福島のサービス (令和2年度)

- ◎ 女性の心身の健康に関する相談
女性のミカタ健康サポートコール
(月～金 9:00～17:00 ※祝祭日を除く)
- ◎ 精神的な悩みや心の健康に関する相談
こころの電話 (福島県精神保健福祉センター)
電話 024-535-5560 (月～金 9:00～16:00)
- ◎ 子どものための24時間電話相談
ふくしま24時間子どもSOS
電話 0120-916-024
- ◎ 障がい等に関する教育相談
特別支援教育センター
電話 024-951-5598 (月～金 9:00～17:00)
- ◎ 発達に関する相談
福島県発達障がい者支援センター
電話 024-951-0352 (月～金 8:30～17:00)

公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
〒960-1295 福島市光が丘1番地
電話 024-549-5130 (平日 9:00～17:00)
メール kenkan@fmu.ac.jp

- ◎ 妊娠・出産・育児に関する相談
子育て世代包括支援センター
電話 0120-453-141 (月～金 10:00～17:00)
- ◎ いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談
ダイヤルSOS (福島県教育センター)
電話 0120-453-141 (月～金 10:00～17:00)
- ◎ ひまこもり・不登校・いじめ・進路・ニート・発達・非行などの相談
福島県青少年総合相談センター
福島県ひまこもり支援センター
電話 024-546-0006 (火～土 9:30～17:30)
メール soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

◎ 妊産婦に関する調査について、詳しくはホームページをご覧ください。
<https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/>
福島 妊産婦調査

令和3年度フォローアップ調査 (追跡調査) リーフレット

リーフレットについては、令和2年度内容をベースに見直しを行い、令和3年度フォローアップ調査(追跡調査)発送時に同封する予定です。

～県民健康

福島県と福島県立医科大学の協力を得て、調査にご協力いただき、調査結果を共有してまいります。

調査の目的

妊産婦の生活と健康状態を把握し、サポートします。

調査の概要



1回目 (出産後4年目)：平成23～26年度の調査に回答いただいた方に、平成27～30年度に実施
2回目 (出産後8年目)：平成23～24年度の調査に回答いただいた方に、令和元・2年度に実施

令和2年度(2020年度)調査対象者

- 本調査
①令和元年8月1日から令和2年7月31日に福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方
②上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、福島県内で里帰り出産された方
- フォローアップ調査 2回目
平成24年度 (2012年度) 調査に回答いただいた方

調査対象者数と回答数 (令和2年6月30日現在)

調査年度	対象者(人)	回答数(人)	回答率(%)
2011	16,001	9,316	58.2
2012	14,516	7,181	49.5
2013	15,218	7,260	47.7
2014	15,125	7,132	47.2
2015	14,572	7,031	48.3
2016	14,154	7,326	51.8
2017	13,552	6,449	47.6
2018	12,838	6,649	51.8
2019	11,896	5,614	47.2

調査年度	対象者(人)	回答数(人)	回答率(%)
フォローアップ調査 1回目 (出産後4年目)	7,252	2,554	35.2
フォローアップ調査 2回目 (出産後8年目)	5,602	2,021	36.1
フォローアップ調査 3回目 (出産後8年目)	5,734	2,706	47.2
フォローアップ調査 4回目 (出産後8年目)	5,856	2,719	46.4
フォローアップ調査 5回目 (出産後8年目)	6,643	2,346	35.3

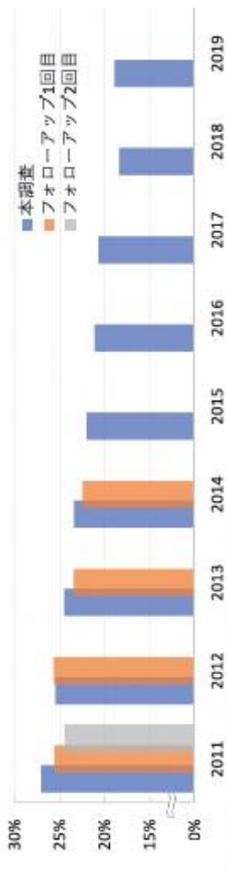
※追跡調査に妊婦・出産された方へ2回目のフォローアップ調査を実施

これまでのフォローアップ調査結果からわかかったことをお伝えします

※調査結果は、令和2年6月30日現在のものです。

うっ傾向の推移

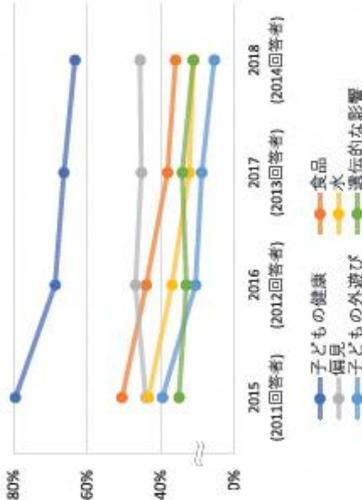
フォローアップ調査1回目の結果、2011年度と2012年度の減少幅はあまりありませんが、年ごととうっ傾向が改善しています。
2011年度回答者は、2回目のフォローアップ調査において、さらとうっ傾向が改善しています。



放射線の影響について心配なこと

フォローアップ調査1回目の年次推移

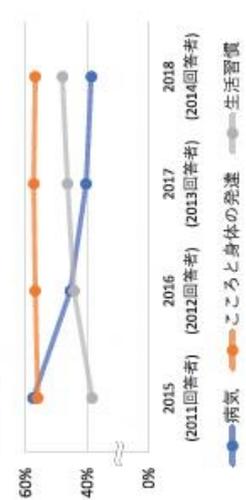
「(母乳)」「遺伝的な影響」は横ばい傾向ですが、「子どもの健康」「食品」「水」「子どもの外遊び」などに不安を感じる母親は少なくなっています。



お子様のことでも心配なこと

フォローアップ調査1回目の年次推移

「ころと身体の発達」を心配する母親は、年ごとの増減はありません。「生活習慣」は増える傾向がありますが、「病気」は年を追って減っています。



2011年度フォローアップ調査1回目と2回目の比較

2011年度フォローアップ調査2回目では、「(母乳)」「遺伝的な影響」の割合が2位と3位を占めました。



2011年度フォローアップ調査1回目と2回目の比較

2011年度フォローアップ調査2回目は、フォローアップ調査1回目と比べて「生活習慣」の割合が増え、「病気」の割合が減りました。



主な電話相談の内容

最近では、母親のころや身体の健康に関する相談が多くなっています。

順位	2011	2012	2013	2014~2017	2018~2019	2015	2016	2017~2018	2019	フォローアップ調査2回目	
1位	放射線のころや心拍や影響	母親のころや身体の健康	母親のころや身体の健康								
2位	放射線のころや心拍や影響	子どものころや身体の健康									
3位	放射線のころや心拍や影響										

Q & A

自分でなかなか産まなくていいですか？

福島県の小学生のむし歯罹患率は53.5%と近年は減少する傾向にありますが、全国と比較し8.5%上回っています。
小学校低学年の時期は乳歯への生え変わる時期で、歯に生える永久歯は12~13歳ごろに生えそろうります。フッ素入り歯磨き粉を使用し、歯垢の蓄積を減らすことが多くなりやすいために、歯は歯肉の仕上げ磨きを怠らなければなりません。また、おやつや食後に歯を磨くのが難しい場合は、口をすすぎたり、水やお茶を飲む習慣を身につけてあげましょう。

おねいよを治すには、どうすればいいですか？

「5歳以降に1か月以上夜尿が3か月以上続くこと」を夜尿症と言い、小学校入学時において10人に1人以上にみられるとされています。
寝る前の水分を控える、寝る前におしっこさせる、寝る前には、夜尿器や小児用おしりとり紙がよいとされ、成長とともに自然に治ると言われています。悩んでいる場合には、夜尿器や小児用おしりとり紙がよいとされ、成長とともに自然に治ると言われています。悩んでいる場合には、夜尿器や小児用おしりとり紙がよいとされ、成長とともに自然に治ると言われています。

学校から帰ると、イライラして顔や物に当たることがありますか？

家で親に当たる子どもは、学校では周囲に気を遣い、かたがたがなびかっているのだから、子どもが帰ると、親の気持ちを押し返して怒り出すことがあります。子どもが帰ると、親の気持ちを押し返して怒り出すことがあります。子どもが帰ると、親の気持ちを押し返して怒り出すことがあります。

スマホやゲームに集中しすぎて、眠れなくなったり生活リズムを整える方法はあるのでしょうか？

小学校低学年の子どもの7割近くがインターネットやゲームを利用し、年齢が上がるほど利用時間も高くなっていきます。その内容は、動画やゲームの利用よりも動画視聴やゲームの利用が多くなっています。平成30年には、世界保健機関がゲーム依存を疾患に認定しています。
インターネットはそれ自体が目的ではなく、職業生活を充実させるためのツールです。子どもがゲーム、ネット以外で楽しむことを増やし、ゲーム、ネット以外にも居場所があると思えることが大事になります。保護者が子どもの利用時間や利用環境を適切に「やりすぎない」ようにすることが大切です。

「妊産婦に関する調査」の最新の結果は、ホームページに掲載しています。
<https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/result.html>

妊産婦調査 結果

県民健康調査「甲状腺検査【本格検査（検査4回目）】」実施状況

令和3年6月30日現在

I 調査概要

1. 目的

子どもたちの健康を長期に見守るために、甲状腺の状態を把握するための先行検査及び甲状腺の状態を継続して確認するための本格検査（検査2回目、検査3回目）に引き続き、本格検査（検査4回目）を実施する。

2. 対象者

震災時福島県にお住いの概ね18歳以下であった全県民（平成4年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた福島県民）

3. 実施期間

平成30年4月から〔平成30年度・31年度（令和元年度）〕

(1) 18歳以下の対象者

平成30年度及び平成31年度（令和元年度）の2か年で市町村順に実施

(2) 19歳以上の対象者

年齢（学年）ごとに実施

平成30年度：平成8年度、10年度生まれの方

平成31年度（令和元年度）：平成9年度、11年度生まれの方

(3) 25歳時の節目の検査対象者

20歳を超えた方は、5年ごとの節目の検査を実施

平成30年度：平成5年度生まれの方

平成31年度（令和元年度）：平成6年度生まれの方

なお、報告については別途行う。

4. 実施機関（令和3年6月30日現在の協定締結数）

福島県から委託を受けた福島県立医科大学が、対象者の利便性も考慮し、福島県内外の医療機関等と連携して検査を実施している。

(1) 一次検査

(i) 県内検査実施機関 84 か所

(ii) 県外検査実施機関 127 か所

(2) 二次検査

(i) 県内検査実施機関 5 か所（福島県立医科大学を含む）

(ii) 県外検査実施機関 37 か所

5. 検査方法

(1) 一次検査

超音波画像診断装置により甲状腺の超音波検査を実施。

なお、検査の結果は、以下の基準により複数の専門医により判定している。

(i) A判定：(A1) 結節やのう胞を認めなかった場合

(A2) 5.0 mm以下の結節や20.0 mm以下ののう胞を認めた場合

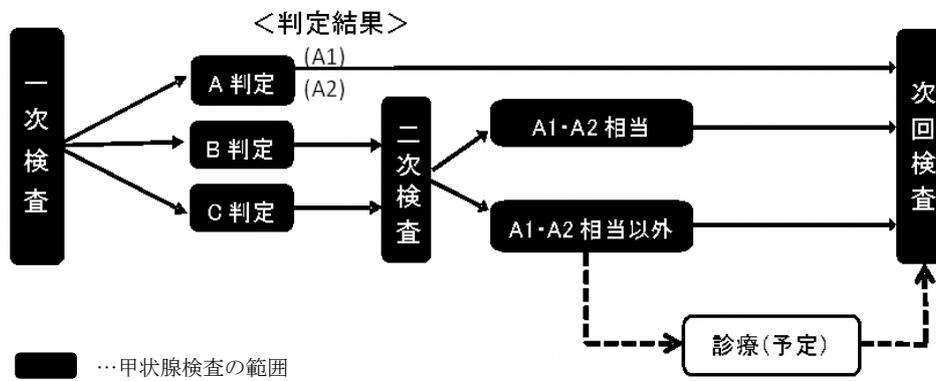
- (ii) B判定：5.1 mm以上の結節や20.1 mm以上ののう胞を認めた場合
A2の判定内容であっても、甲状腺の状態等から二次検査を要すると判断した場合も含む。
- (iii) C判定：甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要する場合

(2) 二次検査

一次検査の結果、B判定またはC判定となった場合は、二次検査の対象となる。二次検査では、詳細な超音波検査、血液検査及び尿検査を行い、必要に応じて穿刺吸引細胞診を実施する。早期に診察が必要と判断した方については優先的に二次検査を実施する。
なお、二次検査の結果、診療（予定）となる方がいる。

(3) 検査の流れ

図 1.検査の流れ



6. 実施対象年度別市町村

平成 30 年度及び平成 31 年度（令和元年度）の各実施対象市町村は次のとおり。（18 歳以下の対象者）

図 2. 実施対象年度別市町村



□ 平成 30 年度一次検査実施市町村（25 市町村）

■ 平成 31 年度（令和元年度）一次検査実施市町村（34 市町村）

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和 2 年 3 月に予定され実施見送りとなっていたいわき市の小中学校での一次検査については、令和 2 年 9 月から 10 月に実施された。

II 調査結果概要（令和3年6月30日現在）

1. 一次検査結果

（1）一次検査実施状況

令和3年6月30日までに183,352人（62.3%）の検査を実施した（市町村別受診状況及び本県以外の都道府県別受診状況は、別表1及び別表2のとおり）。

そのうち、183,338人（100.0%）の受診者について検査結果が確定し、結果通知を発送した（市町村別結果状況は、別表3のとおり）。

検査結果はA1判定の方が61,691人（33.6%）、A2判定の方が120,256人（65.6%）、B判定の方が1,391人（0.8%）、C判定の方は0人であった。

表1.一次検査進捗状況

	対象者数 (人) ア	受診者数(人)		判定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果判定数(人)				
		受診率 (%) イ(イ/ア)	うち県外 受診		判定区分別内訳(割合(%))				
					A		二次検査対象者		
					A1	エ(エ/ウ)	A2	オ(オ/ウ)	B
平成30年度 (2018年度) 実施対象市町村計	168,029	107,975 (64.3)	7,215	107,967 (100.0)	36,884 (34.2)	70,379 (65.2)	704 (0.7)	0 (0.0)	
令和元年度 (2019年度) 実施対象市町村計	126,208	75,377 (59.7)	2,988	75,371 (100.0)	24,807 (32.9)	49,877 (66.2)	687 (0.9)	0 (0.0)	
合計	294,237	183,352 (62.3)	10,203	183,338 (100.0)	61,691 (33.6)	120,256 (65.6)	1,391 (0.8)	0 (0.0)	

表2.結節・のう胞の人数・割合(詳細は別表4のとおり)

	結果判定数(人) ア	アに対する結節・のう胞の人数(割合(%))			
		結節		のう胞	
		5.1mm以上 イ(イ/ア)	5.0mm以下 ウ(ウ/ア)	20.1mm以上 エ(エ/ア)	20.0mm以下 オ(オ/ア)
平成30年度 (2018年度) 実施対象市町村計	107,967	700 (0.6)	368 (0.3)	4 (0.0)	70,736 (65.5)
令和元年度 (2019年度) 実施対象市町村計	75,371	686 (0.9)	299 (0.4)	1 (0.0)	50,221 (66.6)
合計	183,338	1,386 (0.8)	667 (0.4)	5 (0.0)	120,957 (66.0)

- ・小数で表示されている数値は、その下の位で四捨五入を行っている。以降の表、別表も同様である。
- ・5年ごとの節目に検査を行う対象者（平成4年度～平成7年度生まれ）を除いている。節目の検査対象者については、別途、計上する。
- ・平成4年度生まれの対象者（約23,000人）は平成29年度、平成5年度生まれの対象者（約22,000人）は平成30年度、平成6年度生まれの対象者（約22,000人）は平成31年度（令和元年度）、平成7年度生まれの対象者（約21,000人）は令和2年度に検査を実施する。

(2) 年齢階級別受診率

各年度4月1日時点の年齢階級別の受診率は表3のとおり。

表3.実施対象市町村における年齢階級別受診率

		計	年齢階級別内訳		
			6～11歳	12～17歳	18歳～24歳
平成30年度(2018年度) 実施対象市町村計	年齢階級 注				
	対象者数(人) ア	168,029	56,937	64,827	46,265
	受診者数(人) イ	107,975	49,639	52,673	5,663
	受診率(%) イ/ア	64.3	87.2	81.3	12.2
令和元年度(2019年度) 実施対象市町村計	年齢階級 注		7～11歳	12～17歳	18歳～24歳
	対象者数(人) ア	126,208	34,206	47,275	44,727
	受診者数(人) イ	75,377	30,187	39,253	5,937
	受診率(%) イ/ア	59.7	88.3	83.0	13.3
合 計	対象者数(人) ア	294,237	91,143	112,102	90,992
	受診者数(人) イ	183,352	79,826	91,926	11,600
	受診率(%) イ/ア	62.3	87.6	82.0	12.7

注 年齢階級は、各年度4月1日時点の年齢。

(3) 本格検査(検査3回目)結果との比較

本格検査(検査4回目)を受診した方の本格検査(検査3回目)結果との比較については表4のとおり。

検査3回目でA判定(A1及びA2判定)と判断された163,652人のうち、検査4回目でA判定(A1及びA2判定)は162,973人(99.6%)、B判定は679人(0.4%)であった。

また、検査3回目でB判定と判断された730人のうち、検査4回目でA判定(A1及びA2判定)は148人(20.3%)、B判定は582人(79.7%)であった。

表4.本格検査(検査3回目)結果との比較

		本格検査 (検査3回目)結果 計 注1	本格検査(検査4回目)結果内訳 注2				
			A		B エ (エ/ア)	C オ (オ/ア)	
			A1 イ (イ/ア)	A2 ウ (ウ/ア)			
本格検査 (検査3回目) 検査結果	A	A1	56,472 (100.0)	42,746 (75.7)	13,619 (24.1)	107 (0.2)	0 (0.0)
		A2	107,180 (100.0)	11,280 (10.5)	95,328 (88.9)	572 (0.5)	0 (0.0)
	B	730 (100.0)	12 (1.6)	136 (18.6)	582 (79.7)	0 (0.0)	
	C	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	受診なし	18,956 (100.0)	7,653 (40.4)	11,173 (58.9)	130 (0.7)	0 (0.0)	
計		183,338 (100.0)	61,691 (33.6)	120,256 (65.6)	1,391 (0.8)	0 (0.0)	

注1 上段は検査4回目結果確定者の検査3回目検査結果(人)。検査3回目結果総数の内訳ではない。

注2 上段は検査3回目結果に対する検査4回目の検査結果内訳(人)。下段は割合(%)。

2. 二次検査結果

(1) 二次検査実施状況

令和3年6月30日までに、対象者1,391人のうち1,021人(73.4%)が受診し、そのうち991人(97.1%)が二次検査を終了した(地域別二次検査実施状況は別表5のとおり)。

その991人のうち、詳細な検査の結果、93人(A1相当6人とA2相当87人)(9.4%)は、一次検査基準でA1、A2の範囲内であることが確認された(甲状腺に疾病のある方を含む)。898人(90.6%)は、A1・A2相当以外と確認された。

表5.二次検査進捗状況

	対象者数(人) ア	受診者数(人) 受診率(%) イ(イ/ア)	結果確定数(人)				
			確定率(%) ウ(ウ/イ)	A1相当 エ(エ/ウ)	A2相当 オ(オ/ウ)	A1・A2相当以外	
						カ(カ/ウ)	うち細胞診受診者 キ(キ/カ)
平成30年度 (2018年度) 実施対象市町村計	704	518 (73.6)	507 (97.9)	3 (0.6)	45 (8.9)	459 (90.5)	46 (10.0)
令和元年度 (2019年度) 実施対象市町村計	687	503 (73.2)	484 (96.2)	3 (0.6)	42 (8.7)	439 (90.7)	41 (9.3)
合計	1,391	1,021 (73.4)	991 (97.1)	6 (0.6)	87 (8.8)	898 (90.6)	87 (9.7)

(2) 細胞診等結果

穿刺吸引細胞診を実施した方のうち、36人が悪性ないし悪性疑いの判定となった。

36人の性別は男性16人、女性20人であった。また、二次検査時点での年齢は9歳から24歳(平均年齢は16.6±3.0歳)、腫瘍の大きさは6.1mmから29.4mm(平均腫瘍径は13.3±6.4mm)であった。

なお、36人の本格検査(検査3回目)の結果は、A判定が25人(A1が6人、A2が19人)、B判定が8人、未受診が3人であった。

表6.細胞診結果(平均年齢と平均腫瘍径の()内は範囲を示す)

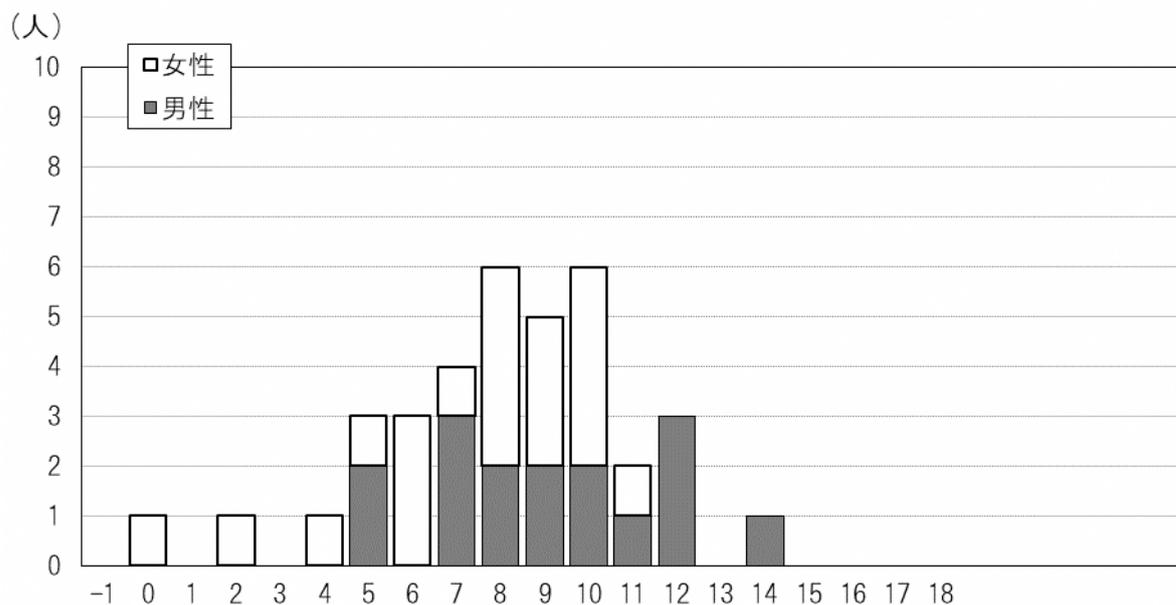
ア	平成30年度(2018年度)実施対象市町村
	・悪性ないし悪性疑い 20人注
	・男性：女性 10人：10人
	・平均年齢 16.4±3.2歳(11-24歳)、震災当時8.2±2.9歳(2-14歳)
	・平均腫瘍径 11.7±5.2mm(6.9-29.4mm)
イ	令和元年度(2019年度)実施対象市町村
	・悪性ないし悪性疑い 16人注
	・男性：女性 6人：10人
	・平均年齢 17.0±2.8歳(9-20歳)、震災当時8.1±2.9歳(0-12歳)
	・平均腫瘍径 15.3±7.4mm(6.1-29.0mm)
ウ	合計
	・悪性ないし悪性疑い 36人注
	・男性：女性 16人：20人
	・平均年齢 16.6±3.0歳(9-24歳)、震災当時8.1±2.9歳(0-14歳)
	・平均腫瘍径 13.3±6.4mm(6.1-29.4mm)

注 手術症例については別表6のとおり。

(3) 細胞診等で悪性ないし悪性疑いであった方の年齢分布

細胞診等で悪性ないし悪性疑いであった36人の平成23年3月11日時点の年齢による分布は図3、二次検査時点の年齢による分布は図4のとおり。

図3.平成23年3月11日時点の年齢による分布

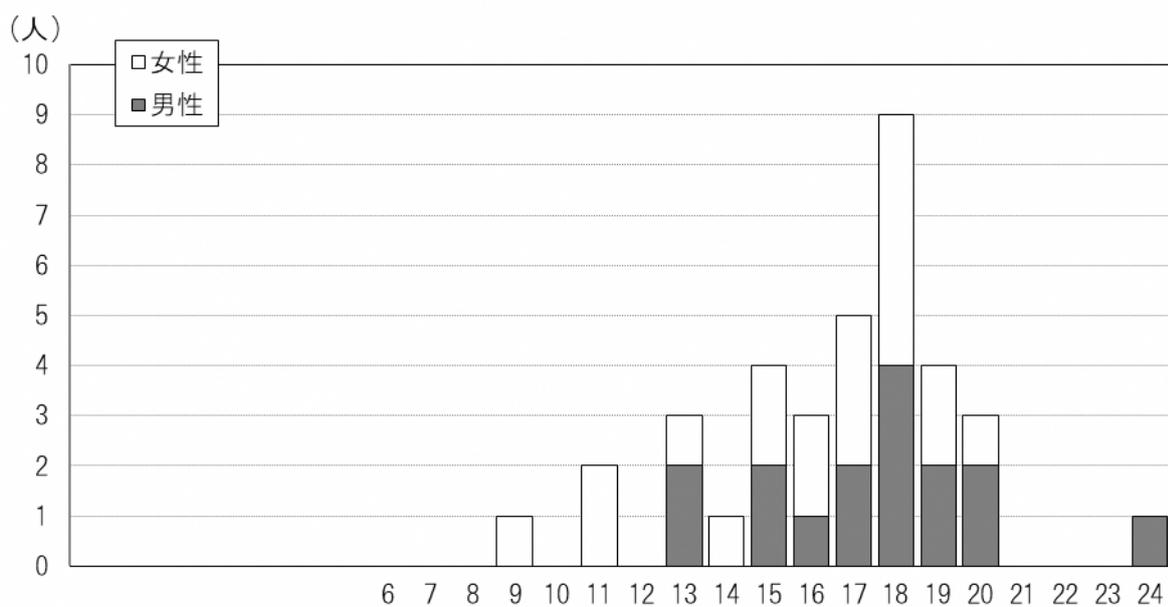


注 15～18歳は検査4回目の対象者には含まれない。

－1は、平成23年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた福島県民を示す。

※平成23年3月12日から平成23年4月1日までに生まれた福島県民は、0に含む。

図4.二次検査時点の年齢による分布



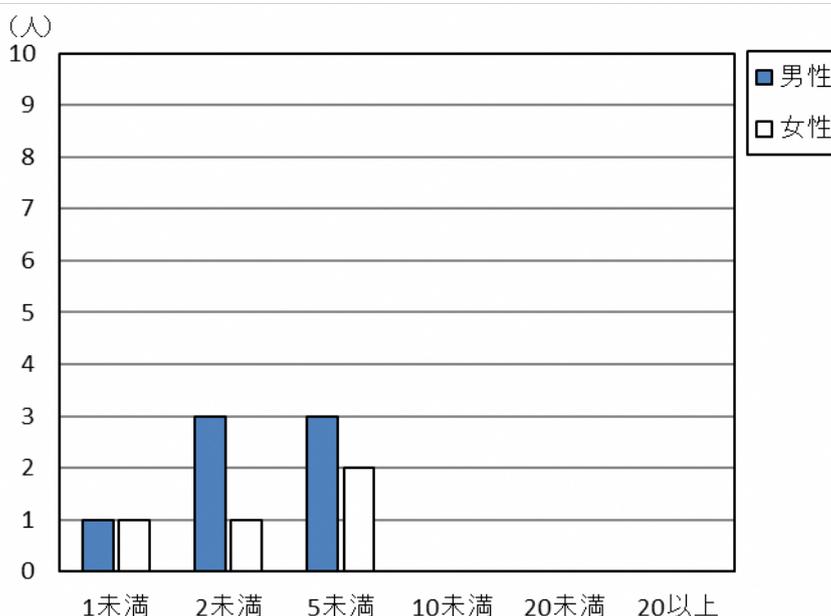
(4) 細胞診等で悪性ないし悪性疑いであった方の基本調査結果

36人のうち基本調査問診票を提出した方は11人(30.6%)で、推計結果が通知された方は11人であった。このうち最大実効線量は2.4mSvであった。

表7. 基本調査問診票提出者の外部被ばく実効線量推計内訳(人)

実効線量 (mSv)	震災時年齢(歳)									
	0~5		6~10		11~15		16~18		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1未満	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
2未満	0	0	2	1	1	0	0	0	3	1
5未満	2	0	0	2	1	0	0	0	3	2
10未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	3	4	2	0	0	0	7	4

図5. 基本調査問診票提出者の外部被ばく実効線量推計内訳



(5) 血液検査及び尿中ヨウ素

表8. 血液データ

	FT4 注1 (ng/dL)	FT3 注2 (pg/mL)	TSH 注3 (μ IU/mL)	Tg 注4 (ng/mL)	TgAb 注5 (IU/mL)	TPOAb 注6 (IU/mL)
基準値	0.95~1.74 注7	2.13~4.07 注7	0.340~3.880 注7	33.7 以下	28.0 未満	16.0 未満
悪性ないし悪性疑い36人	1.3 \pm 0.1 (2.8%)	3.6 \pm 0.5 (0.0%)	1.3 \pm 0.7 (2.8%)	32.2 \pm 53.8 (22.2%)	38.9%	25.0%
その他913人	1.2 \pm 0.2 (5.0%)	3.5 \pm 0.7 (6.9%)	1.2 \pm 0.8 (7.8%)	32.2 \pm 113.2 (16.3%)	6.8%	6.8%

表9. 尿中ヨウ素データ

	最小値	25%値	中央値	75%値	最大値
悪性ないし悪性疑い36人	35	94	195	426	1783
その他904人	32	119	193	346	31920

μ g/day

注1 FT4 (遊離サイロキシン) ...ヨードの数が4つの甲状腺ホルモン。甲状腺中毒症では高値(代表的疾患:バセドウ病)、甲状腺機能低下症では低値(代表的疾患:橋本病)になることが多い。数値は平均 \pm SDで示し、基準範囲外の割合を()内に示した。

- 注 2 FT3 (遊離トリヨードサイロニン) …ヨードの数が 3 つの甲状腺ホルモン。甲状腺中毒症では高値 (代表的疾患:バセドウ病)、甲状腺機能低下症では低値 (代表的疾患:橋本病) になることが多い。数値は平均±SD で示し、基準範囲外の割合を () 内に示した。
- 注 3 TSH (甲状腺刺激ホルモン) …脳の下垂体から出ているホルモンで甲状腺へ甲状腺ホルモンを出すよう命令する。橋本病では高値、バセドウ病では低値になることが多い。数値は平均±SD で示し、基準範囲外の割合を () 内に示した。
- 注 4 Tg(サイログロブリン)…甲状腺ホルモンになる直前の物質。甲状腺内に多量に存在する。甲状腺が破壊されたり、腫瘍が Tg を産生していたりする場合に高値になることが多い。数値は平均±SD で示し、基準範囲外の割合を () 内に示した。
- 注 5 TgAb (抗サイログロブリン抗体) …サイログロブリンに対する自己抗体。橋本病やバセドウ病で高値になることが多い。基準値を超えたものの割合を示す。
- 注 6 TPOAb (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体) …ペルオキシダーゼという酵素に対しての自己抗体。橋本病やバセドウ病で高値。基準値を超えたものの割合を示す。
- 注 7 基準値は年齢ごとに異なる。

(6) 地域別二次検査結果

悪性ないし悪性疑いであった方の割合は、浜通りが0.03%、中通り及び会津地方が0.02%、国が指定した避難区域等の13市町村が0.01%であった。

	一次検査受診者 (人) ア	二次検査対象者 (人) イ	二次検査対象者 の割合(%) イ/ア	二次検査受診者 (人)	悪性ないし悪性 疑い(人) ウ	悪性ないし悪性 疑いの割合(%) ウ/ア
避難区域等 13市町村 注1	22,562	151	0.7	120	2	0.01
中通り 注2	104,118	710	0.7	509	21	0.02
浜通り 注3	33,745	323	1.0	243	9	0.03
会津地方 注4	22,927	207	0.9	149	4	0.02
合計	183,352	1,391	0.8	1,021	36	0.02

注1 田村市、南相馬市、伊達市、川俣町、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村

注2 福島市、郡山市、白河市、須賀川市、二本松市、本宮市、桑折町、国見町、大玉村、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

注3 いわき市、相馬市、新地町

注4 会津若松市、喜多方市、下郷町、檜枝岐村、只見町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町

3. こころのケア・サポート

検査対象者へのこころのケア・サポートとして、次の取組を行っている。

(1) 一次検査のサポートについて

甲状腺検査対象者に対して、公共施設等の一般会場では、検査結果説明ブースにおいて、検査終了後、医師が超音波画像を提示しながら結果の説明を行った。

平成30年4月以降、令和3年6月30日現在で、全会場で検査結果説明ブースを設置し、受診者2,647人のうち2,646人（100%）が利用した。

(2) 出張説明会・出前授業について

検査対象者や保護者に対して甲状腺検査の理解を深めるため、出張説明会や出前授業を実施した。

平成30年4月以降、令和2年3月31日までに、32会場で1,063人に対して説明等を行った。

(3) 二次検査のサポートについて

福島県立医科大学内にサポートチームを立ち上げ、二次検査対象者に対して、心配や不安へのこころのケア・サポートを行い、その他WEB相談による質問・相談を受け付けるなどの対応を行っている。

なお、本格検査（検査4回目）開始以降、令和3年6月30日現在で、479人のサポートをしており、性別は男性160人、女性319人であった。この方々に延べ947回の相談対応等をしており、その内訳は初回受診時476回（50.3%）、2回目以降受診時471回（49.7%）であった。

また、保険診療移行後についても病院のチームと連携し、継続して支援を行っている。

別表 1

市町村別一次検査実施状況

令和 3 年 6 月 30 日現在

	対象者数 (人) ア	受診者数 (人) イ	うち 県外受診 注1	受診率 (%) イ/ア	年齢階級別受診者数(人) 年齢階級別内訳(%) 注2			イのうち県 外居住者 数(人) ウ注3	イのうち県 外居住者 の割合 (%) ウ/イ
					6~11歳	12~17歳	18~24歳		
平成30年度(2018年度)実施対象市町村									
川俣町	1,832	1,134	26	61.9	472 41.6	576 50.8	86 7.6	58	5.1
浪江町	2,858	1,520	311	53.2	587 38.6	718 47.2	215 14.1	370	24.3
飯館村	852	544	19	63.8	220 40.4	279 51.3	45 8.3	28	5.1
南相馬市	10,202	6,007	845	58.9	2,495 41.5	2,980 49.6	532 8.9	942	15.7
伊達市	8,781	5,929	194	67.5	2,333 39.3	3,042 51.3	554 9.3	217	3.7
田村市	5,435	3,425	71	63.0	1,515 44.2	1,640 47.9	270 7.9	110	3.2
広野町	801	448	35	55.9	183 40.8	215 48.0	50 11.2	35	7.8
楢葉町	1,094	598	50	54.7	220 36.8	296 49.5	82 13.7	61	10.2
富岡町	2,341	1,194	198	51.0	445 37.3	571 47.8	178 14.9	217	18.2
川内村	267	152	10	56.9	55 36.2	85 55.9	12 7.9	14	9.2
大熊町	2,020	1,139	211	56.4	442 38.8	551 48.4	146 12.8	229	20.1
双葉町	978	363	62	37.1	146 40.2	179 49.3	38 10.5	66	18.2
葛尾村	174	109	3	62.6	39 35.8	57 52.3	13 11.9	5	4.6
福島市	43,241	29,056	1,845	67.2	11,774 40.5	14,384 49.5	2,898 10.0	1,942	6.7
二本松市	8,104	5,473	204	67.5	2,275 41.6	2,780 50.8	418 7.6	196	3.6
本宮市	4,910	3,202	101	65.2	1,401 43.8	1,564 48.8	237 7.4	121	3.8
大玉村	1,287	918	26	71.3	416 45.3	440 47.9	62 6.8	19	2.1
郡山市	52,559	33,383	2,533	63.5	13,496 40.4	16,706 50.0	3,181 9.5	2,619	7.8
桑折町	1,609	1,130	32	70.2	465 41.2	545 48.2	120 10.6	41	3.6
国見町	1,204	810	18	67.3	296 36.5	432 53.3	82 10.1	23	2.8
天栄村	839	525	8	62.6	224 42.7	262 49.9	39 7.4	11	2.1
白河市	9,970	6,519	276	65.4	2,624 40.3	3,294 50.5	601 9.2	329	5.0
西郷村	3,263	2,214	96	67.9	920 41.6	1,083 48.9	211 9.5	110	5.0
泉崎村	1,025	667	4	65.1	277 41.5	336 50.4	54 8.1	6	0.9
三春町	2,383	1,516	37	63.6	562 37.1	780 51.5	174 11.5	38	2.5
小計	168,029	107,975	7,215	64.3	43,882 40.6	53,795 49.8	10,298 9.5	7,807	7.2

注1 受診者のうち県外検査実施機関で検査を受診した人数（令和3年5月31日現在）。

注2 上段には受診者数を、下段には受診者数イの階級別割合を記載。

注3 受診者のうち県外住所の方の人数。

・年齢階級は本格検査（検査4回目）の検査受診時点の年齢である。以降の別表も同様である。

	対象者数 (人) ア	受診者数 (人) イ	うち 県外受診 注1	受診率 (%) イ/ア	年齢階級別受診者数(人) 年齢階級別内訳(%) 注2			イのうち県 外居住者 数(人) ウ注3	イのうち県 外居住者 の割合 (%) ウ/イ
					6~11歳	12~17歳	18~24歳		
令和元年度(2019年度)実施対象市町村									
いわき市	49,643	29,873	1,668	60.2	9,471 31.7	16,105 53.9	4,297 14.4	1,771	5.9
須賀川市	12,378	7,554	222	61.0	2,764 36.6	3,935 52.1	855 11.3	240	3.2
相馬市	5,507	3,193	215	58.0	1,263 39.6	1,647 51.6	283 8.9	249	7.8
鏡石町	2,133	1,323	33	62.0	491 37.1	702 53.1	130 9.8	36	2.7
新地町	1,162	679	33	58.4	233 34.3	375 55.2	71 10.5	35	5.2
中島村	849	505	8	59.5	192 38.0	265 52.5	48 9.5	7	1.4
矢吹町	2,672	1,687	28	63.1	727 43.1	837 49.6	123 7.3	38	2.3
石川町	2,182	1,349	26	61.8	543 40.3	677 50.2	129 9.6	39	2.9
矢祭町	816	479	14	58.7	213 44.5	238 49.7	28 5.8	13	2.7
浅川町	1,064	661	22	62.1	238 36.0	360 54.5	63 9.5	26	3.9
平田村	969	608	8	62.7	245 40.3	308 50.7	55 9.0	5	0.8
棚倉町	2,399	1,467	30	61.2	589 40.1	782 53.3	96 6.5	32	2.2
塙町	1,299	707	16	54.4	289 40.9	371 52.5	47 6.6	22	3.1
鮫川村	519	307	7	59.2	137 44.6	156 50.8	14 4.6	5	1.6
小野町	1,488	878	9	59.0	354 40.3	448 51.0	76 8.7	11	1.3
玉川村	1,052	658	4	62.5	253 38.4	357 54.3	48 7.3	7	1.1
古殿町	817	522	20	63.9	208 39.8	251 48.1	63 12.1	15	2.9
檜枝岐村	87	36	1	41.4	16 44.4	16 44.4	4 11.1	1	2.8
南会津町	2,128	1,170	19	55.0	482 41.2	605 51.7	83 7.1	31	2.6
金山町	147	72	1	49.0	21 29.2	41 56.9	10 13.9	2	2.8
昭和村	115	68	3	59.1	31 45.6	33 48.5	4 5.9	3	4.4
三島町	148	84	0	56.8	29 34.5	50 59.5	5 6.0	0	0.0
下郷町	747	427	5	57.2	179 41.9	222 52.0	26 6.1	8	1.9
喜多方市	6,948	4,098	81	59.0	1,489 36.3	2,224 54.3	385 9.4	106	2.6
西会津町	761	407	9	53.5	169 41.5	190 46.7	48 11.8	13	3.2
只見町	555	335	6	60.4	138 41.2	170 50.7	27 8.1	7	2.1
猪苗代町	2,069	1,204	28	58.2	507 42.1	593 49.3	104 8.6	32	2.7
磐梯町	477	289	8	60.6	109 37.7	157 54.3	23 8.0	9	3.1
北塩原村	445	280	3	62.9	115 41.1	145 51.8	20 7.1	6	2.1
会津美里町	2,823	1,725	33	61.1	634 36.8	896 51.9	195 11.3	41	2.4
会津坂下町	2,402	1,421	38	59.2	540 38.0	724 51.0	157 11.0	41	2.9
柳津町	464	284	2	61.2	115 40.5	143 50.4	26 9.2	3	1.1
会津若松市	18,424	10,676	382	57.9	3,889 36.4	5,589 52.4	1,198 11.2	470	4.4
湯川村	519	351	6	67.6	123 35.0	178 50.7	50 14.2	13	3.7
小計	126,208	75,377	2,988	59.7	26,796 35.5	39,790 52.8	8,791 11.7	3,337	4.4
合計	294,237	183,352	10,203	62.3	70,678 38.5	93,585 51.0	19,089 10.4	11,144	6.1

別表 2

都道府県別県外検査実施状況

令和3年5月31日現在

都道府県名	県外検査 実施機関 数	受診者数 (人)	都道府県名	県外検査 実施機関 数	受診者数 (人)	都道府県名	県外検査 実施機関 数	受診者数 (人)
北海道	7	279	福井県	1	18	広島県	2	27
青森県	2	124	山梨県	2	87	山口県	1	21
岩手県	3	250	長野県	3	123	徳島県	1	5
宮城県	2	2,253	岐阜県	1	29	香川県	1	25
秋田県	1	156	静岡県	3	83	愛媛県	1	15
山形県	3	472	愛知県	5	178	高知県	1	11
茨城県	4	569	三重県	1	17	福岡県	3	73
栃木県	8	629	滋賀県	1	14	佐賀県	1	1
群馬県	2	173	京都府	3	80	長崎県	3	25
埼玉県	3	529	大阪府	8	174	熊本県	1	28
千葉県	5	471	兵庫県	2	123	大分県	1	13
東京都	18	1,711	奈良県	2	24	宮崎県	1	20
神奈川県	6	750	和歌山県	1	9	鹿児島県	1	5
新潟県	3	448	鳥取県	1	7	沖縄県	1	34
富山県	2	27	島根県	1	11			
石川県	1	35	岡山県	3	47			
						合計	127	10,203

・受診者数は県外検査実施機関で検査を受診した人数

別表 3

市町村別一次検査結果

令和 3 年 6 月 30 日現在

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ 進捗状況 イ/ア(%)	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
			判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
平成30年度(2018年度)実施対象市町村										
川俣町	1,134	1,134 100.0	408 36.0	721 63.6	5 0.4	0 0.0	4 0.4	3 0.3	1 0.1	725 63.9
浪江町	1,520	1,520 100.0	499 32.8	1,007 66.3	14 0.9	0 0.0	14 0.9	6 0.4	0 0.0	1,012 66.6
飯館村	544	544 100.0	203 37.3	337 61.9	4 0.7	0 0.0	4 0.7	2 0.4	0 0.0	340 62.5
南相馬市	6,007	6,007 100.0	2,116 35.2	3,847 64.0	44 0.7	0 0.0	44 0.7	29 0.5	0 0.0	3,863 64.3
伊達市	5,929	5,929 100.0	2,043 34.5	3,851 65.0	35 0.6	0 0.0	35 0.6	19 0.3	0 0.0	3,872 65.3
田村市	3,425	3,425 100.0	1,271 37.1	2,132 62.2	22 0.6	0 0.0	22 0.6	10 0.3	0 0.0	2,142 62.5
広野町	448	448 100.0	169 37.7	273 60.9	6 1.3	0 0.0	6 1.3	3 0.7	0 0.0	273 60.9
楡葉町	598	598 100.0	208 34.8	388 64.9	2 0.3	0 0.0	2 0.3	1 0.2	0 0.0	388 64.9
富岡町	1,194	1,194 100.0	423 35.4	764 64.0	7 0.6	0 0.0	7 0.6	4 0.3	0 0.0	766 64.2
川内村	152	152 100.0	45 29.6	105 69.1	2 1.3	0 0.0	2 1.3	0 0.0	0 0.0	107 70.4
大熊町	1,139	1,139 100.0	392 34.4	739 64.9	8 0.7	0 0.0	8 0.7	5 0.4	0 0.0	746 65.5
双葉町	363	363 100.0	109 30.0	253 69.7	1 0.3	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	254 70.0
葛尾村	109	109 100.0	34 31.2	74 67.9	1 0.9	0 0.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	74 67.9
福島市	29,056	29,054 100.0	10,018 34.5	18,863 64.9	173 0.6	0 0.0	172 0.6	94 0.3	1 0.0	18,949 65.2
二本松市	5,473	5,473 100.0	1,912 34.9	3,508 64.1	53 1.0	0 0.0	52 1.0	20 0.4	1 0.0	3,538 64.6
本宮市	3,202	3,202 100.0	1,124 35.1	2,064 64.5	14 0.4	0 0.0	14 0.4	8 0.2	0 0.0	2,066 64.5
大玉村	918	918 100.0	305 33.2	606 66.0	7 0.8	0 0.0	7 0.8	2 0.2	0 0.0	609 66.3
郡山市	33,383	33,377 100.0	10,980 32.9	22,181 66.5	216 0.6	0 0.0	215 0.6	116 0.3	1 0.0	22,295 66.8
桑折町	1,130	1,130 100.0	400 35.4	723 64.0	7 0.6	0 0.0	7 0.6	2 0.2	0 0.0	726 64.2
国見町	810	810 100.0	261 32.2	540 66.7	9 1.1	0 0.0	9 1.1	1 0.1	0 0.0	547 67.5
天栄村	525	525 100.0	192 36.6	329 62.7	4 0.8	0 0.0	4 0.8	2 0.4	0 0.0	333 63.4
白河市	6,519	6,519 100.0	2,276 34.9	4,201 64.4	42 0.6	0 0.0	42 0.6	25 0.4	0 0.0	4,222 64.8
西郷村	2,214	2,214 100.0	740 33.4	1,460 65.9	14 0.6	0 0.0	14 0.6	9 0.4	0 0.0	1,467 66.3
泉崎村	667	667 100.0	243 36.4	422 63.3	2 0.3	0 0.0	2 0.3	2 0.3	0 0.0	424 63.6
三春町	1,516	1,516 100.0	513 33.8	991 65.4	12 0.8	0 0.0	12 0.8	5 0.3	0 0.0	998 65.8
小計	107,975	107,967 100.0	36,884 34.2	70,379 65.2	704 0.7	0 0.0	700 0.6	368 0.3	4 0.0	70,736 65.5

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ 進捗状況 イ/ア(%)	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
			判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
令和元年度(2019年度)実施対象市町村										
いわき市	29,873	29,870 100.0	9,429 31.6	20,163 67.5	278 0.9	0 0.0	277 0.9	117 0.4	1 0.0	20,294 67.9
須賀川市	7,554	7,554 100.0	2,376 31.5	5,108 67.6	70 0.9	0 0.0	70 0.9	45 0.6	0 0.0	5,141 68.1
相馬市	3,193	3,193 100.0	1,058 33.1	2,095 65.6	40 1.3	0 0.0	40 1.3	11 0.3	0 0.0	2,122 66.5
鏡石町	1,323	1,323 100.0	410 31.0	900 68.0	13 1.0	0 0.0	13 1.0	6 0.5	0 0.0	905 68.4
新地町	679	679 100.0	229 33.7	445 65.5	5 0.7	0 0.0	5 0.7	3 0.4	0 0.0	448 66.0
中島村	505	505 100.0	175 34.7	327 64.8	3 0.6	0 0.0	3 0.6	1 0.2	0 0.0	330 65.3
矢吹町	1,687	1,687 100.0	613 36.3	1,066 63.2	8 0.5	0 0.0	8 0.5	7 0.4	0 0.0	1,070 63.4
石川町	1,349	1,349 100.0	460 34.1	875 64.9	14 1.0	0 0.0	14 1.0	4 0.3	0 0.0	883 65.5
矢祭町	479	479 100.0	151 31.5	328 68.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.4	0 0.0	328 68.5
浅川町	661	661 100.0	211 31.9	443 67.0	7 1.1	0 0.0	7 1.1	3 0.5	0 0.0	444 67.2
平田村	608	608 100.0	235 38.7	371 61.0	2 0.3	0 0.0	2 0.3	2 0.3	0 0.0	372 61.2
棚倉町	1,467	1,467 100.0	541 36.9	916 62.4	10 0.7	0 0.0	10 0.7	7 0.5	0 0.0	924 63.0
塙町	707	707 100.0	267 37.8	435 61.5	5 0.7	0 0.0	5 0.7	2 0.3	0 0.0	436 61.7
鮫川村	307	307 100.0	130 42.3	174 56.7	3 1.0	0 0.0	3 1.0	0 0.0	0 0.0	175 57.0
小野町	878	878 100.0	273 31.1	596 67.9	9 1.0	0 0.0	9 1.0	1 0.1	0 0.0	603 68.7
玉川村	658	658 100.0	243 36.9	404 61.4	11 1.7	0 0.0	11 1.7	2 0.3	0 0.0	410 62.3
古殿町	522	522 100.0	202 38.7	318 60.9	2 0.4	0 0.0	2 0.4	2 0.4	0 0.0	317 60.7
檜枝岐村	36	36 100.0	12 33.3	24 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	24 66.7
南会津町	1,170	1,169 99.9	435 37.2	722 61.8	12 1.0	0 0.0	12 1.0	3 0.3	0 0.0	728 62.3
金山町	72	72 100.0	22 30.6	49 68.1	1 1.4	0 0.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	50 69.4
昭和村	68	68 100.0	23 33.8	45 66.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	45 66.2
三島町	84	84 100.0	21 25.0	62 73.8	1 1.2	0 0.0	1 1.2	0 0.0	0 0.0	63 75.0
下郷町	427	427 100.0	162 37.9	261 61.1	4 0.9	0 0.0	4 0.9	0 0.0	0 0.0	263 61.6
喜多方市	4,098	4,098 100.0	1,409 34.4	2,657 64.8	32 0.8	0 0.0	32 0.8	22 0.5	0 0.0	2,665 65.0
西会津町	407	407 100.0	149 36.6	255 62.7	3 0.7	0 0.0	3 0.7	1 0.2	0 0.0	257 63.1
只見町	335	335 100.0	117 34.9	217 64.8	1 0.3	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	218 65.1
猪苗代町	1,204	1,204 100.0	418 34.7	770 64.0	16 1.3	0 0.0	16 1.3	4 0.3	0 0.0	783 65.0
磐梯町	289	289 100.0	83 28.7	202 69.9	4 1.4	0 0.0	4 1.4	1 0.3	0 0.0	204 70.6
北塩原村	280	280 100.0	96 34.3	182 65.0	2 0.7	0 0.0	2 0.7	0 0.0	0 0.0	184 65.7
会津美里町	1,725	1,725 100.0	553 32.1	1,156 67.0	16 0.9	0 0.0	16 0.9	8 0.5	0 0.0	1,160 67.2
会津坂下町	1,421	1,421 100.0	445 31.3	965 67.9	11 0.8	0 0.0	11 0.8	6 0.4	0 0.0	973 68.5
柳津町	284	284 100.0	103 36.3	181 63.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	181 63.7
会津若松市	10,676	10,674 100.0	3,614 33.9	6,960 65.2	100 0.9	0 0.0	100 0.9	36 0.3	0 0.0	7,013 65.7
湯川村	351	351 100.0	142 40.5	205 58.4	4 1.1	0 0.0	4 1.1	3 0.9	0 0.0	208 59.3
小計	75,377	75,371 100.0	24,807 32.9	49,877 66.2	687 0.9	0 0.0	686 0.9	299 0.4	1 0.0	50,221 66.6
合計	183,352	183,338 100.0	61,691 33.6	120,256 65.6	1,391 0.8	0 0.0	1,386 0.8	667 0.4	5 0.0	120,957 66.0

別表 4

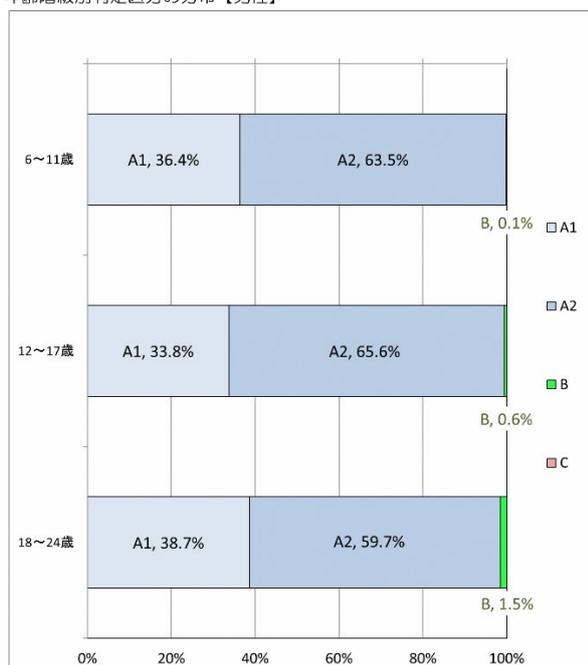
1 検査結果確定者の年齢及び性別

(単位 人)

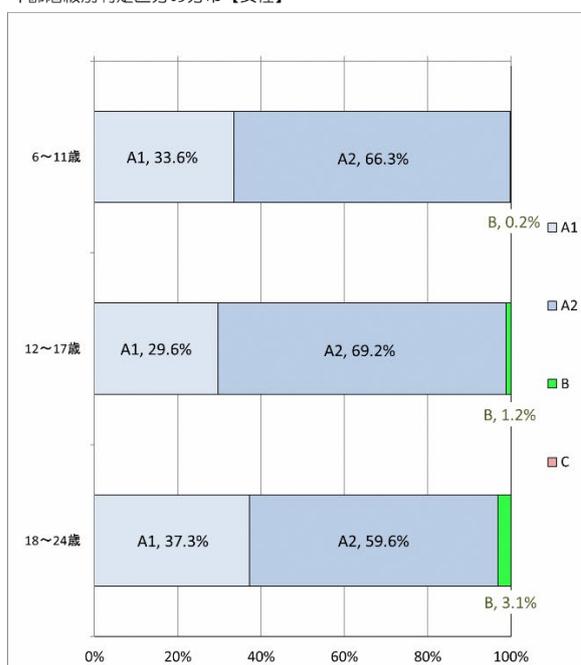
令和3年6月30日現在

判定・性別 年齢階級	A						B			C			合計		
	A1			A2			男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	男性	女性	計	男性	女性	計									
6～11歳	13,179	11,563	24,742	23,008	22,831	45,839	39	57	96	0	0	0	36,226	34,451	70,677
12～17歳	16,059	13,652	29,711	31,182	31,853	63,035	284	555	839	0	0	0	47,525	46,060	93,585
18～24歳	3,421	3,817	7,238	5,277	6,105	11,382	136	320	456	0	0	0	8,834	10,242	19,076
合計	32,659	29,032	61,691	59,467	60,789	120,256	459	932	1,391	0	0	0	92,585	90,753	183,338

年齢階級別判定区分の分布【男性】



年齢階級別判定区分の分布【女性】

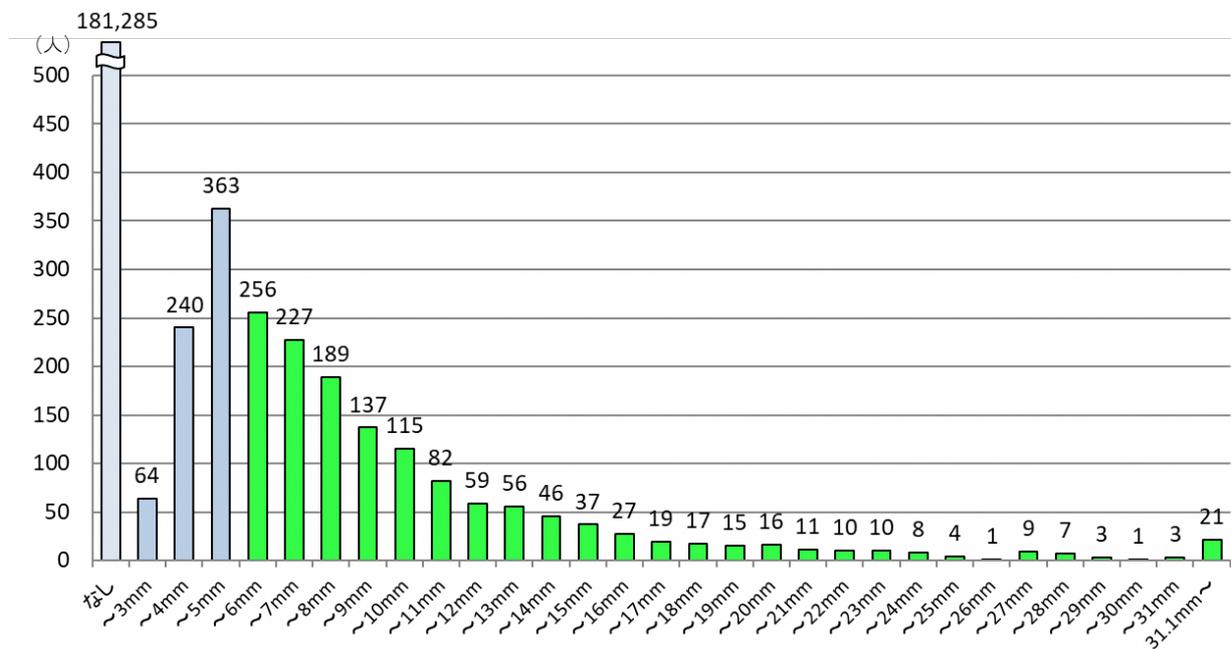
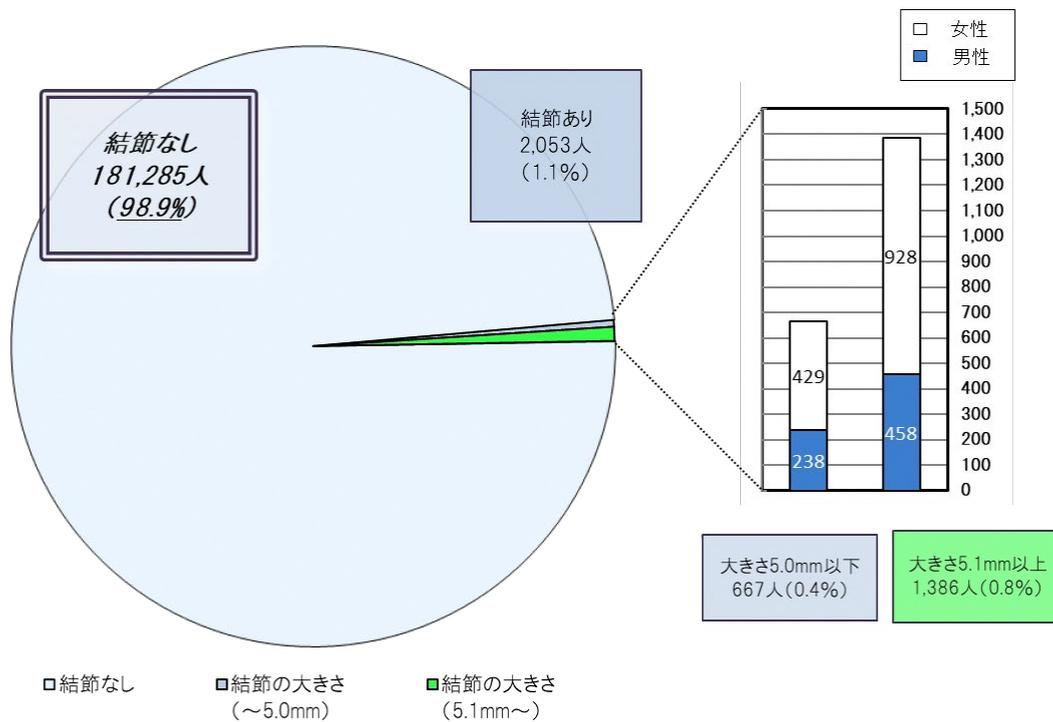


2 結節の有無及び大きさ

(単位 人)

令和3年6月30日現在

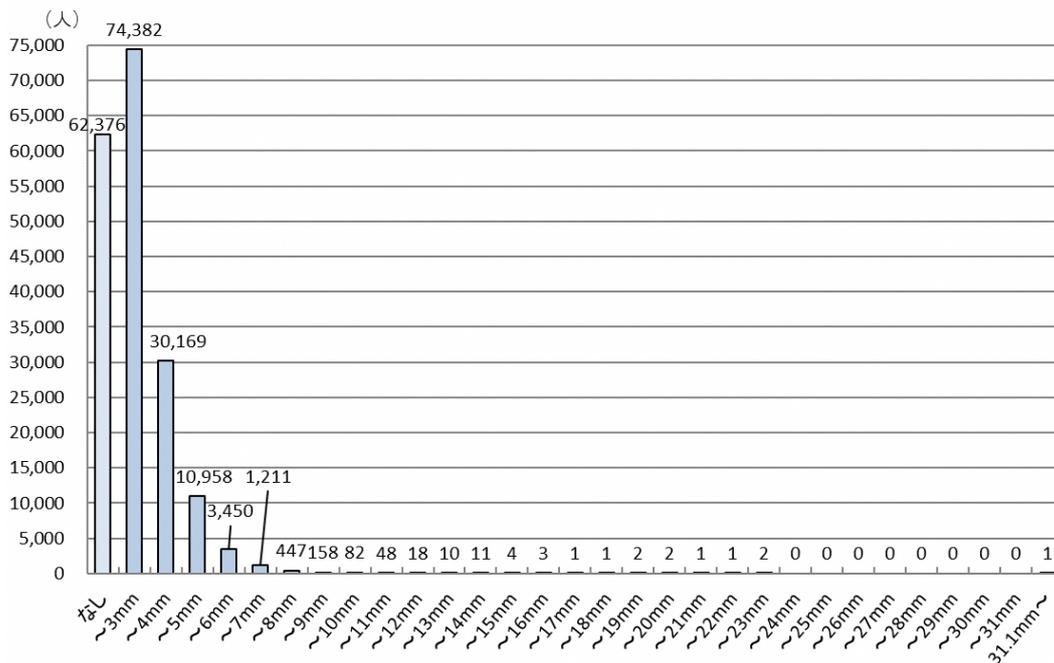
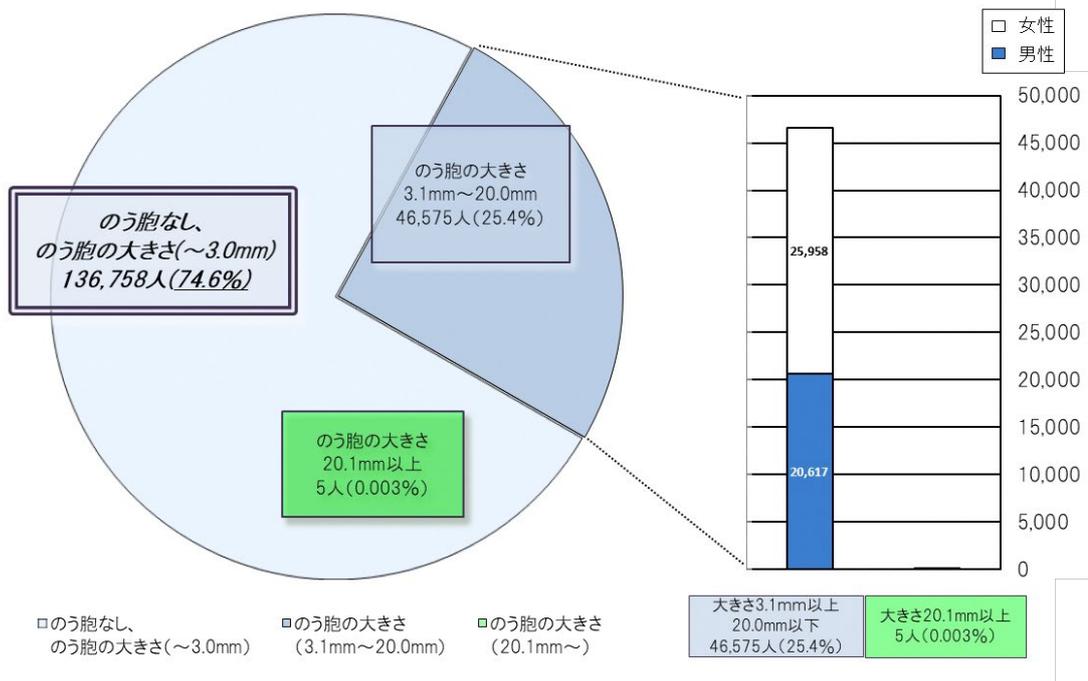
結節の有無・大きさ	全体	性別		判定区分	割合
		男性	女性		
なし	181,285	91,889	89,396	A1	98.9%
~3.0mm	64	31	33	A2	0.4%
3.1~5.0mm	603	207	396		
5.1~10.0mm	924	313	611	B	0.8%
10.1~15.0mm	280	94	186		
15.1~20.0mm	94	27	67		
20.1~25.0mm	43	13	30		
25.1mm~	45	11	34		
計	183,338	92,585	90,753		



3 のう胞の有無及び大きさ

(単位 人)
令和3年6月30日現在

のう胞の有無・大きさ	全体	判定区分		割合	
		男性	女性		
なし	62,376	32,911	29,465	A1	74.6%
～3.0mm	74,382	39,056	35,326		
3.1～5.0mm	41,127	18,682	22,445	A2	
5.1～10.0mm	5,348	1,901	3,447		
10.1～15.0mm	91	33	58		
15.1～20.0mm	9	1	8		
20.1～25.0mm	4	0	4	B	0.003%
25.1mm～	1	1	0		
計	183,338	92,585	90,753		



別表 5

地域別二次検査実施状況

令和3年6月30日現在

	一次検査 実施者 (人)	二次検査 対象者 (人)	二次検査実施者(人)				結果確定数(人)				
			計	ウのうち 6~11歳	ウのうち 12~17歳	ウのうち 18歳以上	計	A1相当	A2相当	A1・A2相当以外	
				エ 率	オ 率	キ 率		ケ	コ	サ	シ
ア	イ 率 イ/ア(%)	ウ 受診率 ウ/イ(%)	エ 率 エ/ウ(%)	オ 率 オ/ウ(%)	キ 率 キ/ウ(%)	ク 率 ク/ウ(%)	ケ 率 ケ/ク(%)	コ 率 コ/ク(%)	サ 率 サ/ク(%)	シ 率 シ/サ(%)	
避難区域等 13市町村 注1	22,562	151	120	7	71	42	116	1	7	108	7
		0.7	79.5	5.8	59.2	35.0	96.7	0.9	6.0	93.1	6.5
中通り 注2	104,118	710	509	45	276	188	498	3	52	443	47
		0.7	71.7	8.8	54.2	36.9	97.8	0.6	10.4	89.0	10.6
浜通り 注3	33,745	323	243	10	142	91	236	1	17	218	22
		1.0	75.2	4.1	58.4	37.4	97.1	0.4	7.2	92.4	10.1
会津地方 注4	22,927	207	149	7	82	60	141	1	11	129	11
		0.9	72.0	4.7	55.0	40.3	94.6	0.7	7.8	91.5	8.5
合計	183,352	1,391	1,021	69	571	381	991	6	87	898	87
		0.8	73.4	6.8	55.9	37.3	97.1	0.6	8.8	90.6	9.7

注1 田村市、南相馬市、伊達市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村

注2 福島市、郡山市、白河市、須賀川市、二本松市、本宮市、桑折町、国見町、大玉村、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

注3 いわき市、相馬市、新地町

注4 会津若松市、喜多方市、下郷町、檜枝岐村、只見町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町

別表 6

悪性ないし悪性疑い者の手術症例

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 平成 30 年度（2018 年度）実施対象市町村 |
| | ・悪性ないし悪性疑い 20 人（手術実施 15 人：乳頭癌 15 人） |
| 2 | 令和元年度（2019 年度）実施対象市町村 |
| | ・悪性ないし悪性疑い 16 人（手術実施 14 人：乳頭癌 14 人） |
| 3 | 1～2 の合計 |
| | ・悪性ないし悪性疑い 36 人（手術実施 29 人：乳頭癌 29 人） |

県民健康調査「甲状腺検査【本格検査（検査5回目）】」実施状況

令和3年6月30日現在

I 調査概要**1. 目的**

子どもたちの健康を長期に見守るために、甲状腺の状態を把握するための先行検査及び甲状腺の状態を継続して確認するための本格検査（検査2回目、検査3回目、検査4回目）に引き続き、本格検査（検査5回目）を実施する。

2. 対象者

震災時福島県にお住いの概ね18歳以下であった全県民（平成4年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた福島県民）

3. 実施期間

令和2年4月から（令和2年度～令和4年度）

(1) 18歳以下の対象者

令和2年度から令和4年度の3か年で実施

(2) 19歳以上の対象者

年齢（学年）ごとに実施

令和2年度：平成10年度、12年度生まれの方

令和3年度：平成11年度、13年度生まれの方

令和4年度：該当年度なし

(3) 25歳時の節目の検査対象者

20歳を超えた方は、5年ごとの節目の検査を実施

令和2年度：平成7年度生まれの方

令和3年度：平成8年度生まれの方

令和4年度：平成9年度生まれの方

なお、報告については別途行う。

4. 実施機関（令和3年6月30日現在の協定締結数）

福島県から委託を受けた福島県立医科大学が、対象者の利便性も考慮し、福島県内外の医療機関等と連携して検査を実施している。

(1) 一次検査

(i) 県内検査実施機関 84 か所

(ii) 県外検査実施機関 127 か所

(2) 二次検査

(i) 県内検査実施機関 5 か所（福島県立医科大学を含む）

(ii) 県外検査実施機関 37 か所

5. 検査方法**(1) 一次検査**

超音波画像診断装置により甲状腺の超音波検査を実施。

なお、検査の結果は、以下の基準により複数の専門医により判定している。

- (i) A判定：(A1) 結節やのう胞を認めなかった場合
 (A2) 5.0 mm以下の結節や20.0 mm以下ののう胞を認めた場合
- (ii) B判定：5.1 mm以上の結節や20.1 mm以上ののう胞を認めた場合
 A2の判定内容であっても、甲状腺の状態等から二次検査を要すると判断した場合も含む。
- (iii) C判定：甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要する場合

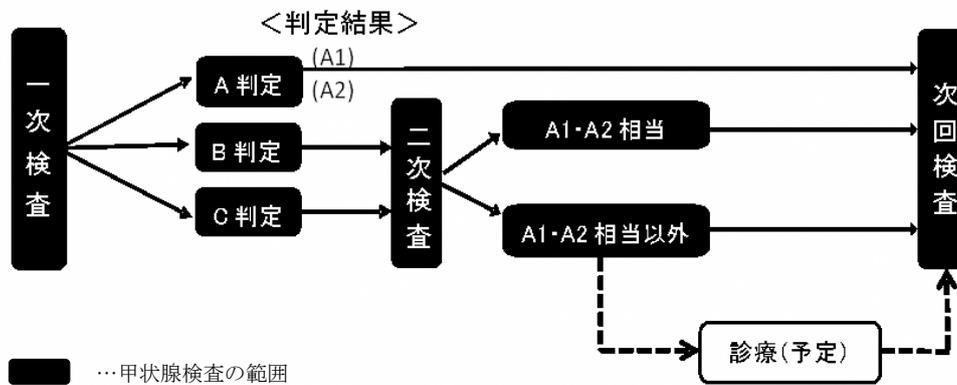
(2) 二次検査

一次検査の結果、B判定またはC判定となった場合は、二次検査の対象となる。二次検査では、詳細な超音波検査、血液検査及び尿検査を行い、必要に応じて穿刺吸引細胞診を実施する。早期に診察が必要と判断した方については優先的に二次検査を実施する。

なお、二次検査の結果、診療（予定）となる方がいる。

(3) 検査の流れ

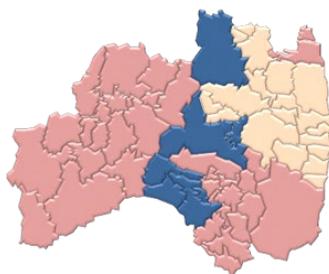
図1.検査の流れ



6. 実施対象年度別市町村

令和2年度～令和4年度の各実施対象市町村は次のとおり。（18歳以下の対象者）

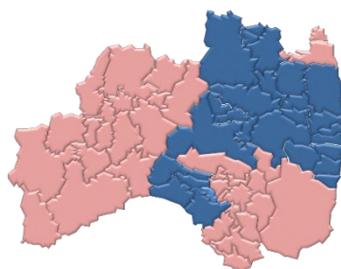
図2. 実施対象年度別市町村(県内小中学校)



- 令和2年度一次検査実施市町村（18市町村）
- 令和3年度一次検査実施市町村（7市町村）
- 令和4年度一次検査実施市町村（34市町村）

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度分の小中学校における検査については、令和2年9月から開始された。

図3. 実施対象年度別市町村(県内高等学校等)



- 令和3年度一次検査実施市町村（25市町村）
- 令和4年度一次検査実施市町村（34市町村）

なお、集計については当初計画の2か年度ごとに集計する。

II 調査結果概要（令和3年6月30日現在）

1. 一次検査結果

（1）一次検査実施状況

令和3年6月30日までに32,404人（12.8%）の検査を実施した。

そのうち、24,882人（76.8%）の受診者について検査結果が確定し、結果通知を発送した。

検査結果はA1判定の方が7,844人（31.5%）、A2判定の方が16,747人（67.3%）、B判定の方が291人（1.2%）、C判定の方は0人であった。

表1.一次検査進捗状況

	対象者数 (人) ア	受診者数(人)		判定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果判定数(人)			
		受診率 (%) イ(イ/ア)	うち県外 受診		判定区分別内訳(割合(%))			
					A		二次検査対象者	
					A1	エ(エ/ウ)	A2	オ(オ/ウ)
令和2年度 (2020年度) 実施対象市町村計	144,864	29,340 (20.3)	3,908	22,760 (77.6)	7,155 (31.4)	15,379 (67.6)	226 (1.0)	0 (0.0)
令和3年度 (2021年度) 実施対象市町村計	107,986	3,064 (2.8)	508	2,122 (69.3)	689 (32.5)	1,368 (64.5)	65 (3.1)	0 (0.0)
合計	252,850	32,404 (12.8)	4,416	24,882 (76.8)	7,844 (31.5)	16,747 (67.3)	291 (1.2)	0 (0.0)

表2.結節・のう胞の人数・割合(詳細は別表1のとおり)

	結果判定数(人) ア	アに対する結節・のう胞の人数(割合(%))			
		結節		のう胞	
		5.1mm以上 イ(イ/ア)	5.0mm以下 ウ(ウ/ア)	20.1mm以上 エ(エ/ア)	20.0mm以下 オ(オ/ア)
令和2年度 (2020年度) 実施対象市町村計	22,760	226 (1.0)	115 (0.5)	0 (0.0)	15,501 (68.1)
令和3年度 (2021年度) 実施対象市町村計	2,122	65 (3.1)	31 (1.5)	0 (0.0)	1,402 (66.1)
合計	24,882	291 (1.2)	146 (0.6)	0 (0.0)	16,903 (67.9)

- ・小数で表示されている数値は、その下の位で四捨五入を行っている。以降の表も同様である。
- ・5年ごとの節目に検査を行う対象者（平成4年度～平成9年度生まれ）を除いている。節目の検査対象者については、別途、計上する。
- ・平成4年度生まれの対象者（約23,000人）は平成29年度、平成5年度生まれの対象者（約22,000人）は平成30年度、平成6年度生まれの対象者（約22,000人）は平成31年度（令和元年度）、平成7年度生まれの対象者（約21,000人）は令和2年度、平成8年度生まれの対象者（約21,000人）は令和3年度、平成9年度生まれの対象者（約20,000人）は令和4年度に検査を実施する。

(2) 年齢階級別受診率

各年度4月1日時点の年齢階級別の受診率は表3のとおり。

表3.実施対象市町村における年齢階級別受診率

		計	年齢階級別内訳		
			8～11歳	12～17歳	18～24歳
令和2年度(2020年度) 実施対象市町村計	年齢階級 注				
	対象者数(人) ア	144,864	37,067	61,908	45,889
	受診者数(人) イ	29,340	13,397	13,280	2,663
	受診率(%) イ/ア	20.3	36.1	21.5	5.8
令和3年度(2021年度) 実施対象市町村計	年齢階級 注		9～11歳	12～17歳	18～24歳
	対象者数(人) ア	107,986	19,722	45,057	43,207
	受診者数(人) イ	3,064	368	721	1,975
	受診率(%) イ/ア	2.8	1.9	1.6	4.6
合 計	対象者数(人) ア	252,850	56,789	106,965	89,096
	受診者数(人) イ	32,404	13,765	14,001	4,638
	受診率(%) イ/ア	12.8	24.2	13.1	5.2

注 年齢階級は、各年度4月1日時点の年齢。

(3) 本格検査(検査4回目)結果との比較

本格検査(検査5回目)を受診した方の本格検査(検査4回目)結果との比較については表4のとおり。

検査4回目でA判定(A1及びA2判定)と判断された22,668人のうち、検査5回目でA判定(A1及びA2判定)は22,520人(99.3%)、B判定は148人(0.7%)であった。

また、検査4回目でB判定と判断された122人のうち、検査5回目でA判定(A1及びA2判定)は19人(15.6%)、B判定は103人(84.4%)であった。

表4.本格検査(検査4回目)結果との比較

		本格検査 (検査4回目)結果 計 注1	本格検査(検査5回目)結果内訳 注2				
			A		B エ (エ/ア)	C オ (オ/ア)	
			A1 イ (イ/ア)	A2 ウ (ウ/ア)			
本格検査 (検査4回目) 検査結果	A	A1	7,844 (100.0)	5,747 (73.3)	2,073 (26.4)	24 (0.3)	0 (0.0)
		A2	14,824 (100.0)	1,359 (9.2)	13,341 (90.0)	124 (0.8)	0 (0.0)
	B	122 (100.0)	4 (3.3)	15 (12.3)	103 (84.4)	0 (0.0)	
	C	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	受診なし	2,092 (100.0)	734 (35.1)	1,318 (63.0)	40 (1.9)	0 (0.0)	
計		24,882 (100.0)	7,844 (31.5)	16,747 (67.3)	291 (1.2)	0 (0.0)	

注1 上段は検査5回目結果確定者の検査4回目検査結果(人)。検査4回目結果総数の内訳ではない。

注2 上段は検査4回目結果に対する検査5回目の検査結果内訳(人)。下段は割合(%)。

2. 二次検査結果

(1) 二次検査実施状況

令和3年6月30日までに、対象者291人のうち175人(60.1%)が受診し、そのうち144人(82.3%)が二次検査を終了した。

その144人のうち、詳細な検査の結果、15人(A1相当0人とA2相当15人)(10.4%)は、一次検査基準でA1、A2の範囲内であることが確認された(甲状腺に疾病のある方を含む)。129人(89.6%)は、A1・A2相当以外と確認された。

表5.二次検査進捗状況

	対象者数 (人) ア	受診者数(人) 受診率 (%) イ(イ/ア)	結果確定数(人)				
			確定率 (%) ウ(ウ/イ)	A1相当 エ(エ/ウ)	A2相当 オ(オ/ウ)	A1・A2相当以外	
						カ(カ/ウ)	うち細胞診受診者 キ(キ/カ)
令和2年度 (2020年度) 実施対象市町村計	226	143 (63.3)	119 (83.2)	0 (0.0)	13 (10.9)	106 (89.1)	5 (4.7)
令和3年度 (2021年度) 実施対象市町村計	65	32 (49.2)	25 (78.1)	0 (0.0)	2 (8.0)	23 (92.0)	2 (8.7)
合計	291	175 (60.1)	144 (82.3)	0 (0.0)	15 (10.4)	129 (89.6)	7 (5.4)

(2) 細胞診等結果

穿刺吸引細胞診を実施した方のうち、3人が悪性ないし悪性疑いの判定となった。
3人の性別は男性0人、女性3人であった。

表6.細胞診結果

ア 令和2年度(2020年度)実施対象市町村
・悪性ないし悪性疑い 2人 注
・男性：女性 0人：2人
イ 令和3年度(2021年度)実施対象市町村
・悪性ないし悪性疑い 1人 注
・男性：女性 0人：1人
ウ 合計
・悪性ないし悪性疑い 3人 注
・男性：女性 0人：3人

注 手術症例については別表2のとおり。

3. こころのケア・サポート

検査対象者へのこころのケア・サポートとして、次の取組を行っている。

(1) 一次検査のサポートについて

甲状腺検査対象者に対して、公共施設等の一般会場では、検査結果説明ブースにおいて、検査終了後、医師が超音波画像を提示しながら結果の説明を行った。

令和2年4月以降、令和3年6月30日現在で、全会場で検査結果説明ブースを設置し、受診者822人のうち822人（100％）が利用した。

(2) 出張説明会・出前授業について

検査対象者や保護者に対して甲状腺検査の理解を深めるため、出張説明会や出前授業を実施した。

令和2年4月以降、令和3年6月30日現在で、6会場で392人に対して説明等を行った。

なお、延べ人数は15,478人となっている。

(3) 二次検査のサポートについて

福島県立医科大学内にサポートチームを立ち上げ、二次検査対象者に対して、心配や不安へのこころのケア・サポートを行い、その他WEB相談による質問・相談を受け付けるなどの対応を行っている。

なお、本格検査（検査5回目）開始以降、令和3年6月30日現在で、110人のサポートをしており、性別は男性40人、女性70人であった。この方々に延べ169回の相談対応等をしており、その内訳は初回受診時110回（65.1％）、2回目以降受診時59回（34.9％）であった。

また、保険診療移行後についても病院のチームと連携し、継続して支援を行っている。

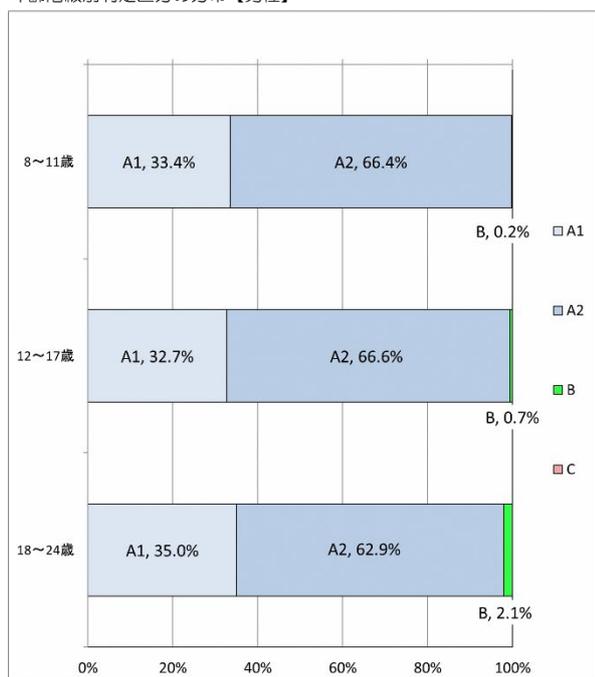
別表1

1 検査結果確定者の年齢及び性別

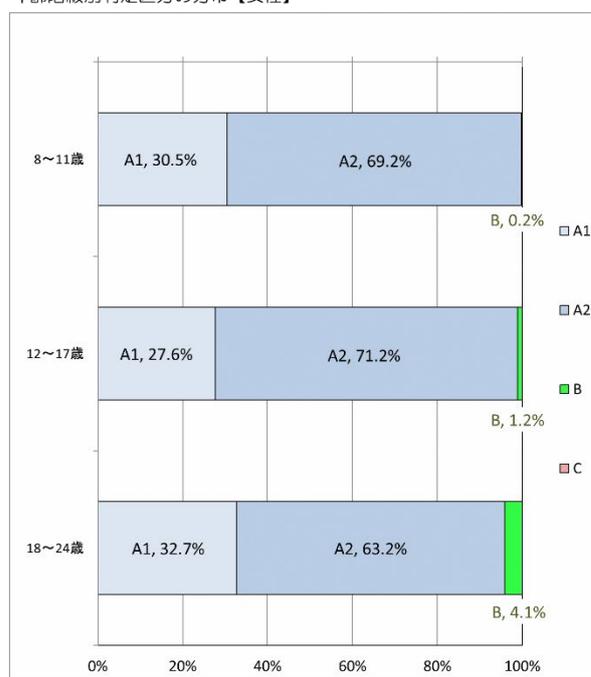
(単位 人)
令和3年6月30日現在

判定・性別 年齢階級	A						B			C			合計		
	A1			A2			男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	男性	女性	計	男性	女性	計									
8～11歳	1,366	1,229	2,595	2,711	2,786	5,497	8	10	18	0	0	0	4,085	4,025	8,110
12～17歳	1,898	1,586	3,484	3,866	4,087	7,953	38	66	104	0	0	0	5,802	5,739	11,541
18～24歳	799	966	1,765	1,433	1,864	3,297	48	121	169	0	0	0	2,280	2,951	5,231
合計	4,063	3,781	7,844	8,010	8,737	16,747	94	197	291	0	0	0	12,167	12,715	24,882

年齢階級別判定区分の分布【男性】



年齢階級別判定区分の分布【女性】

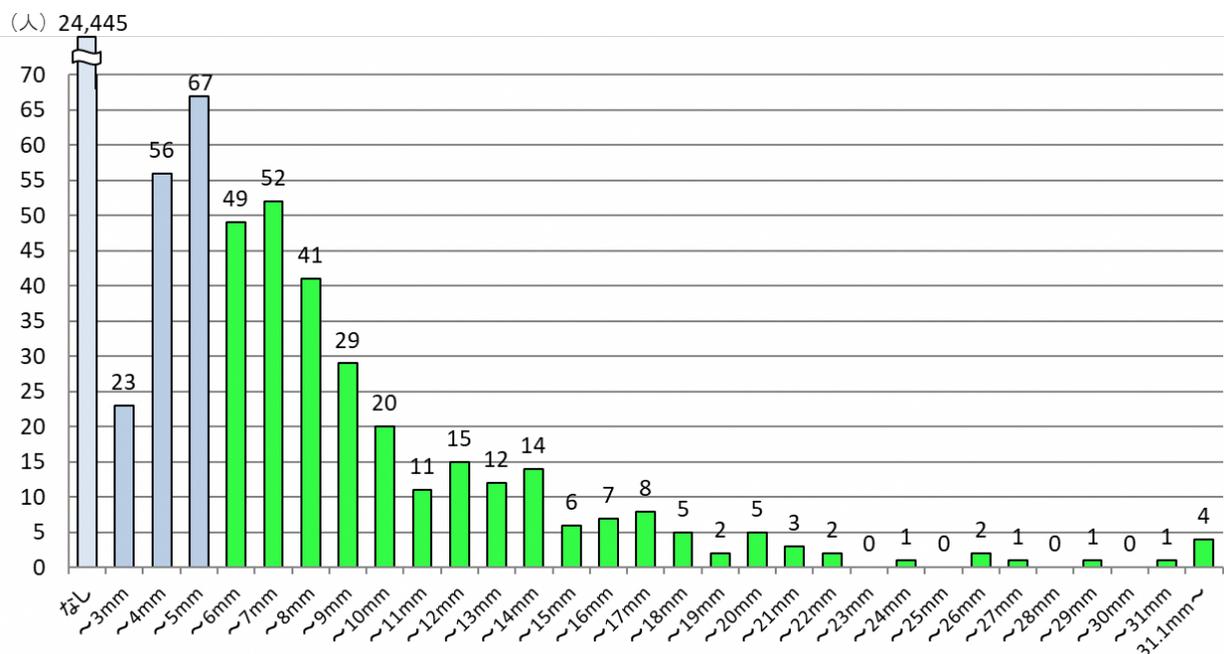
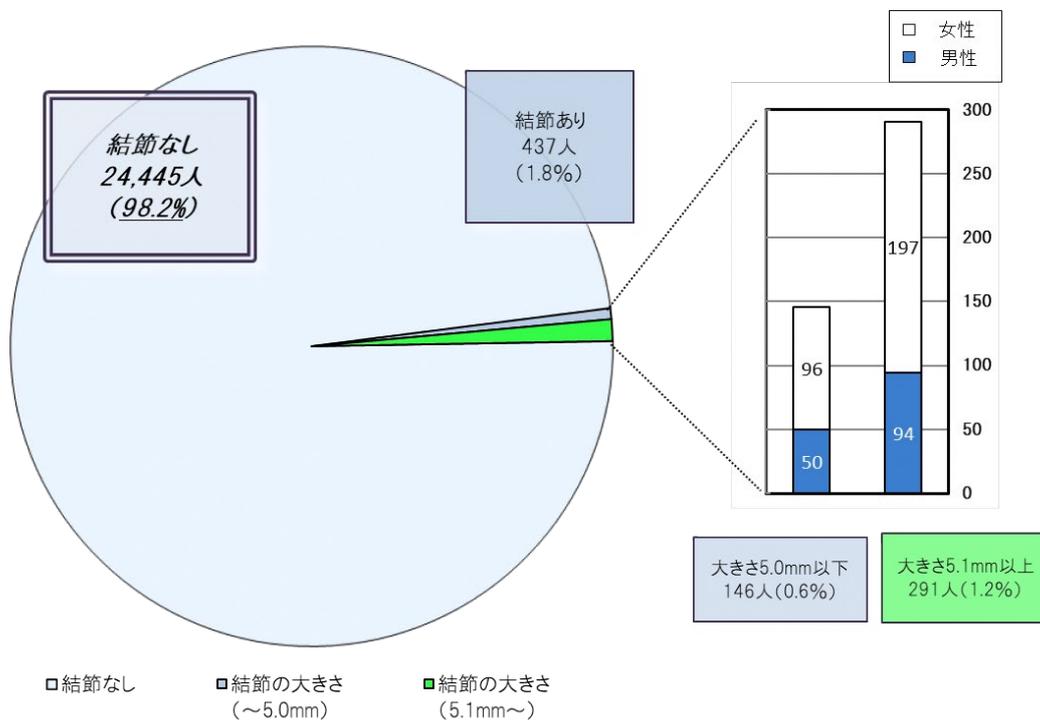


2 結節の有無及び大きさ

(単位 人)

令和3年6月30日現在

結節の有無・大きさ	全体			判定区分	割合
	男性	女性	女性		
なし	24,445	12,023	12,422	A1	98.2%
~3.0mm	23	7	16	A2	0.6%
3.1~5.0mm	123	43	80		
5.1~10.0mm	191	55	136	B	1.2%
10.1~15.0mm	58	20	38		
15.1~20.0mm	27	12	15		
20.1~25.0mm	6	2	4		
25.1mm~	9	5	4		
計	24,882	12,167	12,715		

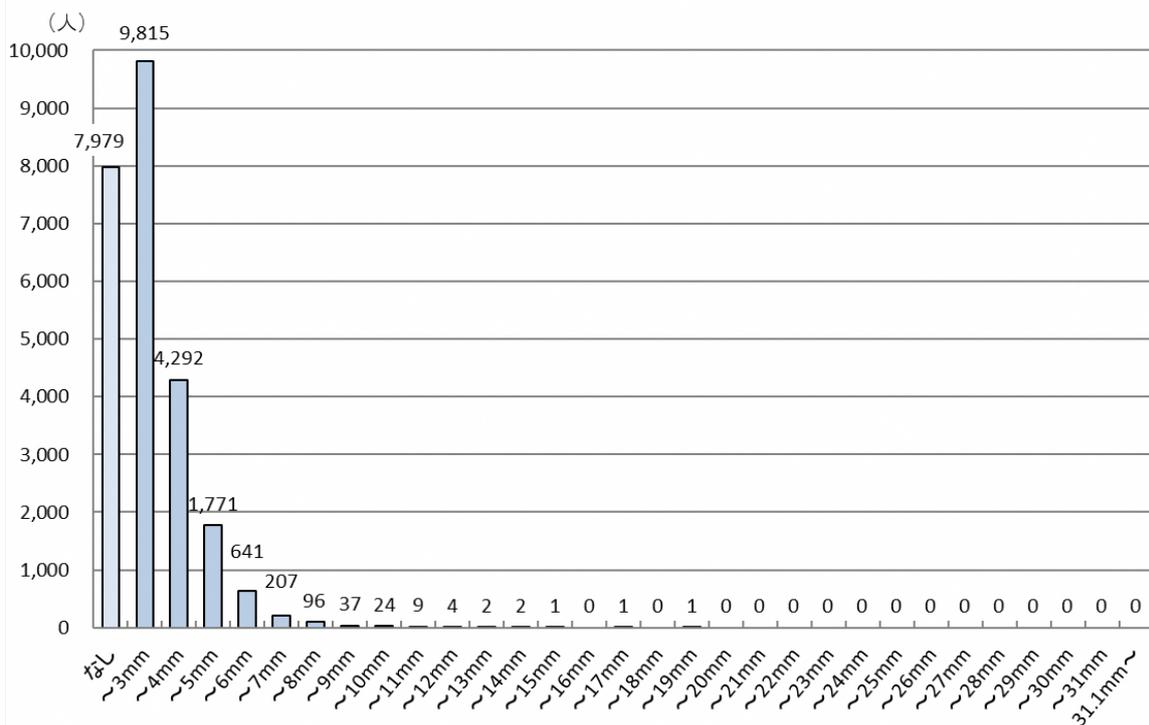
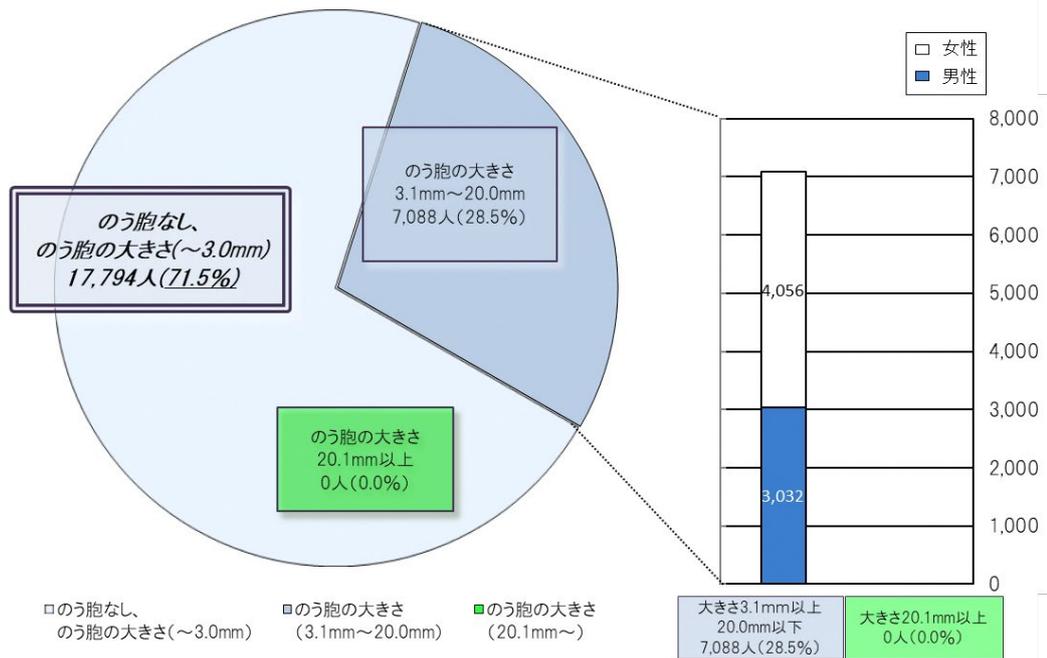


3 のう胞の有無及び大きさ

(単位 人)

令和3年6月30日現在

のう胞の有無・大きさ	全体			判定区分	割合
	男性	女性			
なし	7,979	4,111	3,868	A1	71.5%
～3.0mm	9,815	5,024	4,791	A2	
3.1～5.0mm	6,063	2,682	3,381		
5.1～10.0mm	1,005	345	660		
10.1～15.0mm	18	5	13		
15.1～20.0mm	2	0	2		
20.1～25.0mm	0	0	0	B	0.000%
25.1mm～	0	0	0		
計	24,882	12,167	12,715		



別表 2

悪性ないし悪性疑い者の手術症例

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 令和2年度（2020年度）実施対象市町村 |
| | ・悪性ないし悪性疑い2人（手術実施0人） |
| 2 | 令和3年度（2021年度）実施対象市町村 |
| | ・悪性ないし悪性疑い1人（手術実施1人：乳頭癌1人） |
| 3 | 1～2の合計 |
| | ・悪性ないし悪性疑い3人（手術実施1人：乳頭癌1人） |

「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」の検討事項（案）

令和3年10月15日

- (1) 甲状腺検査の結果の解析・評価について
- (2) 地域がん登録及び全国がん登録情報を活用した分析について
- (3) その他検討委員会が指示した事項

「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」設置要綱

(設置)

第1条 「県民健康調査」検討委員会（以下、「委員会」という。）設置要綱第5条の規定に基づき、「県民健康調査」甲状腺検査について、病理、臨床、疫学等の観点から専門的知見を背景とした議論を深め、適切な評価を行っていくため、「甲状腺検査評価部会」（以下「部会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 部会は、前条の目的を達成するため、次の事項を所掌する。

- (1) 甲状腺検査結果の検証・評価に関すること。
- (2) 甲状腺検査の実施に必要な事項に関すること。
- (3) その他、検討委員会が指示した事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、委員会の座長が指名する委員会の委員及び委員以外の有識者で構成する。

- 2 部会員の任期は、委員会委員と同じくする。
- 3 部会員は、再任されることができる。
- 4 部会に部会長を置き、部会員の互選によってこれを定める。
- 5 部会長は、部会の会務を総理する。
- 6 部会に副部会長を置き、部会長がこれを指名する。
- 7 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、副部会長が、その職務を代理する。

(運営)

第4条 部会の会議は、部会長が招集する。ただし、新たに組織された部会の最初に開催される会議は、委員会の座長が招集する。

- 2 部会長は、部会の会議の議長となる。
- 3 部会長は、必要があると認めるときは、部会の会議に部会員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(報告)

第5条 部会における検討内容等については、直後に開催される検討委員会において、部会長が指名した者が報告を行う。

(事務局)

第6条 部会の庶務は、委員会事務局で行う。

(その他)

第7条 部会の公開、資料及び議事録の取扱いは、委員会運営要領に準じる。

- 2 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」 部会員名簿

50音順 ・ 敬称略

氏名	現職
あさひ しゅうじ 旭 修司	一般財団法人 温知会 会津中央病院 内分泌・乳腺外科 部長 (一般社団法人福島県病院協会 推薦)
いまい つねお 今井 常夫	独立行政法人 国立病院機構 東名古屋病院 名誉院長 (一般社団法人日本内分泌外科学会 推薦)
かたのだ こうた 片野田 耕太	国立研究開発法人 国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計・総合解析研究部 部長
こんどう てつお 近藤 哲夫	国立大学法人 山梨大学 人体病理学 教授 (一般社団法人日本病理学会 推薦)
すずき げん 鈴木 元	国際医療福祉大学クリニック 院長 (一般社団法人日本放射線影響学会 推薦)
そぶえ ともたか 祖父江 友孝	国立大学法人 大阪大学 大学院医学系研究科 社会医学講座 環境医学 教授 (一般社団法人日本疫学会 推薦)
みなみたに かんし 南谷 幹史	帝京大学ちば総合医療センター 小児科学 病院教授 (一般社団法人日本小児内分泌学会 推薦)
むらかみ つかさ 村上 司	医療法人野口記念会 野口病院 院長 (日本甲状腺学会 推薦)

【任期】令和3年8月1日～令和5年7月31日まで

県民健康調査「妊産婦に関する調査」について

令和2年8月
「県民健康調査」検討委員会

県民健康調査「妊産婦に関する調査」については、妊産婦のこころや身体の状態を把握し、不安に寄り添いつつ必要なケアを提供するとともに、今後の福島県内の産科・周産期医療の充実へつなげていくことを目的として、県内市町村から母子健康手帳を交付された方等を対象に平成23年度から実施されている(以下「本調査」という。)。また、調査の結果、支援が必要と判断される方には専任の助産師、保健師等による電話支援等が行われている。

これまでの議論内容を踏まえ、妊産婦に関する調査について、本委員会としての見解を以下に示す。

1 調査結果の概要について**(1) 本調査について**

本調査は対象者に調査票を送付することによるアンケートの形式をとっており、平成23年度から平成30年度の調査結果では、早産率は4.8%から5.8%、低出生体重児出生率は8.9%から10.1%という回答を得たが、これらの人口動態調査における全国平均はそれぞれ5.7%、9.4%と本調査の回答とほとんど変わりがなかった。先天奇形・先天異常発生率は本調査の結果では2.19%から2.85%であったが、一般的には3から5%と報告されている。

母親のメンタルヘルスについて、うつ傾向の割合は平成23年度調査の27.1%から、年々減少し、平成30年度調査では18.4%であった。平成30年度の調査結果からエジンバラ産後うつ指標による産後うつの推定割合は10.2%と算出され、「健やか親子21(母子保健の国民運動計画)」による全国の同指標による産後うつ病疑いの割合は8.4%(平成25年)であった。

調査票の自由記載欄への記載全体のうち、「胎児・子どもへの放射線の影響について」の記載割合は、平成23年度調査では29.6%であったが、年々減少し、平成30年度調査では1.8%であった。

支援実績について、うつ項目による要支援率は平成23年度調査では13.1%であったが、年々減少し、平成30年度調査では6.4%であった。

また、電話支援における相談内容について、平成23年度は「放射線の影響や心配に関すること」の割合が29.2%であったが、年々減少し平成30年度では3.4%となった。平成24年度以降は「母親の心身の状態に関すること」、「子育て関連(生活)のこと」の割合が上位を占めた。

(2) フォローアップ調査について

本調査の結果、震災直後の調査回答者は、特にうつ傾向の割合が高かったことから、出産後4年を経過した方を対象に、こころと身体の状態の経過を伺い、不安の軽減や必要なケアを提供することを目的として、平成27年度(平成23年度フォローアップ調査)から平成30年度(平成26年度フォローアップ調査)までフォローアップ調査を実施した。

調査では、うつ傾向の推移について、平成27年度から順に25.6%(平成23年度本調査27.1%*)、25.7%(平成24年度本調査25.5%*)、23.5%(平成25年度本調査24.5%*)、22.5%(平成26年度本調査23.4%*)という結果であり、平成23・24年度調査回答者のうつ傾向の割合が高かったことから、令和元年度には平成23年度調査回答者を対象に2回目のフォローアップ調査が実施された。令和2年度は平成24年度調査回答者を対象に実施する予定である。

調査後は本調査と同様に、支援が必要と判断される方には専任の助産師、保健師等による電話支援等を行っている。

また、支援実績では、うつ項目による要支援率は平成27年度調査では11.7%であったが、平成30年度調査では9.7%であった。

電話支援における相談内容については、一貫して「母親の心身の状態に関すること」の割合が最も高く、「放射線の影響や心配に関すること」の割合は経年的に減少している。

※()内の数値は4年前の本調査時のうつ傾向の割合。

2 妊産婦等に対する他の調査・支援体制の状況について

福島県においては、県民健康調査「妊産婦に関する調査」以外でも、妊娠成立数と中絶・流産数の調査(福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座)、外表奇形等調査(日本産婦人科医会)等が全県で実施されている状況である。

また、近年、妊産婦等が抱える妊娠出産や子育てに関する悩みや不安に対して、支援やメンタルケアの必要性が全国的にも注目されており、様々な形の産前・産後サポート事業が行われるようになってきている。

本県においても震災以降、妊産婦・乳幼児に対する支援として、妊婦等訪問、乳幼児全戸訪問をはじめとする訪問事業、妊婦連絡票等を活用した支援事業、それぞれの悩みに応じた電話相談窓口の設置など、様々な母子保健事業が県・市町村レベルで展開されている。

さらに、国は令和2年度末までに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を担う子育て世代包括支援センターの全国展開を目指しており、県内市町村においても設置が進められている状況である。(令和元年度末現在、県内59市町村中52市町村で設置済)

3 今後の方向性について

これまでの調査結果では、調査方法が異なり単純な比較はできないものの、県内での早産率、低出生体重児出生率、先天奇形・先天異常の発生率等は全国的な平均等と大きく変わらないが、これらの数値については、今後も他機関が実施する調査等における全国及び本県の数値を注視していく必要がある。

また、支援における電話相談内容について、震災直後に高かった「放射線の影響や心配に関すること」の割合も年度とともに減少し、近年では「母親の心身の状態に関すること」「子育て関連(生活)のこと」の割合が上位を占め、産後うつ等のメンタルヘルスに関連した悩みにシフトしている。

震災以降、県・市町村において、母子保健事業(特に妊産婦のメンタルヘルスに関する事業)が拡充され、子育て世代包括支援センターも既に多くの県内市町村で設置されており、充実した支援体制が構築されていると考えられる。

ただし、うつ傾向が低下傾向にはあるものの本調査、フォローアップ調査の結果から主観的健康感が低い方、うつ傾向の方、及び放射線の影響に不安を持つ方がまだ一定数いることなどは、継続して注視していく必要がある。

これらを踏まえ、本委員会としては、妊産婦に関する調査の今後の方向性として、福島県に対して以下の提案を行う。

- (1) 本調査については、10年目調査にあたる令和2年度調査までとし、以下の対応を講じながら、妊娠期から子育て期まで、総合的な相談対応や支援を継続して行うこと。
 - ア 日本産婦人科医会等が実施している全国的な調査の結果と比較等により、これまでの調査結果の分析、評価等を行い、その結果を県民に対しわかりやすく、丁寧に、積極的に発信していくこと。
 - イ 本調査で得られた知見や支援のノウハウ等を市町村の母子保健事業に携わる方々にフィードバックすることにより、本調査により得られた知識、経験を県・市町村の母子保健事業や子育て世代包括支援センター等の事業に継承し、県内の子育て支援事業の積極的な支援を行っていくこと。
- (2) フォローアップ調査については、令和元年度及び2年度における2回目のフォローアップ調査を踏まえ、今後の調査継続の必要性及び今後の支援方法について検討を継続すること。

平成23年度「妊産婦に関する調査」回答者に対する2回目フォローアップ調査結果報告

1 調査概要

(1) 目的

平成23年度調査回答者への2回目のフォローアップ調査及び支援を実施し、震災時に妊産婦であった方々の継続的な支援を行う。

(2) 経緯

妊産婦調査では、震災時の調査回答者は、特にうつ傾向の割合が高かったことから、育児に自信が無いと感じる母親が増加する時期の出産4年後にあたる平成27年度（平成23年度調査回答者）から平成30年度（平成26年度調査回答者）までフォローアップ調査を実施してきた。

平成23・24年度調査回答者は、放射線に関する不安が強く、うつ傾向が高い状態であり、フォローアップ調査でも同様の傾向がみられたため震災時の影響が懸念された。

一方、平成25・26年度調査回答者は、育児に関する一般的な悩みが多く、フォローアップ調査では、うつ傾向の割合が減少していた。このことから、令和元年度調査においては、平成27年度調査回答者に対する4年後のフォローアップ調査を行うことに替え、平成23年度調査回答者への2回目のフォローアップ（及び支援）を実施した。

(3) 対象者

平成23年度の調査の回答者（流産、中絶、死産を除く）のうち、市町村への照会により母子ともに生存が確認された6,643人

[参考]

実施年度	フォローアップ 発送回数	対象者	対象者数
平成27年度	1回目	平成23年度調査回答者	7,252人
平成28年度		平成24年度調査回答者	5,602人
平成29年度		平成25年度調査回答者	5,734人
平成30年度		平成26年度調査回答者	5,856人
令和元年度	2回目	平成23年度調査回答者	6,643人

(4) 実施方法

ア 調査票：自記式調査票（ハガキ）

イ 調査票送付日：令和2年1月10日

ウ 調査回答方法：郵送及びオンライン

※オンライン回答期間は、令和2年1月10日から令和2年4月30日

(5) 調査項目

調査項目は以下のとおり

お子様の人数（ ）人

一番下のお子様の年齢（ ）歳（ ）カ月

問1 あなたはふだんご自分で健康だと思いますか？

非常に健康だと思う まあ健康な方だと思う あまり健康ではない 健康ではない

問2 ここ最近1ヶ月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか？

はい いいえ

問3 ここ最近1ヶ月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは、心から楽しめない感じがよくありましたか？

はい いいえ

問4 育児に自信がもてないことがありますか？

はい いいえ 何ともいえない

問5 放射線の影響について不安なこと全ての□に✓を記入してください。

□水 □食品 □子どもの外遊び □子どもの健康 □偏見 □遺伝的な影響 □その他

問6 お子様はこれまでに入院を要した病気にかかったことがありますか？

□はい（病名： ） □いいえ

問7 お子様のことで心配なこと全ての□に✓を記入してください。

□こころと身体の発達 □病気 □生活習慣 □学校生活 □その他

(6) 集計対象期間

令和2年1月10日から令和2年8月31日の回答

[参考]

実施年度	調査名	集計対象期間 (オンライン回答受付期間)
平成27年度	平成23年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H23対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成27年9月14日～平成28年5月31日 (オンライン回答は行っていない)
平成28年度	平成24年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H24対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成28年11月22日～平成29年6月30日 (平成28年11月22日～平成29年6月30日)
平成29年度	平成25年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H25対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成30年1月12日～8月31日 (平成30年1月12日～4月30日)
平成30年度	平成26年度調査回答者に対するフォローアップ調査 (以下「H26対象者1回目フォローアップ調査」という。)	平成31年1月11日～令和元年8月31日 (平成31年1月11日～4月30日)
令和元年度	平成23年度調査回答者に対する2回目フォローアップ調査 (以下「H23対象者2回目フォローアップ調査」という。)	令和2年1月10日～令和2年8月31日 (令和2年1月10日～4月30日)

2 集計結果概要

集計結果は、『5 平成23年度対象者2回目フォローアップ調査結果集計(1)、(2)、(3)』のとおり。なお、各項目に欠損値があるため、合計は有効回答者数と一致しない場合がある。

(1) 回答数及び回答率について (参照：表1)

平成23年度対象者2回目フォローアップ調査の回答者数(回答率)は2,354人(35.4%)であった。集計対象とした有効回答者数は2,354人であった(無効回答者数0人)。そのうち、オンライン回答者数(回答率)は713人(30.3%)であった。

[参考]

実施年度	調査名	回答者数(人)			
		全体 回答者数 (回答率)	回答方法の内訳		
			郵送	オンライン	全回答のうち オンライン回答の 占める割合
平成27年度	H23対象者1回目 フォローアップ調査	2,554人 (35.2%)	2,554	-	-
平成28年度	H24対象者1回目 フォローアップ調査	2,021人 (36.1%)	1,719	302	14.9%
平成29年度	H25対象者1回目 フォローアップ調査	2,706人 (47.2%)	2,062	644	23.8%
平成30年度	H26対象者1回目 フォローアップ調査	2,719人 (46.4%)	1,951	768	28.2%
令和元年度	H23対象者2回目 フォローアップ調査	2,354人 (35.4%)	1,641	713	30.3%

(2) 地域別回答者数について（参照：表1）

平成23年度対象者2回目フォローアップ調査の回答者数（回答率）を地域別にみると、県北地域655人（40.4%）、県中地域639人（31.2%）、県南地域125人（28.7%）、相双地域181人（30.4%）、いわき地域447人（38.9%）、会津地域281人（38.7%）、南会津地域26人（37.7%）であった。

[参考]

実施年度	調査名	地域別回答者数（人） （地域別回答率：％）						
		県北	県中	県南	相双	いわき	会津	南会津
平成27年度	H23対象者1回目 フォローアップ調査	679 (38.7)	721 (32.7)	168 (34.1)	256 (34.9)	434 (35.9)	271 (34.5)	25 (34.7)
平成28年度	H24対象者1回目 フォローアップ調査	675 (45.3)	508 (32.2)	165 (36.4)	113 (30.5)	330 (32.5)	212 (33.4)	18 (29.0)
平成29年度	H25対象者1回目 フォローアップ調査	770 (49.4)	716 (47.1)	204 (44.0)	192 (46.6)	479 (46.0)	315 (46.9)	30 (44.1)
平成30年度	H26対象者1回目 フォローアップ調査	753 (51.5)	815 (45.8)	194 (45.9)	175 (41.8)	480 (46.7)	281 (40.5)	21 (38.9)
令和元年度	H23対象者2回目 フォローアップ調査	655 (40.4)	639 (31.2)	125 (28.7)	181 (30.4)	447 (38.9)	281 (38.7)	26 (37.7)

(3) 母親のメンタルヘルスについて（参照：表4～7）

ア 主観的健康感の悪い（「あまり健康ではない」または「健康ではない」と答えた母親の割合は9.8%であった。4年前のH23対象者1回目フォローアップ調査では、9.6%であった。
（問1）

[参考]

	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時	通常調査時
平成23年度 対象者	9.8%	9.6%	該当設問なし
平成24年度 対象者	-	9.3%	3.8%
平成25年度 対象者	-	7.9%	3.7%
平成26年度 対象者	-	7.9%	3.9%

イ うつ傾向ありと判定された母親の割合は24.3%であった。4年前のH23対象者1回目フォローアップ調査では、25.6%であった。（問2、問3）

[参考]

調査名	フォローアップ 2回目調査時	フォローアップ 1回目調査時	通常調査時
平成23年度 対象者	24.3%	25.6%	27.1%
平成24年度 対象者	-	25.7%	25.5%
平成25年度 対象者	-	23.5%	24.5%
平成26年度 対象者	-	22.5%	23.4%

(4) 家庭と育児の状況について（参照：表 8）

育児の自信がもてないことがあると回答した割合は 19.1%であった。4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査では、15.8%であった。（問 4）

[参考]

調査名	フォローアップ 2 回目調査時	フォローアップ 1 回目調査時	通常調査時
平成 23 年度 対象者	19.1%	15.8%	該当設問なし
平成 24 年度 対象者	-	18.2%	15.4%
平成 25 年度 対象者	-	16.7%	17.5%
平成 26 年度 対象者	-	17.7%	16.6%

参考値：平成 22 年乳幼児健康度調査によると、児が 4 歳の時に育児に自信がもてないことがあると回答した割合は 23.0%であった。

(5) 放射線の影響への不安について（参照：表 9）

放射線の影響への不安なことについて、項目にひとつでもチェックした方の割合は 87.2%であった。放射線の影響への不安にチェックをした方の中で、「子どもの健康」について不安があると回答した割合は 68.1%であった。（問 5）

[参考]

実施年度	調査名	放射線の影響への不安に ついて、ひとつでも チェックした割合	放射線の影響への不安に チェックをした方の中で 「子どもの健康」に不安が あるにチェックした割合
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	94.2%	79.5%
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	90.9%	68.7%
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	87.5%	66.3%
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	85.4%	63.3%
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	87.2%	68.1%

(6) 出産した子どもの健康状態・不安について（参照：表 10-1～10-2、表 11）

ア これまでに入院を要した病気にかかったことがある割合は 26.5%であった。入院時の主な疾患は肺炎、RS ウイルス感染症、熱性けいれん、川崎病などであった。（問 6）

[参考]

実施年度	調査名	これまでに入院を要した病気 にかかったことがある割合
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	24.7%
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	24.4%
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	23.7%
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	25.3%
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	26.5%

イ お子様のことで心配なことについて、ひとつでもチェックした方の割合は68.8%であった。(問7)

[参考]

実施年度	調査名	子どものことで心配について、ひとつでもチェックした割合	「こころと身体の発達」にチェックした割合	「病気」にチェックした割合
平成27年度	H23対象者1回目フォローアップ調査	70.8%	56.1%	57.6%
平成28年度	H24対象者1回目フォローアップ調査	66.9%	56.9%	45.5%
平成29年度	H25対象者1回目フォローアップ調査	61.2%	57.4%	40.4%
平成30年度	H26対象者1回目フォローアップ調査	63.4%	56.9%	38.7%
令和元年度	H23対象者2回目フォローアップ調査	68.8%	50.8%	34.3%

(7) 自由記載内容について (参照：表12-1～12-2)

自由記載欄の記載者数(記載割合)は304人(12.9%)であった。記載内容を分類したところ、主な自由記載内容は、「育児相談」、「胎児・子どもへの放射線の影響についての心配」、「本人の身体的不調の訴え」であった。

[参考]

実施年度	調査名	自由記載の記載者数(記載割合)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成27年度	H23対象者1回目フォローアップ調査	383人 (15.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 53(13.8%)	この調査への賛同 47(12.3%)	この調査への意見・苦情 44(11.5%)	放射線についての情報発信や調査結果の公表の要望 37(9.7%)	甲状腺検査への要望 23(6.0%)
平成28年度	H24対象者1回目フォローアップ調査	186人 (9.2%)	この調査への賛同 33(17.7%)	この調査への意見・苦情 24(12.9%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 23(12.4%)	育児相談 17(9.1%)	育児支援サービスの充実の要望 14(7.5%)
平成29年度	H25対象者1回目フォローアップ調査	208人 (7.7%)	この調査への賛同 36(17.3%)	この調査への意見・苦情 25(12.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 24(11.5%)	本人の精神的不調の訴え 16(7.7%)	育児支援サービスの充実の要望 15(7.5%)
平成30年度	H26対象者1回目フォローアップ調査	198人 (7.3%)	この調査への賛同 42(21.2%)	この調査への意見・苦情 26(13.1%)	育児相談 17(8.6%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 14(7.1%)	育児支援サービスの充実の要望 14(7.1%)
令和元年度	H23対象者2回目フォローアップ調査	304人 (12.9%)	育児相談 82(27.0%)	胎児・子どもへの放射線の影響の心配 53(17.4%)	本人の身体的不調の訴え 36(11.8%)	この調査への賛同 28(9.2%)	本人の精神的不調の訴え 26(8.6%)

(8) まとめ

平成 23 年度対象者 2 回目フォローアップ調査では、主観的健康感の悪い方の割合は 4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査と同様であり、うつ傾向、放射線の影響への不安、子どものことで心配の割合は 8 年前の平成 23 年度通常調査、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査と比べて、経年的に減少傾向を示したが、昨年度の平成 26 年度フォローアップ調査を上回った。

- ア 回答率は 35.4%であり、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査と同様の回答率であった。
- イ 主観的健康度の悪い方（あまり健康ではない、健康ではない）の割合は 9.8%であり、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査より上回った。
- ウ うつ傾向は 24.3%であり、8 年前の平成 23 年度通常調査、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査と比べて、経年的に減少傾向を示した。しかし、昨年度の平成 26 年度フォローアップ調査を上回った。
- エ 放射線の影響への不安について、ひとつでもチェックした方の割合は 87.2%であり、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査を下回ったが、昨年度の平成 26 年度フォローアップ調査を上回った。
- オ お子様のことで心配なことについて、ひとつでもチェックした方の割合は 68.8%であり、4 年前の H23 対象者 1 回目フォローアップ調査より下回ったが、昨年度の平成 26 年度フォローアップ調査を上回った。心配の内容としては、「こころと身体の発達」の割合が最も高かった（50.8%）。
- カ 自由記載ありの割合は 12.9%であり、「育児相談」に次いで、「胎児・子どもへの放射線の影響についての心配」が多くみられた。

3 支援概要

(1) 支援目的

平成 23 年度対象者 2 回目フォローアップ調査の回答者のうち、相談・支援の必要があると判断された方に、助産師・保健師等による電話・メールによる相談・支援を実施することにより不安等を軽減させること。

(2) 要支援対象者（参照：表 13）

平成 23 年度対象者 2 回目フォローアップ調査回答者（令和 2 年 1 月 10 日から令和 2 年 8 月 31 日の期間内に回答があった方）のうち、電話による相談・支援が必要だと判断された方（以下「要支援者」という。）

(3) 支援選定基準（参照：表 14）

下記のア、イいずれかに該当する方

ア 調査票のうつ 2 項目に該当のある方（問 2、問 3）

イ 自由記載内容により支援が必要と判断された方（自由記載欄、その他の項目の記載内容）

例：落ち込みの激しい書き込みがあった方、育児支援を必要としている方、放射線の数値について気にしている方、体調不良を訴えている方、直接的要望・具体的に回答を希望している方、支援要望のあった方など

(4) 方法

電話やメールによる相談・支援

4 支援結果概要

支援結果は、『5 平成 23 年度対象者 2 回目フォローアップ調査結果集計 (4) 支援状況』のとおりである。

(1) 要支援者数について（参照：表 13、表 14）

令和 2 年 1 月 10 日から令和 2 年 8 月 31 日の期間内の回答者 2,354 人のうち、電話による相談・支援が必要だと判断された方（要支援者）は 421 人であった。

自由記載内容による支援については、平成 29 年度から、自由記載欄以外にその他の項目の記載内容に具体的な心配の内容を記載している方も支援対象へ加えた。その結果、うつ項目による要支援率は 12.5%、自由記載内容による要支援率は 5.4%であり、合計要支援率は 17.9%となった。

[参考]

実施年度	調査名	回答者数	うつ項目による要支援者数 (要支援率)	自由記載内容による要支援者数 (要支援率)		合計要支援者数 (要支援率)
				自由記載欄内容	その他の項目の記載内容	
平成 27 年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,554	299 (11.7%)	76 (3.0%)	-	375 (14.7%)
平成 28 年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,021	209 (10.3%)	47 (2.3%)	-	256 (12.7%)
平成 29 年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,706	277 (10.2%)	51 (1.9%)	65 (2.4%)	393 (14.5%)
平成 30 年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	2,719	265 (9.7%)	31 (1.1%)	84 (3.1%)	380 (14.0%)
令和元年 度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	2,354	295 (12.5%)	92 (3.9%)	34 (1.4%)	421 (17.9%)

※うつ項目と自由記載内容のいずれにも該当した場合、うつ項目による要支援者数に計上した。

(2) 相談内容について（参照：表 15）

電話での相談内容は、これまでのフォローアップ調査と同様の支援基準によると「母親の心身の状態に関すること」29.2%が最も多く、次いで、「子育て関連（生活）のこと」17.8%であった。

「放射線の影響や心配に関すること」の相談割合は6.5%であった。

[参考]

実施年度	調査名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	要支援者数	
平成27年度	H23 対象者1回目フォローアップ調査（うつつ項目と自由記載欄）	母親の心身の状態に関すること 129(34.4%)	放射線の影響や心配に関すること 96(25.6%)	子育て関連（生活）のこと 81(21.6%)	子どもの心身の健康に関すること 68(18.1%)	家庭生活に関すること 52(13.9%)	375	
平成28年度	H24 対象者1回目フォローアップ調査（うつつ項目と自由記載欄）	母親の心身の状態に関すること 115(44.9%)	子育て関連（生活）のこと 59(23.0%)	子どもの心身の健康に関すること 58(22.7%)	放射線の影響や心配に関すること 34(13.3%)	家庭生活に関すること 27(10.5%)	256	
平成29年度 ※1	H25 対象者1回目フォローアップ調査（うつつ項目と自由記載欄）	母親の心身の状態に関すること 118(36.0%)	子育て関連（生活）のこと 91(27.7%)	家庭生活に関すること 48(14.6%)	放射線の影響や心配に関すること 43(13.1%)	子どもの心身の健康に関すること 32(9.8%)	328	393
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	子育て関連（生活）のこと 30(46.2%)	放射線の影響や心配に関すること 17(26.2%)	子どもの心身の健康に関すること 6(9.2%)	母親の心身の状態に関すること 4(6.2%)	家庭生活に関すること 2(3.1%)	65	
平成30年度 ※1	H26 対象者1回目フォローアップ調査（うつつ項目と自由記載欄）	母親の心身の状態に関すること 78(26.4%)	子育て関連（生活）のこと 36(12.2%)	家庭生活に関すること 19(6.4%)	放射線の影響や心配に関すること 17(5.7%)	子どもの心身の健康に関すること 16(5.4%)	296	380
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	放射線の影響や心配に関すること 19(22.6%)	子育て関連（生活）のこと 9(10.7%)	子どもの心身の健康に関すること 8(9.5%)	母親の心身の状態に関すること 4(4.8%)	家庭生活に関すること 3(3.6%)	84	
令和元年度 ※1	H23 対象者2回目フォローアップ調査（うつつ項目と自由記載欄）	母親の心身の状態に関すること 113(29.2%)	子育て関連（生活）のこと 69(17.8%)	子どもの心身の健康に関すること 39(10.1%)	放射線の影響や心配に関すること 25(6.5%)	家庭生活に関すること 20(5.2%)	387	421
	※2(その他の項目の記載内容による支援)	子どもの心身の健康に関すること 8(23.5%)	子育て関連（生活）のこと 6(17.6%)	母親の心身の状態に関すること 4(11.8%)	放射線の影響や心配に関すること 3(8.8%)	家庭生活に関すること・避難生活に関すること 1(2.9%)	34	

※1 H25 対象者1回目フォローアップ調査以降、支援基準や入力方法（入力フォームや入力者）に変更あり

※2 H25 対象者1回目フォローアップ調査以降で追加

(3) 支援終了の理由について（参照：表 16）

支援終了の理由は、「傾聴（対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了）」217 件（51.5%）、「情報提供・行政窓口を紹介し終了」98 件（23.3%）であった。不在は98 件（23.3%）であった（複数回答あり。割合の分母は要支援者数）。

[参考]

実施年度	調査名	第1位	第2位	第3位	不在
平成27年度	H23 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴* ₁ 197(52.5%)	情報提供* ₂ 105(28.0%)	受診先等あり* ₃ 29(7.7%)	131 (34.9%)
平成28年度	H24 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 159(62.1%)	情報提供 53(20.7%)	受診先等あり 26(10.2%)	70 (27.3%)
平成29年度	H25 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 245(62.3%)	情報提供 133(33.8%)	受診先等あり 66(16.8%)	119 (30.3%)
平成30年度	H26 対象者 1 回目 フォローアップ調査	傾聴 229(60.3%)	情報提供 90(23.7%)	受診先等あり 55(14.5%)	124 (32.6%)
令和元年度	H23 対象者 2 回目 フォローアップ調査	傾聴 217(51.5%)	情報提供 98(23.3%)	受診先等あり 37(8.8%)	98 (23.3%)

*₁ 対象者の話をよく聴き、問題を整理し支援終了、*₂ 適切な情報提供・行政窓口を紹介し支援終了、

*₃ 既に受診先や相談先があることを確認し終了

(4) まとめ

ア うつ項目による要支援率は12.5%であり、昨年度のH26 対象者 1 回目フォローアップ調査を上回った。

イ 初年度、次年度のフォローアップ調査と同様の支援基準（うつ傾向と自由記載欄のみ）によると、相談内容では「母親の心身の状態に関する事」が最も多かった。また、「放射線の影響や心配に関する事」の相談内容の割合は4年前のH23 対象者 1 回目フォローアップ調査を下回ったが、昨年度の平成26年度フォローアップ調査を上回った。

ウ 支援終了の理由は主に「傾聴（対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了）」であった。

5 平成23年度対象者2回目フォローアップ調査結果集計

調査対象者：平成23年度妊産婦調査回答者の中で、出産された方のうち、令和元年9月に母子の生存が確認された6,643人

集計対象者：令和2年1月10日にアンケート送付。令和2年1月10日～令和2年8月31日までに回答のあった2,354人

※割合(%)は、端数処理を行っているため、各項目の%の合計は100%とならないこともある。

(1) 送付数と回答状況

【表1】

地域	送付数		回答者数					
			全体(回答率)		回答方法の内訳			
					郵送		オンライン	
県北	1,620	24.4%	655	(40.4%)	450	68.7%	205	31.3%
県中	2,045	30.8%	639	(31.2%)	447	70.0%	192	30.0%
県南	436	6.6%	125	(28.7%)	92	73.6%	33	26.4%
相双	596	9.0%	181	(30.4%)	125	69.1%	56	30.9%
いわき	1,150	17.3%	447	(38.9%)	312	69.8%	135	30.2%
会津	727	10.9%	281	(38.7%)	194	69.0%	87	31.0%
南会津	69	1.0%	26	(37.7%)	21	80.8%	5	19.2%
合計	6,643	100.0%	2,354	(35.4%)	1,641	69.7%	713	30.3%

(2) 調査項目別集計

回答者2,354人について集計した(無効回答0人)。なお、各項目には、それぞれ無回答・無効回答がある。

【表2】お子様の人数(人)

地域	全体	最小	最大	有効回答
県北	2.4 ± 0.8	1	5	634
県中	2.4 ± 0.9	1	9	617
県南	2.4 ± 0.8	1	5	121
相双	2.5 ± 0.9	1	6	173
いわき	2.4 ± 0.8	1	6	432
会津	2.5 ± 0.9	1	6	273
南会津	2.7 ± 0.7	1	4	25
合計	2.4 ± 0.8	1	9	2,275

【表3】一番下のお子様の年齢(カ月)

地域	全体	最小	最大	有効回答
県北	75.4 ± 28.9	0	110	618
県中	78.2 ± 28.9	0	108	603
県南	74.8 ± 27.1	0	106	118
相双	77.0 ± 28.0	0	107	169
いわき	78.3 ± 27.7	0	110	427
会津	75.2 ± 29.9	0	115	265
南会津	84.5 ± 23.0	21	103	26
合計	76.9 ± 28.6	0	115	2,226

【表4】あなたはふだんご自分で健康だと思いますか？（問1）

主観的健康度の悪い（「あまり健康ではない」または「健康ではない」と答えた）方の割合 9.8%

地域	非常に健康		まあ健康な方		あまり健康ではない		健康ではない		無・無効回答		合計
県北	88	13.4%	492	75.1%	60	9.2%	12	1.8%	3	0.5%	655
県中	102	16.0%	469	73.4%	62	9.7%	5	0.8%	1	0.2%	639
県南	16	12.8%	94	75.2%	13	10.4%	2	1.6%	0	0.0%	125
相双	17	9.4%	141	77.9%	16	8.8%	7	3.9%	0	0.0%	181
いわき	80	17.9%	329	73.6%	28	6.3%	6	1.3%	4	0.9%	447
会津	55	19.6%	206	73.3%	20	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	281
南会津	4	15.4%	22	84.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	26
合計	362	15.4%	1,753	74.5%	199	8.5%	32	1.4%	8	0.3%	2,354

【表5】ここ最近1ヶ月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか？（問2）

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	168	25.6%	483	73.7%	4	0.6%	655
県中	130	20.3%	504	78.9%	5	0.8%	639
県南	29	23.2%	95	76.0%	1	0.8%	125
相双	40	22.1%	135	74.6%	6	3.3%	181
いわき	90	20.1%	349	78.1%	8	1.8%	447
会津	49	17.4%	228	81.1%	4	1.4%	281
南会津	5	19.2%	21	80.8%	0	0.0%	26
合計	511	21.7%	1,815	77.1%	28	1.2%	2,354

【表6】ここ最近1ヶ月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか？（問3）

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	117	17.9%	534	81.5%	4	0.6%	655
県中	89	13.9%	545	85.3%	5	0.8%	639
県南	20	16.0%	104	83.2%	1	0.8%	125
相双	29	16.0%	146	80.7%	6	3.3%	181
いわき	64	14.3%	375	83.9%	8	1.8%	447
会津	34	12.1%	243	86.5%	4	1.4%	281
南会津	2	7.7%	24	92.3%	0	0.0%	26
合計	355	15.1%	1,971	83.7%	28	1.2%	2,354

【表7】うつ傾向（問2、問3の両設問で「はい」またはいずれかに「はい」と答えた方）

地域	両方「はい」		いずれかが「はい」		両方「いいえ」		無・無効回答		合計
県北	99	15.1%	87	13.3%	465	71.0%	4	0.6%	655
県中	73	11.4%	73	11.4%	488	76.4%	5	0.8%	639
県南	18	14.4%	13	10.4%	93	74.4%	1	0.8%	125
相双	27	14.9%	15	8.3%	133	73.5%	6	3.3%	181
いわき	48	10.7%	58	13.0%	333	74.5%	8	1.8%	447
会津	29	10.3%	25	8.9%	223	79.4%	4	1.4%	281
南会津	1	3.8%	5	19.2%	20	76.9%	0	0.0%	26
合計	295	12.5%	276	11.7%	1,755	74.6%	28	1.2%	2,354

※うつ傾向 24.3% [571人（両方「はい」＋いずれかが「はい」）／合計2,354人]

【表 8】 育児に自信がもてないことがありますか？ (問 4)

地域	はい		いいえ		何ともいえない		無・無効回答		合計
県北	139	21.2%	242	36.9%	267	40.8%	7	1.1%	655
県中	109	17.1%	266	41.6%	259	40.5%	5	0.8%	639
県南	24	19.2%	54	43.2%	46	36.8%	1	0.8%	125
相双	26	14.4%	74	40.9%	80	44.2%	1	0.6%	181
いわき	97	21.7%	200	44.7%	149	33.3%	1	0.2%	447
会津	47	16.7%	119	42.3%	113	40.2%	2	0.7%	281
南会津	7	26.9%	8	30.8%	11	42.3%	0	0.0%	26
合計	449	19.1%	963	40.9%	925	39.3%	17	0.7%	2,354

【表 9】 放射線の影響について不安なこと全ての□に✓を記入してください。(問 5)

地域	子どもの健康		偏見		遺伝的な影響		食品		水		子どもの外遊び		その他		有効回答
県北	403	71.3%	267	47.3%	220	38.9%	153	27.1%	128	22.7%	99	17.5%	8	1.4%	565
県中	388	67.5%	261	45.4%	201	35.0%	181	31.5%	170	29.6%	121	21.0%	10	1.7%	575
県南	73	70.9%	44	42.7%	40	38.8%	37	35.9%	30	29.1%	23	22.3%	1	1.0%	103
相双	93	62.8%	73	49.3%	40	27.0%	51	34.5%	40	27.0%	16	10.8%	1	0.7%	148
いわき	274	68.5%	138	34.5%	160	40.0%	166	41.5%	161	40.3%	78	19.5%	6	1.5%	400
会津	155	65.4%	84	35.4%	66	27.8%	94	39.7%	70	29.5%	45	19.0%	2	0.8%	237
南会津	12	50.0%	8	33.3%	8	33.3%	10	41.7%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	24
合計	1,398	68.1%	875	42.6%	735	35.8%	692	33.7%	605	29.5%	382	18.6%	28	1.4%	2,052

※分母は有効回答（□に✓を記入した方）。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

※ひとつでもチェックをした方87.2% [2,052人 / 合計2,354人]

以下の問6、問7は、平成22年8月1日～平成24年4月23日に生まれたお子様についてお尋ねいたします。

【表 10-1】 お子様はこれまでに入院を要した病気にかかったことがありますか？ (問 6)

地域	はい		いいえ		無・無効回答		合計
県北	188	28.7%	459	70.1%	8	1.2%	655
県中	160	25.0%	467	73.1%	12	1.9%	639
県南	35	28.0%	88	70.4%	2	1.6%	125
相双	50	27.6%	130	71.8%	1	0.6%	181
いわき	97	21.7%	348	77.9%	2	0.4%	447
会津	86	30.6%	189	67.3%	6	2.1%	281
南会津	7	26.9%	19	73.1%	0	0.0%	26
合計	623	26.5%	1,700	72.2%	31	1.3%	2,354

【表 10-2】 問 6 の設問(お子様はこれまでに入院を要した病気にかかったことがありますか?)に「はい」と答えた方の病名の内訳(複数回答あり)

肺炎	143	アナフィラキシーショック	3	ネフローゼ症候群	1	神経性やせ症	1
RS ウィルス感染症	69	ヒトメタニューモウィルス	3	ノロウィルス胃腸炎	1	髄膜炎	1
熱性けいれん	40	ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	3	バセドウ病	1	石灰化上皮腫	1
川崎病	39	移動性精巣	3	ファロー四徴症	1	脊髄脂肪腫	1
喘息	29	口唇口蓋裂	3	ペルテス病	1	先天性心疾患	1
気管支炎	28	細気管支炎	3	ヘルニア	1	先天性胆道拡張症	1
胃腸炎	23	周期性嘔吐症	3	ヘルパンギーナ	1	尖足変形	1
鼠径ヘルニア	21	上気道炎	3	マイコプラズマ気管支炎	1	大腸ポリープ	1
マイコプラズマ肺炎	19	心房中隔欠損症	3	リンパ腺炎	1	腸炎	1
ロタウィルス	17	水腎症	3	黄疸	1	腸回転異常症	1
インフルエンザ	12	EB ウィルス感染症	2	拡張型心筋症	1	腸間膜リンパ節炎	1
ノロウィルス	12	イレウス	2	奇形腫	1	低血糖症	1
気管支喘息	12	サイトメガロウィルス感染症	2	急性リンパ性白血病	1	低身長症	1
クループ症候群	9	ヘルペス性歯肉口内炎	2	血管腫	1	停留睾丸	1
扁桃肥大	9	過剰歯	2	血少板減少性紫斑病	1	吐血	1
気管支肺炎	8	感染性胃腸炎	2	股関節炎	1	動脈管開存症	1
RS ウィルス肺炎	7	肝炎	2	股関節脱臼	1	特発性肺出血	1
中耳炎	7	口蓋裂	2	交通事故	1	二分脊椎	1
ロタウィルス胃腸炎	6	好中球減少症	2	甲状腺機能低下症	1	乳頭腫	1
虫垂炎	6	食物アレルギー	2	骨折	1	熱中症	1
けいれん	5	心室心房中隔欠損症	2	骨軟骨腫症	1	脳腫瘍	1
咽頭炎	5	腸重積	2	鎖肛	1	肺高血圧症	1
腎盂腎炎	5	突発性発疹	2	糸球体腎炎	1	不明熱	1
低出生体重児	5	片頭痛	2	紫斑病	1	副咽頭間隙腫瘍	1
停留精巣	5	母斑	2	事故	1	副耳	1
尿路感染症	5	扁桃切除	2	耳下腺炎	1	便秘	1
アデノウィルス	4	滲出性中耳炎	2	斜視	1	蜂窩織炎	1
マイコプラズマ	4	I 型糖尿病	1	小頭症	1	無気肺	1
陰嚢水腫	4	RS 症候群	1	上室性期外収縮	1	無菌性髄膜炎	1
耳瘻孔	4	アデノウィルス肺炎	1	上唇小帯短縮症	1	無呼吸症候群	1
手足口病	4	アレルギー	1	色素失調症	1	遊走精巣	1
脱水症	4	インフルエンザ脳症	1	食中毒	1	溶血性尿毒症	1
溶連菌感染症	4	ウィルス性発疹症	1	心筋緻密化障害	1	流行性耳下腺炎	1
扁桃炎	4	ウエスト症候群	1	心室中隔欠損症	1	腕骨折	1
RS ウィルス気管支炎	3	オムニチトランスカルバミラーゼ欠損症	1	心臓弁開存症	1	扁桃咽頭炎	1
てんかん	3	クラリーノ症候群	1	新生児呼吸窮迫症候群	1	拇趾骨折	1
かぜ症候群	3	ケトン性低血糖症	1	神経芽腫	1	臍ヘルニア	1

【表 11】 お子様のことで心配なこと全ての□に✓を記入してください。(問 7)

地域	こころと身体の発達		学校生活		生活習慣		病気		その他		有効回答
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
県北	270	56.4%	214	44.7%	214	44.7%	134	28.0%	9	1.9%	479
県中	220	48.0%	190	41.5%	183	40.0%	171	37.3%	16	3.5%	458
県南	44	48.9%	42	46.7%	32	35.6%	37	41.1%	2	2.2%	90
相双	46	41.4%	54	48.6%	45	40.5%	39	35.1%	5	4.5%	111
いわき	157	53.2%	129	43.7%	122	41.4%	109	36.9%	6	2.0%	295
会津	81	47.6%	86	50.6%	67	39.4%	59	34.7%	2	1.2%	170
南会津	5	29.4%	6	35.3%	9	52.9%	6	35.3%	0	0.0%	17
合計	823	50.8%	721	44.5%	672	41.5%	555	34.3%	40	2.5%	1,620

※分母は有効回答(□に✓を記入した方)。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

※ひとつでもチェックをした方68.8% [1,620人 / 合計2,354人]

(3) 自由記載

【表 12-1】自由記載ありの割合

地域	あり		なし		合計
県北	85	13.0%	570	87.0%	655
県中	97	15.2%	542	84.8%	639
県南	15	12.0%	110	88.0%	125
相双	19	10.5%	162	89.5%	181
いわき	50	11.2%	397	88.8%	447
会津	31	11.0%	250	89.0%	281
南会津	7	26.9%	19	73.1%	26
合計	304	12.9%	2,050	87.1%	2,354

【表 12-2】自由記載内容の内訳

記載内容	件数	割合
育児相談	82	27.0%
胎児・子どもへの放射線の影響についての心配	53	17.4%
本人の身体的不調の訴え	36	11.8%
この調査への賛同	28	9.2%
本人の精神的不調の訴え	26	8.6%
この調査への意見・苦情	19	6.3%
甲状腺検査への要望について	11	3.6%
情報発信や調査結果の公表への要望について	9	3.0%
人間関係	8	2.6%
除染・遊び場の確保への要望	7	2.3%
育児支援サービスの充実の要望について	7	2.3%
離乳食・食物への放射線の影響についての心配	6	2.0%
外出・外遊びでの放射線の心配	5	1.6%
県民健康調査への要望	5	1.6%
その他の検査調査関係	5	1.6%
経済的な不安・負担に対するもの	4	1.3%
経済的支援の要望	4	1.3%
今回妊娠の転帰との関連	3	1.0%
水への放射線の影響についての心配	1	0.3%
情報の信頼性・不足に対する不安や不満	1	0.3%
家族離散・避難に対する不安や不満	1	0.3%
医療サービスの不足への不安や不満	1	0.3%
健診・検診への要望	1	0.3%
内部被ばく（ホールボディカウンタ等）検査の要望	1	0.3%
避難の支援	1	0.3%
その他	67	22.0%

※複数回答あり。記載内容の割合の分母は、自由記載ありの人数 304 人

(4) 支援状況

平成23年度対象者2回目フォローアップ調査 要支援者数 421人(回答2,354人)(要支援率17.9%)
 支援に対する集計は、令和2年1月10日～令和2年8月31日の回答者(2,354人)を対象に行った。

【表13】 要支援者数

地域	回答者数	要支援者数	
県北	655	129	19.7%
県中	639	116	18.2%
県南	125	22	17.6%
相双	181	34	18.8%
いわき	447	72	16.1%
会津	281	45	16.0%
南会津	26	3	11.5%
合計	2,354	421	17.9%

※回答者数の割合の分母は送付数。要支援者数の割合の分母は回答者数。

【表14】 地域別要支援者の内訳

地域	うつ項目による支援		自由記載内容による支援		合計
県北	99	76.7%	30	23.3%	129
県中	73	62.9%	43	37.1%	116
県南	18	81.8%	4	18.2%	22
相双	27	79.4%	7	20.6%	34
いわき	48	66.7%	24	33.3%	72
会津	29	64.4%	16	35.6%	45
南会津	1	33.3%	2	66.7%	3
合計	295	70.1%	126	29.9%	421

※割合(%)は、端数処理を行っているため、各項目の%の合計は100%とにならないこともある。

【表15】 地域別「主な相談内容」の内訳

地域	母親の心身の状態 に関する事		子育て関連 (生活) の事		子どもの心身の健康 に関する事		放射線の影響や 心配に関する事		家庭生活 に関する事		避難生活 に関する事		その他		要支援者数
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
県北	36	27.9%	22	17.1%	13	10.1%	9	7.0%	5	3.9%	2	1.6%	77	59.7%	129
県中	33	28.4%	21	18.1%	14	12.1%	8	6.9%	9	7.8%	1	0.9%	71	61.2%	116
県南	9	40.9%	3	13.6%	5	22.7%	2	9.1%	2	9.1%	0	0.0%	9	40.9%	22
相双	11	32.4%	8	23.5%	5	14.7%	0	0.0%	1	2.9%	1	2.9%	18	52.9%	34
いわき	21	29.2%	15	20.8%	6	8.3%	8	11.1%	4	5.6%	0	0.0%	44	61.1%	72
会津	6	13.3%	6	13.3%	3	6.7%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	34	75.6%	45
南会津	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	3
合計	117	27.8%	75	17.8%	47	11.2%	28	6.7%	21	5.0%	4	1.0%	254	60.3%	421

※分母は要支援者数。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

【表 16】 支援終了の理由の内訳

	傾聴 ¹⁾		情報提供 ²⁾		受診先等あり ³⁾		受診勧奨 ⁴⁾		こころへ ⁵⁾		Q&A 対応 ⁶⁾		市町村へ ⁷⁾	
県北	64	49.6%	34	26.4%	14	10.9%	6	4.7%	3	2.3%	2	1.6%	0	0.0%
県中	59	50.9%	24	20.7%	9	7.8%	5	4.3%	2	1.7%	2	1.7%	0	0.0%
県南	15	68.2%	4	18.2%	2	9.1%	3	13.6%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
相双	20	58.8%	10	29.4%	3	8.8%	3	8.8%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
いわき	38	52.8%	19	26.4%	5	6.9%	2	2.8%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%
会津	20	44.4%	7	15.6%	3	6.7%	2	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
南会津	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	217	51.5%	98	23.3%	37	8.8%	21	5.0%	7	1.7%	5	1.2%	0	0.0%

	放射線へ ⁸⁾		専門医紹介 ⁹⁾		不在		連絡先不明		拒否		その他		要支援者数
県北	0	0.0%	0	0.0%	27	20.9%	35	27.1%	0	0.0%	2	1.6%	129
県中	0	0.0%	0	0.0%	31	26.7%	23	19.8%	1	0.9%	2	1.7%	116
県南	0	0.0%	0	0.0%	3	13.6%	4	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	22
相双	0	0.0%	0	0.0%	4	11.8%	9	26.5%	0	0.0%	0	0.0%	34
いわき	0	0.0%	0	0.0%	18	25.0%	14	19.4%	0	0.0%	0	0.0%	72
会津	0	0.0%	0	0.0%	13	28.9%	12	26.7%	0	0.0%	0	0.0%	45
南会津	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
合計	0	0.0%	0	0.0%	98	23.3%	97	23.0%	1	0.2%	4	1.0%	421

※分母は要支援者数。内訳は延べ数。複数回答があるため、割合の合計は100.0%にならない。

1) 対象者の話をよく聴き、問題を整理し終了。

2) 対象者へ適切な情報提供・行政窓口を紹介し終了。

3) 対象者に既に受診先や相談先があることを確認し終了。

4) 対象者に医師の診察を受けることを勧めて終了。

5) 対象者の了承を得た上で、対象者の情報をこころの健康支援チーム（医大内）へ繋ぎ終了。

6) 対象者の疑問・質問に回答し終了。

7) 対象者の了承を得た上で、市町村へ繋ぎ終了。

8) 対象者の了承を得た上で、対象者の情報を放射線相談窓口（医大内）へ繋ぎ終了。

9) 専門医（医大内）へ繋ぎ終了。

県民健康調査「甲状腺検査【25歳時の節目の検査】」実施状況

令和3年3月31日現在

I 調査概要

1. 対象者

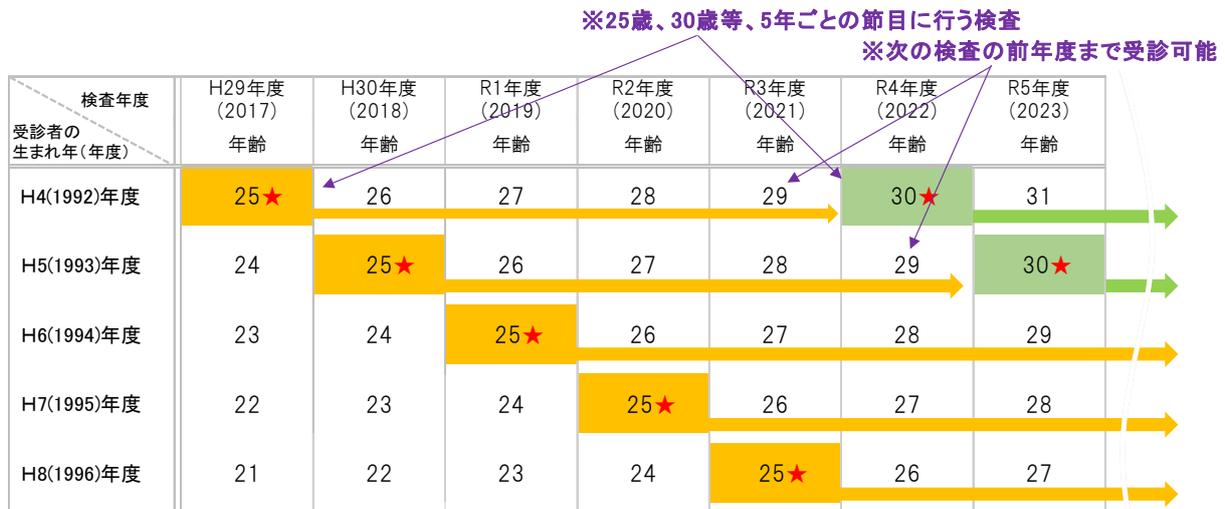
震災時福島県にお住まいの概ね18歳以下であった全県民（平成4年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた福島県民）のうち、各年度25歳を迎える方に検査を実施している。なお、本資料では下記の方について報告を行う。

- ・平成4年度（平成4年4月2日から平成5年4月1日）生まれの方
- ・平成5年度（平成5年4月2日から平成6年4月1日）生まれの方
- ・平成6年度（平成6年4月2日から平成7年4月1日）生まれの方
- ・平成7年度（平成7年4月2日から平成8年4月1日）生まれの方

2. 実施期間

平成29年度から25歳時の節目の検査を開始し、各年度25歳を迎える方に検査を行う。なお、25歳を迎える年に受診できなかった方については、次回の30歳時の節目の検査の前年度まで検査を受診できる（25歳時の節目の検査実施スケジュールは図1のとおり）。

図1. 25歳時の節目の検査実施スケジュール



- ・今後、各年度25歳を迎える対象者に対し検査を実施する。
- ・各年度★の年齢（学年）ごとに検査のお知らせを発送する。

Ⅱ 25歳時の節目の検査結果概要（令和3年3月31日現在）

1. 一次検査結果

（1）一次検査実施状況

平成29年5月から検査を開始し、各年度に年齢が25歳を迎える方（平成4年度～平成7年度生まれ）を対象として、7,621人（8.7%）の検査を実施した。

そのうち、7,260人（95.3%）の受診者について検査結果が確定し、結果通知を発送した。

検査結果はA1判定の方が3,102人（42.7%）、A2判定の方が3,799人（52.3%）、B判定の方が359人（4.9%）、C判定の方は0人であった。

表1.一次検査進捗状況

	対象者数 (人) ア	受診者数(人)		判定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果判定数(人)			
		受診率 (%) イ(イ/ア)	うち県外 受診		判定区分別内訳(割合(%))			
					A		二次検査対象者	
					A1 エ(エ/ウ)	A2 オ(オ/ウ)	B カ(カ/ウ)	C キ(キ/ウ)
平成4年度生まれ 対象者	22,653	2,293 (10.1)	737	2,281 (99.5)	955 (41.9)	1,225 (53.7)	101 (4.4)	0 (0.0)
平成5年度生まれ 対象者	21,890	2,198 (10.0)	792	2,193 (99.8)	990 (45.1)	1,096 (50.0)	107 (4.9)	0 (0.0)
平成6年度生まれ 対象者	22,095	1,636 (7.4)	596	1,595 (97.5)	667 (41.8)	841 (52.7)	87 (5.5)	0 (0.0)
平成7年度生まれ 対象者	21,056	1,494 (7.1)	382	1,191 (79.7)	490 (41.1)	637 (53.5)	64 (5.4)	0 (0.0)
合計	87,694	7,621 (8.7)	2,507	7,260 (95.3)	3,102 (42.7)	3,799 (52.3)	359 (4.9)	0 (0.0)

表2.結節・のう胞の人数・割合（詳細は別表1のとおり）

	結果判定数(人) ア	アに対する結節・のう胞の人数(割合(%))			
		結節		のう胞	
		5.1mm以上 イ(イ/ア)	5.0mm以下 ウ(ウ/ア)	20.1mm以上 エ(エ/ア)	20.0mm以下 オ(オ/ア)
平成4年度生まれ 対象者	2,281	100 (4.4)	48 (2.1)	1 (0.0)	1,271 (55.7)
平成5年度生まれ 対象者	2,193	107 (4.9)	38 (1.7)	0 (0.0)	1,142 (52.1)
平成6年度生まれ 対象者	1,595	87 (5.5)	33 (2.1)	0 (0.0)	890 (55.8)
平成7年度生まれ 対象者	1,191	63 (5.3)	20 (1.7)	1 (0.1)	669 (56.2)
合計	7,260	357 (4.9)	139 (1.9)	2 (0.0)	3,972 (54.7)

- ・小数で表示されている数値は、その下の位で四捨五入している。以降の表も同様である。
- ・25歳時の節目に検査を行う対象者及び受診者については、今後、各年度分を追加して計上する。

(2) 前回検査結果との比較

25歳時の節目の検査を受診した方の前回結果との比較については、表3のとおり。

前回検査でA判定（A1及びA2判定）と判断された4,507人のうち、25歳時の節目の検査でA判定（A1及びA2判定）は4,395人（97.5%）、B判定は112人（2.5%）であった。

また、前回検査でB判定と判断された151人のうち、25歳時の節目の検査でA判定（A1及びA2判定）は41人（27.2%）、B判定は110人（72.8%）であった。

表3.前回検査結果との比較

		前回検査結果 計 注1	25歳の節目の検査結果内訳 注2			
			A		B	C
			A1 イ (イ/ア)	A2 ウ (ウ/ア)		
前回 検査 結果	A1	1,803 (100.0)	1,471 (81.6)	316 (17.5)	16 (0.9)	0 (0.0)
	A2	2,704 (100.0)	440 (16.3)	2,168 (80.2)	96 (3.6)	0 (0.0)
	B	151 (100.0)	4 (2.6)	37 (24.5)	110 (72.8)	0 (0.0)
	C	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	受診なし	2,602 (100.0)	1,187 (45.6)	1,278 (49.1)	137 (5.3)	0 (0.0)
計		7,260 (100.0)	3,102 (42.7)	3,799 (52.3)	359 (4.9)	0 (0.0)

注1 上段は25歳時の節目の検査結果確定者の前回検査結果（人）。

注2 上段は前回検査結果に対する25歳時の節目の検査結果内訳（人）。下段は割合（%）。

2. 二次検査結果

(1) 二次検査実施状況

対象者 359 人のうち 239 人 (66.6%) が受診し、そのうち 227 人 (95.0%) が二次検査を終了した (地域別二次検査実施状況は別表 5 のとおり)。

その 227 人のうち、詳細な検査の結果、17 人 (A1 相当の 1 人と A2 相当の 16 人) (7.5%) は、一次検査基準で A1、A2 の範囲内であることが確認された (甲状腺に疾病のある方を含む)。210 人 (92.5%) は A1・A2 相当以外と確認された。

表 4.二次検査進捗状況

	対象者数 (人)	受診者数(人) 受診率 (%)	結果確定数(人)				
			確定率 (%)	A1相当	A2相当	A1・A2相当以外	
						うち細胞診受診者	
ア	イ(イ/ア)	ウ(ウ/イ)	エ(エ/ウ)	オ(オ/ウ)	カ(カ/ウ)	キ(キ/カ)	
平成4年度生まれ 対象者	101	82 (81.2)	79 (96.3)	0 (0.0)	3 (3.8)	76 (96.2)	8 (10.5)
平成5年度生まれ 対象者	107	88 (82.2)	86 (97.7)	0 (0.0)	7 (8.1)	79 (91.9)	6 (7.6)
平成6年度生まれ 対象者	87	65 (74.7)	62 (95.4)	1 (1.6)	6 (9.7)	55 (88.7)	3 (5.5)
平成7年度生まれ 対象者	64	4 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	359	239 (66.6)	227 (95.0)	1 (0.4)	16 (7.0)	210 (92.5)	17 (8.1)

(2) 細胞診等結果

穿刺吸引細胞診を実施した方のうち、9 人が悪性ないし悪性疑いの判定となった。

9 人の性別は男性 2 人、女性 7 人であった。また、二次検査時点での年齢は 24 歳から 27 歳 (平均年齢は 25.2 ± 0.8 歳)、腫瘍の大きさは 9.4 mm から 49.9 mm (平均腫瘍径は 20.2 ± 14.4 mm) であった。

なお、9 人の前回検査の結果は、A2 判定が 1 人、B 判定が 2 人、未受診が 6 人であった。

表 5.細胞診結果(平均年齢と平均腫瘍径の()内は範囲を示す)

25 歳時の節目の検査対象者	
・悪性ないし悪性疑い	9 人 注
・男性：女性	2 人：7 人
・平均年齢	25.2 ± 0.8 歳 (24-27 歳)、震災当時 17.0 ± 0.7 歳 (16-18 歳)
・平均腫瘍径	20.2 ± 14.4 mm (9.4-49.9 mm)

注 手術症例については別表 2 のとおり。

3. こころのケア・サポート

(1) 一次検査におけるサポートについて

平成29年4月から公共施設等の一般会場での一次検査では検査結果説明ブースを設置し、検査終了後、医師が超音波画像を提示しながら、結果を説明している。令和3年3月31日現在で、検査結果説明ブースを利用した方は受診者601人のうち600人(99.8%)であった。

(2) 二次検査におけるサポートについて

福島県立医科大学内にサポートチームを立ち上げ、二次検査対象者に対して、心配や不安へのこころのケア・サポートを行い、その他WEB相談による質問・相談を受け付けるなどの対応を行っている。

なお、25歳時の節目の検査開始以降、令和3年3月31日現在で、80人のサポートをしており、性別は男性19人、女性61人であった。この方々に延べ155回の相談対応等をしており、その内訳は初回受診時80回(51.6%)、2回目以降受診時75回(48.4%)であった。

また、保険診療移行後についても病院のチームと連携し、継続して支援を行っている。

別表 1

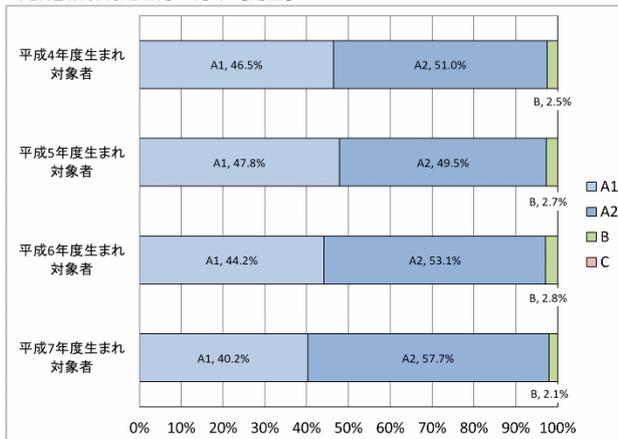
1 検査結果確定者の性別

(単位 人)

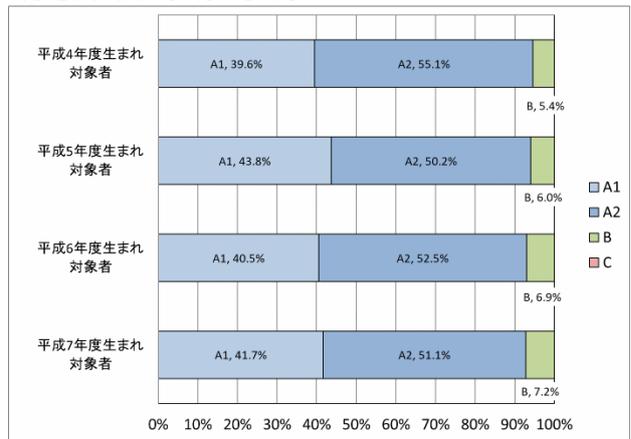
令和3年3月31日現在

判定・性別 対象者	A						B			C			合計		
	A1			A2			男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	男性	女性	計	男性	女性	計									
平成4年度生まれ対象者	353	602	955	387	838	1,225	19	82	101	0	0	0	759	1,522	2,281
平成5年度生まれ対象者	356	634	990	368	728	1,096	20	87	107	0	0	0	744	1,449	2,193
平成6年度生まれ対象者	253	414	667	304	537	841	16	71	87	0	0	0	573	1,022	1,595
平成7年度生まれ対象者	173	317	490	248	389	637	9	55	64	0	0	0	430	761	1,191
合計	1,135	1,967	3,102	1,307	2,492	3,799	64	295	359	0	0	0	2,506	4,754	7,260

年齢階級別判定区分の分布【男性】



年齢階級別判定区分の分布【女性】

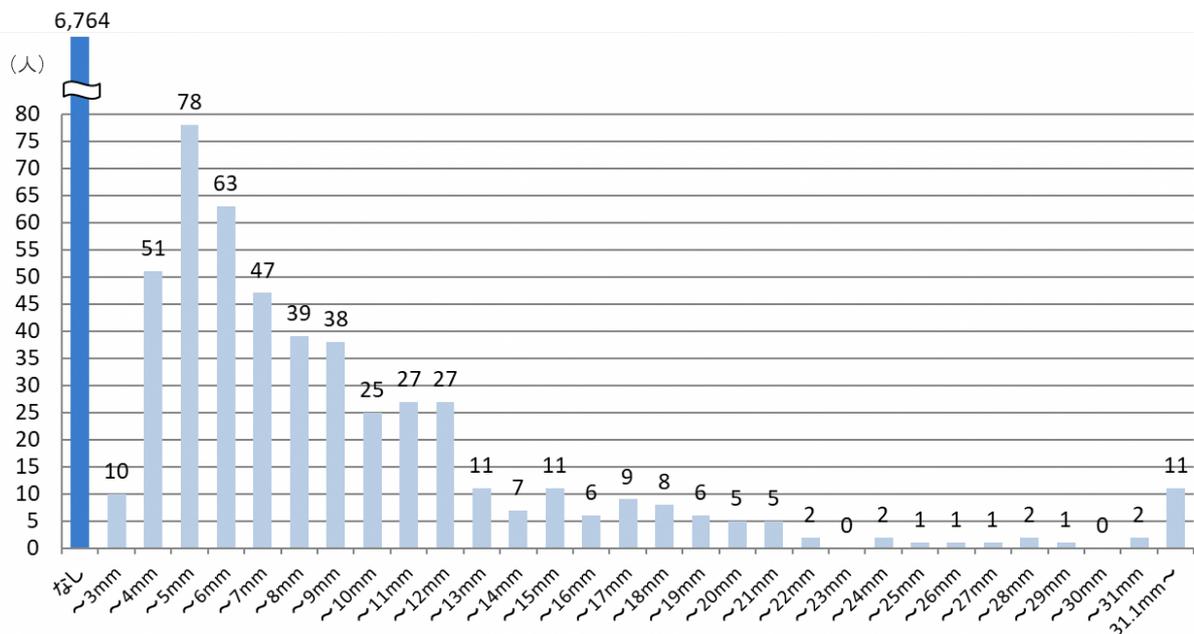
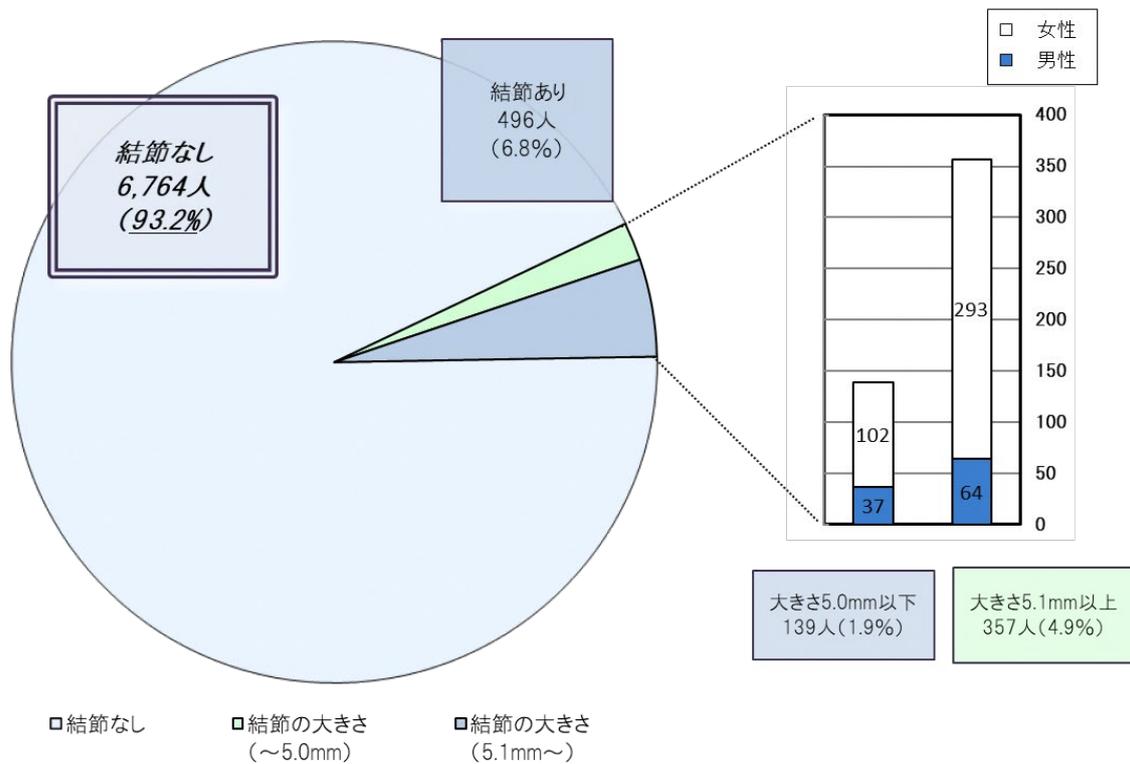


2 結節の有無及び大きさ

(単位 人)

令和3年3月31日現在

結節の有無・大きさ	全体		判定区分	割合
	男性	女性		
なし	6,764	2,405	A1	93.2%
～3.0mm	10	2	A2	1.9%
3.1～5.0mm	129	35		
5.1～10.0mm	212	38	B	4.9%
10.1～15.0mm	83	18		
15.1～20.0mm	34	4		
20.1～25.0mm	10	3		
25.1mm～	18	1		
計	7,260	2,506		

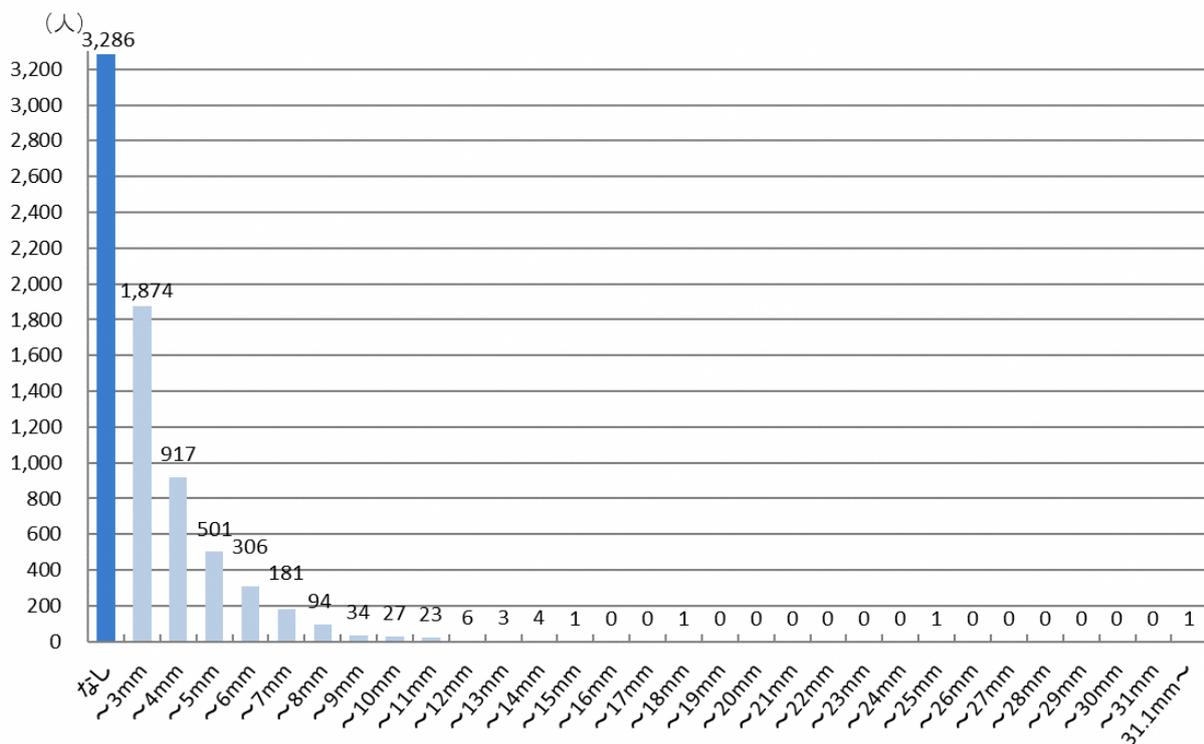
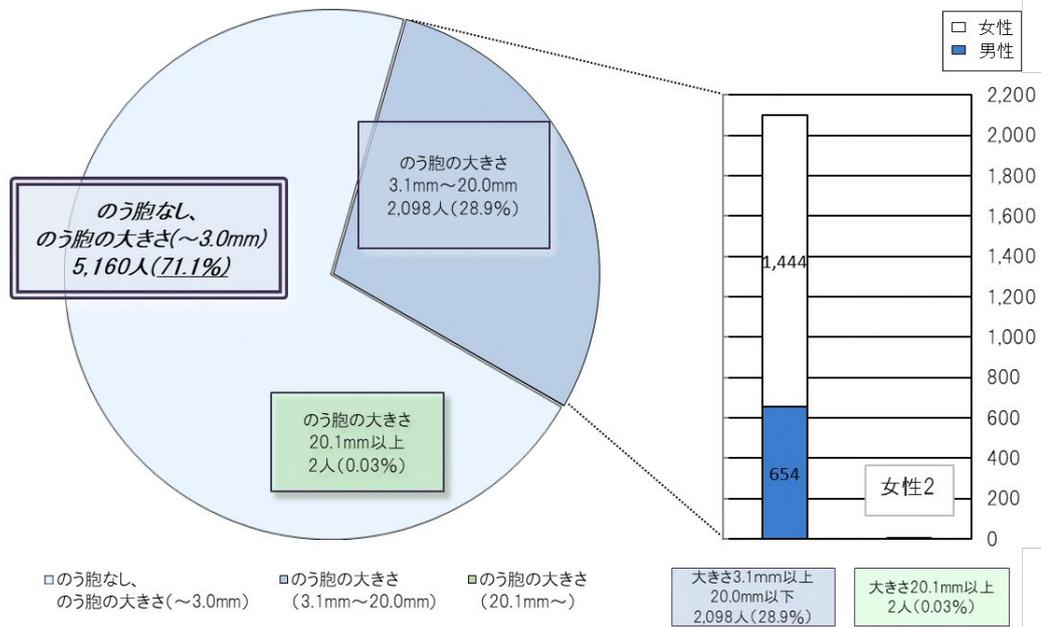


3 のう胞の有無及び大きさ

(単位 人)

令和3年3月31日現在

のう胞の有無・大きさ	全体		判定区分	割合
	男性	女性		
なし	3,286	1,183	A1	71.1%
～3.0mm	1,874	669	A2	
3.1～5.0mm	1,418	472		
5.1～10.0mm	642	175		467
10.1～15.0mm	37	6		31
15.1～20.0mm	1	1	0	28.9%
20.1～25.0mm	1	0	1	
25.1mm～	1	0	1	
計	7,260	2,506	4,754	0.03%



別表 2

悪性ないし悪性疑い者の手術症例

25 歳時の節目の検査対象者

- ・悪性ないし悪性疑い 9 人（手術実施 6 人：乳頭癌 5 人、濾胞癌 1 人）

甲状腺検査結果の状況

1 先行検査（平成 30 年 3 月 31 日現在）【実施年度：平成 23 年度～25 年度】

一次検査（平成 27 年 4 月 30 日検査終了）

- ・ 対象者数 367,637 人
- ・ 受診者数 300,472 人（受診率 81.7%）
- ・ 結果判定数 300,472 人（判定率 100.0%）
- ・ 判定区分別内訳

A 判定（A 1）	： 154,605 人（51.5%）
（A 2）	： 143,573 人（47.8%）
B 判定	： <u>2,293 人（0.8%）</u>
C 判定	： <u>1 人（0.0%）</u>

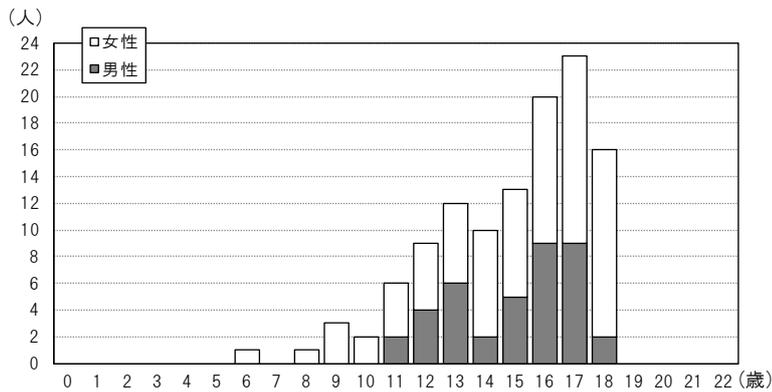
二次検査（平成 30 年 3 月 31 日現在）

- ・ 対象者数 2,293 人
 - ・ 受診者数 2,130 人（受診率 92.9%）
 - ・ 結果確定数 2,091 人（確定率 98.2%）
- うち、穿刺吸引細胞診実施は 547 人

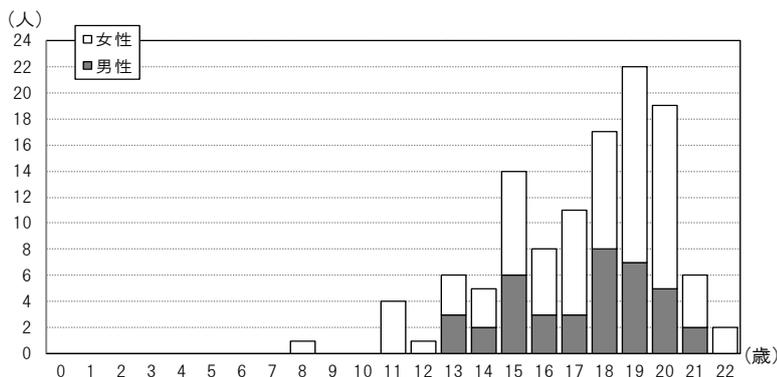
穿刺吸引細胞診等結果概要	
・ 悪性ないし悪性疑い	116 人
・ 男性：女性	39 人：77 人
・ 平均年齢	17.3±2.7 歳（8-22 歳）、震災当時 14.9±2.6 歳（6-18 歳）
・ 平均腫瘍径	13.9±7.8 mm（5.1-45.0 mm）

◇ 細胞診で悪性ないし悪性疑いであった 116 人の年齢、性分布

[平成 23 年 3 月 11 日時点の年齢による分布]



[二次検査時点の年齢による分布]



2 本格検査（検査2回目）（令和3年3月31日現在）【実施年度：平成26年度～27年度】

一次検査

- 対象者数 381,237人
- 受診者数 270,552人（受診率 71.0%）
- 結果判定数 270,552人（判定率 100.0%）
- 判定区分別内訳

A判定 (A1)	: 108,726人 (40.2%)
(A2)	: 159,596人 (59.0%)
B判定	: 2,230人 (0.8%)
C判定	: 0人 (0.0%)

二次検査

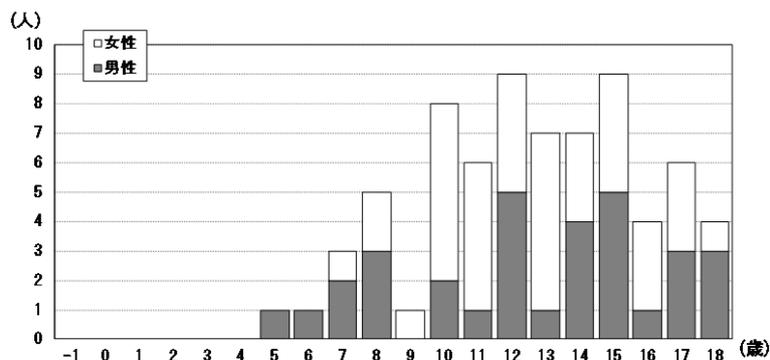
- 対象者数 2,230人
- 受診者数 1,877人（受診率 84.2%）
- 結果確定数 1,834人（確定率 97.7%）
- うち、穿刺吸引細胞診実施は207人

穿刺吸引細胞診等結果概要

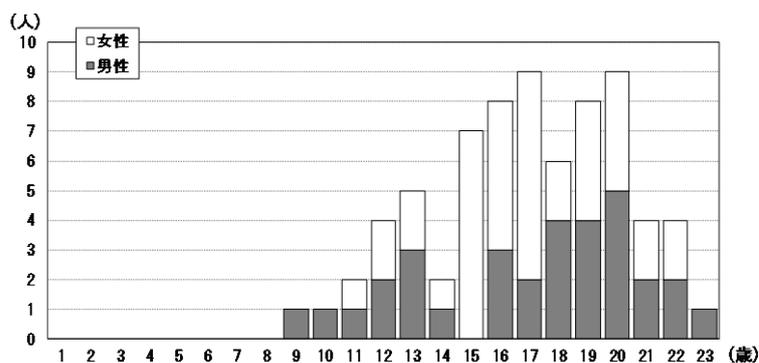
- 悪性ないし悪性疑い 71人
- 男性：女性 32人：39人
- 平均年齢 16.9±3.2歳（9-23歳）、震災当時12.6±3.2歳（5-18歳）
- 平均腫瘍径 11.1±5.6mm（5.3-35.6mm）

◇ 細胞診で悪性ないし悪性疑いであった71人の年齢、性分布

[平成23年3月11日時点の年齢による分布]



[二次検査時点の年齢による分布]



3 本格検査（検査3回目）（令和3年3月31日現在）【実施年度：平成28年度～29年度】

一次検査

- 対象者数 336,667人
(25歳時の節目の検査対象者である平成4・5年度生まれを除く)
- 受診者数 217,922人 (受診率 64.7%)
- 結果判定数 217,922人 (判定率 100.0%)
- 判定区分別内訳

A判定 (A1)	: 76,431人 (35.1%)
(A2)	: 139,989人 (64.2%)
B判定	: 1,502人 (0.7%)
C判定	: 0人 (0.0%)

二次検査

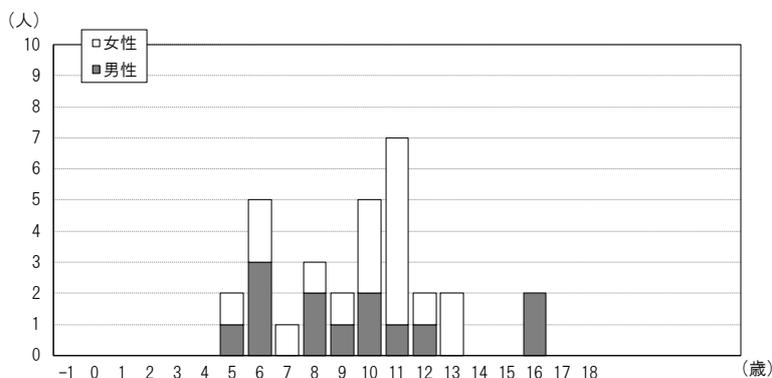
- 対象者数 1,502人
 - 受診者数 1,104人 (受診率 73.5%)
 - 結果確定数 1,068人 (確定率 96.7%)
- うち、穿刺吸引細胞診実施は79人

穿刺吸引細胞診等結果概要

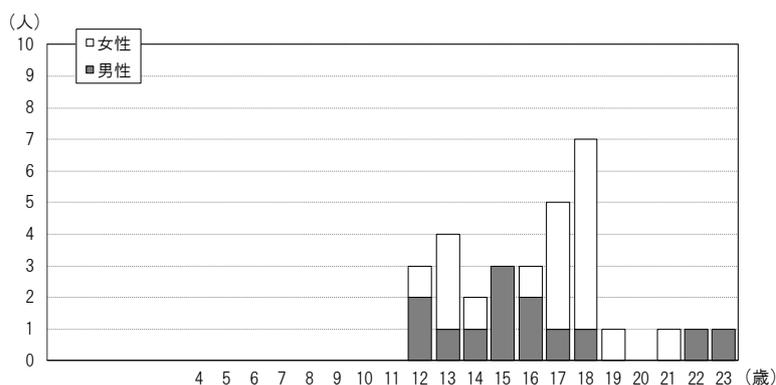
- 悪性ないし悪性疑い 31人
- 男性：女性 13人：18人
- 平均年齢 16.3±2.9歳 (12-23歳)、震災当時9.6±2.9歳 (5-16歳)
- 平均腫瘍径 12.9±6.4mm (5.6-33.0mm)

◇ 細胞診で悪性ないし悪性疑いであった31人の年齢、性分布

[平成23年3月11日時点の年齢による分布]



[二次検査時点の年齢による分布]



4 本格検査（検査4回目）（令和3年6月30日現在）【実施年度：平成30年度～令和元年度】

一次検査

- 対象者数 294,237人
(25歳時の節目の検査対象者である平成4～7年度生まれを除く)
- 受診者数 183,352人 (受診率 62.3%)
- 結果判定数 183,338人 (判定率 100.0%)
- 判定区分別内訳

A判定 (A1)	: 61,691人 (33.6%)
(A2)	: 120,256人 (65.6%)
B判定	: 1,391人 (0.8%)
C判定	: 0人 (0.0%)

二次検査

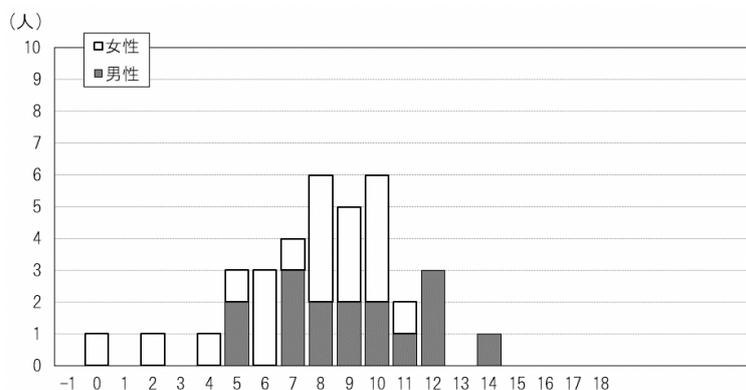
- 対象者数 1,391人
- 受診者数 1,021人 (受診率 73.4%)
- 結果確定数 991人 (確定率 97.1%)
うち、穿刺吸引細胞診実施は87人

穿刺吸引細胞診等結果概要

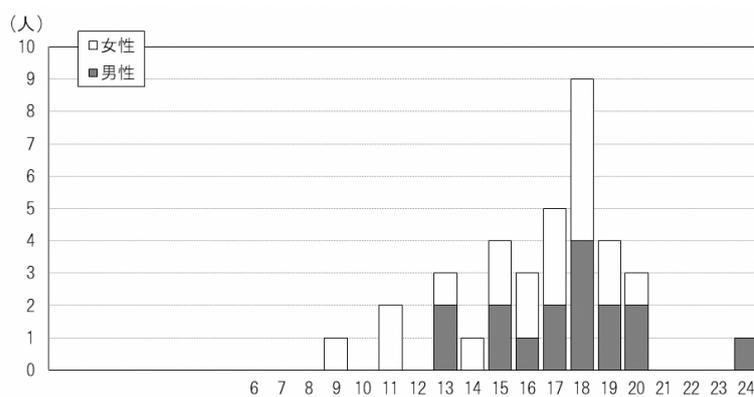
- 悪性ないし悪性疑い 36人
- 男性：女性 16人：20人
- 平均年齢 16.6±3.0歳 (9-24歳)、震災当時8.1±2.9歳 (0-14歳)
- 平均腫瘍径 13.3±6.4mm (6.1-29.4mm)

◇ 細胞診で悪性ないし悪性疑いであった36人の年齢、性分布

[平成23年3月11日時点の年齢による分布]



[二次検査時点の年齢による分布]



5 本格検査（検査5回目）（令和3年6月30日現在）【実施年度：令和2年度～4年度】

一次検査

- 対象者数 252,850 人
(25歳時の節目の検査対象者である平成4～9年度生まれを除く)
- 受診者数 32,404 人 (受診率 12.8%)
- 結果判定数 24,882 人 (判定率 76.8%)
- 判定区分別内訳

A判定 (A1) :	7,844 人 (31.5%)
(A2) :	16,747 人 (67.3%)
B判定 :	<u>291 人 (1.2%)</u>
C判定 :	<u>0 人 (0.0%)</u>

二次検査

- 対象者数 291 人
- 受診者数 175 人 (受診率 60.1%)
- 結果確定数 144 人 (確定率 82.3%)
うち、穿刺吸引細胞診実施は7人

穿刺吸引細胞診等結果概要

- 悪性ないし悪性疑い 3人
- 男性：女性 0人：3人

6 25歳時の節目の検査（令和3年3月31日現在）【実施年度：平成29年度～】

一次検査

- 対象者数 87,694 人 (平成4年度・5年度・6年度・7年度生まれ)
- 受診者数 7,621 人 (受診率 8.7%)
- 結果判定数 7,260 人 (判定率 95.3%)
- 判定区分別内訳

A判定 (A1) :	3,102 人 (42.7%)
(A2) :	3,799 人 (52.3%)
B判定 :	<u>359 人 (4.9%)</u>
C判定 :	<u>0 人 (0.0%)</u>

二次検査

- 対象者数 359 人
- 受診者数 239 人 (受診率 66.6%)
- 結果確定数 227 人 (確定率 95.0%)
うち、穿刺吸引細胞診実施は17人

穿刺吸引細胞診等結果概要

- 悪性ないし悪性疑い 9人
- 男性：女性 2人：7人
- 平均年齢 25.2±0.8 歳 (24-27 歳)、震災当時17.0±0.7 歳 (16-18 歳)
- 平均腫瘍径 20.2±14.4 mm (9.4-49.9 mm)

(参考) 悪性ないし悪性疑いと判定された人数及び手術症例等

先行検査から本格検査（検査5回目）及び25歳時の節目の検査までの状況

悪性ないし悪性疑いの判定数 266人

うち 手術実施 222人

(良性結節1人、乳頭癌218人、低分化癌1人、濾胞癌1人、その他の甲状腺癌1人)

先行検査 H30.3.31 現在 【実施年度：平成23年度～25年度】

計 116人 (男性39人：女性77人)

(手術実施102人：良性結節1人、乳頭癌100人、低分化癌1人)

本格検査（検査2回目）R3.3.31 現在 【実施年度：平成26年度～27年度】

計 71人 (男性32人：女性39人)

(手術実施55人：乳頭癌54人、その他の甲状腺癌1人)

本格検査（検査3回目）R3.3.31 現在 【実施年度：平成28年度～29年度】

計 31人 (男性13人：女性18人)

(手術実施29人：乳頭癌29人)

本格検査（検査4回目）R3.6.30 現在 【実施年度：平成30年度～令和元年度】

・平成30年度実施対象市町村 20人 (男性10人：女性10人)

(手術実施15人：乳頭癌15人)

・令和元年度実施対象市町村 16人 (男性6人：女性10人)

(手術実施14人：乳頭癌14人)

計 36人 (男性16人：女性20人)

(手術実施29人：乳頭癌29人)

本格検査（検査5回目）R3.6.30 現在 【実施年度：令和2年度～4年度】

・令和2年度実施対象市町村 2人 (男性0人：女性2人)

(手術実施0人)

・令和3年度実施対象市町村 1人 (男性0人：女性1人)

(手術実施1人：乳頭癌1人)

計 3人 (男性0人：女性3人)

(手術実施1人：乳頭癌1人)

25歳時の節目の検査 R3.3.31 現在 【実施年度：平成29年度～】

計 9人 (男性2人：女性7人)

(手術実施6人：乳頭癌5人、濾胞癌1人)